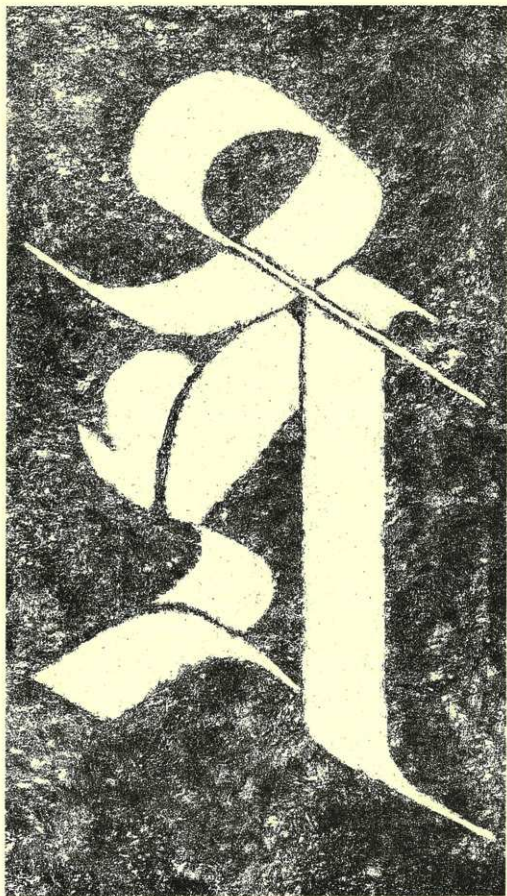


豊後國國東郷の調査

資料編



大分県立歴史博物館

2008

はじめに

本書は、平成一六年に開始した国庫補助事業「国東半島莊園村落遺跡詳細分布調査」の報告書資料編です。本調査は、豊後国循領国東郷の故地である大分県国東市国東町を対象地とし、平成一六年から五ヶ年計画で実施しているものです。

本報告書には、国東郷域に残る様々な歴史資料のうち、国東郷各地のムラの概況と変遷を知ることができる記録類、中世の面影を端的に伝える石造文化財資料の実測図を中心に掲載いたしました。

戦後六〇年を経て、農業の機械化、生活様式や産業構造の変化、ムラから都市へという人口移動によって、日本のムラは変貌を遂げました。こうしたムラには歴史を物語るものとして、古文書だけでなく、地名や水利、石造物や祭礼あるいは景観など、有形無形の遺産が残されています。本調査は、現在のムラに残された様々な歴史遺産を調査・記録し、現在から過去に遡及的にムラの歴史をたどり、その歴史的価値を明らかにするものです。変貌著しい我が国のムラを見つめ直す時、本調査がその契機となれば、幸いです。

最後になりましたが、これまで調査を御指導いただいた調査委員と調査員の先生方、そして調査に御協力を賜りました国東市教育委員会と地元の方々に厚くお礼申し上げます。

平成二〇年三月

大分県立歴史博物館

館長 渡辺 文雄

目次

I	中世資料	1
II	近世資料	21
III	近代資料	52
IV	寺社關係資料	96
V	石造文化財実測図	119
付 図		
A 1	明治期国東郷域土地利用図 (1)	
A 2	明治期国東郷域土地利用図 (2)	
A 3	明治期国東郷域土地利用図 (3)	

写真目次

写真1	興福寺大板若経集巻(巻1)	2
写真2	紀家系譜(部分)	2
写真3	岩戸寺国東塔	177
写真4	長木家国東塔	177
写真5	神宮寺国東塔	177
写真6	猪俣家国東塔	177
写真7	高良阿弥陀堂国東塔	178
写真8	川原板碑(右1号、左2号)	178
写真9	鳴1号板碑	178
写真10	鳴2号板碑	178
写真11	堀部板碑	179
写真12	左荘板碑	179
写真13	野長谷1号板碑	179
写真14	竹ノ上板碑	179
写真15	岡板碑	180
写真16	鳴3号板碑	180
写真17	申坊長福寺跡板碑	180
写真18	東嶽来板碑(正面)	180
写真19	東嶽来板碑(左側面)	181
写真20	野長谷2号板碑	181
写真21	岩戸寺板碑	181
写真22	火浦宝篋印塔	181
写真23	迫家宝篋印塔	182
写真24	岩戸寺宝篋印塔	182
写真25	浜大日堂宝篋印塔	182
写真26	中坊観音堂宝篋印塔	182

写真27	玉林寺宝篋印塔	183
写真28	朝日観音堂跡宝篋印塔	183
写真29	成仏山神社宝篋印塔	183
写真30	向畑角塔婆	183
写真31	岩戸寺石幢	184
写真32	岩戸寺坊中五輪塔	184
写真33	大日五輪塔	184
写真34	川原五輪塔	184
写真35	高良阿弥陀堂1号五輪塔	185
写真36	高良阿弥陀堂2号五輪塔	185

図版目次

図1	岩戸寺国東塔	186
図2	長木家国東塔	186
図3	神宮寺国東塔	187
図4	猪俣家国東塔	187
図5	高良阿弥陀堂国東塔	188
図6	川原1号板碑	188
図7	川原2号板碑	188
図8	鳴1号板碑	188
図9-1	鳴2号板碑	189
図9-2	鳴2号板碑完成予想図	190
図10	堀部板碑	190
図11	左荘板碑	190
図12	野長谷1号板碑	191
図13	竹ノ上板碑	191
図14	岡板碑	192

表1	鳴3号板碑	191
表2	申坊長福寺跡板碑	191
表3	東嶽来板碑	193
	野長谷2号板碑	193
	岩戸寺板碑	193
	火浦宝篋印塔	194
	迫家宝篋印塔	194
	岩戸寺宝篋印塔	194
	浜大日堂宝篋印塔	194
	中坊観音堂宝篋印塔	194
	玉林寺宝篋印塔	195
	朝日観音堂跡宝篋印塔	195
	成仏山神社宝篋印塔	196
	向畑角塔婆	196
	岩戸寺石幢	196
	岩戸寺坊中五輪塔	197
	大日五輪塔	197
	川原五輪塔	198
	高良阿弥陀堂1号五輪塔	198
	高良阿弥陀堂2号五輪塔	198
表1	元和八(一六二二)年における 園東郷域の村勢	97
表2	近世園東郷域における村高の 推移	98
表3	明治期の行政記録にみる仏堂	173

表目次

凡 例

付 図

櫻井成昭

1 本報告書は、平成一六年度から五ヶ年計画で開始した国東半島庄園村落遺跡詳細分布調査（調査地区大分県国東市国東町）の報告書資料編である。
本調査は、豊後高田市田染地区（昭和五六年度）昭和六一年度、岡市都甲地区（昭和六二年、平成四年度）、岡市香々地地区（平成五年度、一〇年度）、国東市安岐町（平成一一年度）平成一五年度に続く、第五次調査となるものである。

2 調査地区の大分県国東市国東町は、豊後国衙領国東郷の故地として種々の歴史資料にめぐまれ、庄園村落遺跡が残されている。国東市国東町のうち、大字治郎丸・網井・重藤の三地区は宇佐宮領武蔵郷に属することが確認されており、これら三地区については今回の調査では取り上げなかった。

3 本報告書では、学術調査の立場から可能な限りの事実を明らかにしている。しかし、人権問題などの配慮を行った箇所もある。閲覧利用にあたっては、差別の解消、人権問題の真の解決につながる視点を要望したい。

4 本報告書の執筆は以下のように分担した。なお、各章の解題は文末に執筆者を記した。

- I 中世資料
- II 近世資料
- III 近代資料
- IV 寺社関係資料
- V 石造文化財実測図

櫻井成昭
平川 毅・櫻井成昭
平川 毅・大津祐司・櫻井成昭
大津祐司・櫻井成昭
渡辺文雄・宮内克己・山田拓伸・村上久和・平井義人・大津祐司・櫻井成昭・平川 毅

5 本報告書の編集は櫻井成昭が担当した。

6 図版・資料の作成にあたっては、安倍佳子・段上智代・豊田昌子・山田真紀子の協力を得た。

7 付図A-1(1)〜(3)については、地籍図で地目が確認できなかった箇所は、白色で表現した。

8 調査にあたっては、地元の方々の御協力を得た。また、諸資料の調査では以下の関係各位に特に便宜を図っていただいた。（順不同・敬称略）

東京大学史料編纂所・大分地方事務局杵築支局・大分県公文書館・大分県立図書館・大分県立先哲史料館・国東市役所・国東市教育委員会・国東市歴史体験学習館・別府大学・興進寺・長福寺・文殊仙寺・大聖寺
迫 義明・堀部文生・平尾泰則

I 中世資料

本章には、渡辺澄夫編『豊後国荘園公領史料集成 3』（別府大学 一九八六年）に収載されなかった中世史料の補遺として、興隆寺（天台宗、園東市大字鶴川）所蔵の「大般若経」奥書類と長福寺（真宗大谷派、日田市豆田）所蔵の「紀家系譜」（抄出）を収載した。

1 興隆寺蔵「大般若経」奥書類について

これは大分県立宇佐風土記の歴史民俗資料館による「宇佐国東地域寺院関係歴史資料調査」の報告書「宇佐国東の寺院と文化財」（一九九〇年）で一部が紹介されているものの、その全容は知られていない。詳細は本文を参照したくとして、ここでは「大般若経」（園東市指定文化財、以下本経と呼ぶ）の特徴と奥書をもとにした「大般若経」の歴史を略記しておきたい。

本経は写本で、装幀は折本装。現在、五九九帖（巻一三一次）が伝わり、ほぼ全巻の見返し部や末尾に銘文がある（以下ではこれらを一括して奥書類と呼ぶ）。これら奥書類をもとに歴史をみると、本経は至徳二年（一三九五）嘉慶三年・康成元年（一三八九）に、肥後国飽田郡池辺寺、肥後国高橋山聖徳寺、肥後国阿蘇山満楽坊、肥後国宇土の法泉寺などで、道蓮（会津の僧）、靈舟（会津の僧）、符雲、快珍（高橋山聖徳寺）などによって書写された。また、本経は道蓮と靈舟を勧進僧として、若狭権守平長尚とその後継道性海尼が覆超となり制作された（巻二四〇）。いわば、本経は肥後国を本貫地とするわけだが、そうした本経が園東半島に移されたのは、文徳二年（一一五〇）のことであった。巻二〇五の奥書によれば、園東郡の鎮守であった櫻八幡社が買い求めたという。そして、神仏分離によつて興隆寺西之坊の什物となったのである。

さて、本経の特徴の一つとして、敬虔にわたる修理記録が明記できる点が挙げられる。確認できる最古の修理は慶長六年（一六〇一）で、例えば「此御経事如本一乱二付、悉ク一枚離脱ヲ成立申候畢」（巻三七四）と記される。そして、天和

三年（一六八三）に豊前国中津（大分県中津市）に所在する明進寺（浄土真宗本願寺派）の祐永によつて大修理が行われた。現在の所、この修理がいかなる経緯に基づくものかは明確でないが、浄土真宗の僧侶が神社所蔵の大般若経を修理したことは興味深々、その理由などの追究は今後の課題である。その後、元禄（正徳）年間に痛などが新調されている。

また、本経の奥書には、地震・洪水の記事もわずかであるがみられる。例えば、巻四二四には文祿五年（一五九六）年に大地震が起き、豊後国興隆寺が海中に没し、死者が多数出たと記される。あるいは、巻三九五には元和八年（一六二二）八月に大洪水が起きたこと、巻五六七には同年一〇月に「平遠延風」のため本経が転蔵されたと記される。

近年の大般若経の調査研究成果をふまえるならば、本来は各巻の法量や料紙などの詳細なデータも掲載すべきだが、ここでは紙幅の都合により奥書類のみの掲載となった。その他のデータは、後日を期したい。

2 紀家系譜について

本記録は、料紙が雁皮まじりの楮紙で、法量は縦二七・五cm、横六八八・〇cm（一一枚連）である。製作年代については、冒頭から長福寺第十一世の項までが同筆で、第二世以後は別筆であること、第二世は文化一〇（一一八三）年に没していることから、本系図は一八世紀末から一九世紀初の製作と考えられる。長福寺は、一六世紀末に武内山城守水明が創建したという由緒を持つ。この武内山城守は紀氏の末裔とされたことから、同寺にこうした系譜が所在したと考えられる。

さて、豊後国司や国東郡司などをつとめた紀氏の系図については、既にさまざまに紹介されてきている。その中で、本系図は豊後国司あるいは国東郡司をつとめた紀氏の系譜を一覧できるものであり、言い換えればこれまで確認されている紀氏系図をまとめたものといえる。長福寺が、いかなる理由によつて、こうした系図を作成し得たのかは、現在の所不詳というほかないが、前で触れた諸富名の名主に関わる系譜の部分を見ると、長福寺開基の武内山城守に連なる武内

氏の系譜部分は江戸時代まで記されるが、これ以外の部分の系譜の最後にあたる人物はおおよそ一四世紀後半代に活動した人物と推測される。こうした点から、本系図が依拠した資料は基本的に一五世紀代に成立したものと考えられる。

(櫻井 成明)

凡 例

- 一 大般若経奥書類の表では、見返し部と本尾の各々に分けて記した。
- 一 大般若経奥書類の表中の筆数欄には、本文と同筆の場合は◎を付け、本文と別筆は①から順に番号を付した。
- 一 表中の体裁は、原則として原本に従ったが、改行などは逐一指摘していない。
- 一 奥書類がない場合は、「なし」と表現した。
- 一 梵字は、△マン▽のように読みに△▽を付した。
- 一 虫損などで判読不能の文字は□で示した。また、文字数が不明の場合は□□と示した。
- 一 奥書類で巻尾にあるものうち、特に備考欄に注記がないものは、すべて尾題より後に記されたものである。
- 一 誤記などについては、文字の右に(ママ)を付した。

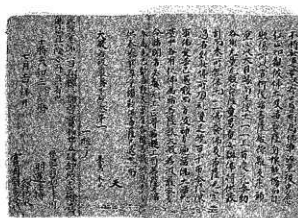


写真1 興福寺大般若経奥書(巻1)



写真2 紀家系譜(部分)

1 興禪寺大般若經吳書類 ○興禪寺藏

卷數	場所	條數	備考
1	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
2	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
3	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
4	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
5	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
6	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
7	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
8	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
9	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下
10	尾尾	<p>① 寫本 本公 一校了</p> <p>此經卷部六百卷經八種寫物也 及經頭殘少卷為弘法親承今再寫者也</p> <p>于時天和三年夏曆 明進住持 栗持水</p> <p>七月廿四日</p> <p>興禪山 喜之坊願云誌</p>	尾尾下

14		13			12			11		10	
筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	
②	③	①	②	①	②	③	①	②	①	②	
此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 去書建實 為天長建久 御願阿彌 國十卷陳 天下書一 殊會引 經題 聖宗和合歌者大相那守聖宗屋命子承宗經也 筆者 幸宗(元河) 五藏元年五月七日 邑之新州津川 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年秋 旗主 邑 鶴田周平 此編老弱六百卷八幡御堂物也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	
19		18			17			16		15	
筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	筆尾	
③	②	①	②	①	②	③	①	②	③	②	
宣司明家代 明治四年九月 旗主 邑 溝部社八 大御部平氏等臣軍內所現當二重之大庭門此旗伏候依此功能力足能三遠 之寄海頓生于九品之淨別 願西後因雲田南御部等寺持所南好寄畢 于百忍德二一理乙午每午後二口 諸殿防幕 親氏(五) 親氏 將氏 權平(十六)	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	宣司明家代 明治四年未秋 旗主 邑 鶴田周平 此編一節六百卷取撰錄志無康今成令再撰者也 吉野天和三年 文月百拾日 明達任持 親筆水	

31		30				29				28				海防通所	
尾		尾		尾		尾		尾		尾		尾		尾	
①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
平時元松拾二番天初秋十五日	明治四年未九月	平時元松拾二番天初秋十五日	明治四年未九月	平時元松拾二番天初秋十五日	明治四年未九月	平時元松拾二番天初秋十五日	明治四年未九月	平時元松拾二番天初秋十五日	明治四年未九月	平時元松拾二番天初秋十五日	明治四年未九月	平時元松拾二番天初秋十五日	平時元松拾二番天初秋十五日	平時元松拾二番天初秋十五日	平時元松拾二番天初秋十五日
...

38		37		36		35		卷數	場所	筆數
卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾			
<p>① 此經六百卷八經宮御家物也 及被撰為結核合釋書也</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>38</p> <p>卷尾</p> <p>卷尾</p> <p>卷尾</p> <p>卷尾</p>	<p>路文</p> <p>路文</p> <p>路文</p> <p>路文</p>	<p>備考</p> <p>備考</p> <p>備考</p> <p>備考</p>
<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>① 宣明明家代</p> <p>② 宣明明家代</p> <p>③ 宣明明家代</p> <p>④ 宣明明家代</p>	<p>38</p> <p>卷尾</p> <p>卷尾</p> <p>卷尾</p> <p>卷尾</p>	<p>路文</p> <p>路文</p> <p>路文</p> <p>路文</p>	<p>備考</p> <p>備考</p> <p>備考</p> <p>備考</p>

55	54	53	52	51	集 成 場 所 筆 數
<p>見儀 ① 明治四年九月 此誌老徳六百騎及誠誠放令再興者也</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年六月 寫主 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 寫主 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 寫主 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 寫主 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>集 成 場 所 筆 數</p> <p>① 明治四年九月 寫主 伊藤三三郎</p> <p>② 三人 本公</p> <p>③ 伊藤三三郎</p>
					編 考
58	57	56	55		集 成 場 所 筆 數
<p>見儀 ① 明治四年九月 此誌老徳六百騎及誠誠放令再興者也</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>集 成 場 所 筆 數</p> <p>① 明治四年九月 寫主 伊藤三三郎</p> <p>② 二人 本公</p> <p>③ 伊藤三三郎</p>
					集 成 場 所 筆 數
<p>見儀 ① 明治四年九月 此誌老徳六百騎及誠誠放令再興者也</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>見儀 ① 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>② 明治四年九月 伊藤三三郎</p> <p>③ 明治四年九月 伊藤三三郎</p>	<p>集 成 場 所 筆 數</p> <p>① 明治四年九月 寫主 伊藤三三郎</p> <p>② 三人 本公</p> <p>③ 伊藤三三郎</p>

72	71	70	69	68	76	75	74	73	72
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
<p>① 明治四年九月 尾主 鹿嶋市右衛門</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>	<p>① 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p> <p>② 平吉天和三年九月十日 尾主 鹿嶋市右衛門</p> <p>③ 此經六百卷八幡宮御室財也。及被改令再興者也</p>
結文	結文	結文	結文	結文	結文	結文	結文	結文	結文
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考
場所	場所	場所	場所	場所	場所	場所	場所	場所	場所
筆數	筆數	筆數	筆數	筆數	筆數	筆數	筆數	筆數	筆數

89		88		87		86		85		寄致	場所	筆數
卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七		館	文
④ 明治四年癸未九月 龍主 今城密七	⑤ 大水二冊十二月廿三日 棟梁宗盛	② 此稿十行助筆伏候 平時塚本十二年丙戌二月四日 豐之前州中津明憲任持	① 此稿六冊卷八傳寫御室財也 及成誠院必命為結縁合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津明憲任持	② 明治四年癸未九月 龍主 今城密七	③ 大水二冊正月廿三日 幸時便者也	② 此稿六冊卷八傳寫御室財也 及成誠院必命為結縁合再賜書也 是時天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津明憲	③ 此稿六冊卷八傳寫御室財也 及成誠院必命為結縁合再賜書也 是時天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津明憲	② 此稿六冊卷八傳寫御室財也 及成誠院必命為結縁合再賜書也 是時天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津明憲	① 此稿六冊卷八傳寫御室財也 及成誠院必命為結縁合再賜書也 是時天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津明憲			
94		93		92		91		90			館	文
尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾		備	考
① 明治四年癸未九月 龍主 今城密七	② 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	① 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	② 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	① 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	② 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	③ 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	② 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	① 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持	② 此稿老部六百卷及致御合再賜書也 千禧天和三年癸亥月下旬 豐之前州中津川明憲任持			

99		96		97			96		95		94		卷數	場所	書數
卷尾	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙
②	①	③	①	②	③	①	②	①	②	①	②	①	②	尾紙	尾紙
于此時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 明治四年未九月 監主 大崎平七	額田郡美作郡田原郡池邊寺佛所千部野書院 于前卷尾一欄之六月廿三日 聚氏必齋僧 四十六歲 釋雲 敬口 此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	明治四年未九月 監主 大崎平七	依心大禮塔前若狹守平氏碑石重刻經卷二批之大藏門部經卷 合吉草。此經伏願依此功德力。乘船平流極邊之衆上窮經下盡盡 新者也	豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	明治四年未九月 監主 大崎平七	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	尾紙	尾紙	尾紙	
105	104	103	102	101	100	99							卷數	場所	書數
尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙	尾紙
①	①	③	①	②	③	①	②	①	②	③	①	②	①	②	③
明治四年未秋 監主 大谷崎吉	尾紙 一 〇 明治四年未秋 監主 大谷崎吉	尾紙 一 〇 明治四年未秋 監主 大谷崎吉	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	此經卷第六百卷及後知合再書者也 于時天和三寶文月下旬 豐之前州中津川明蓮住持 沙門栞水	尾紙	尾紙	尾紙

111		110		109		108		107		106				105
卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	尾八	尾九	尾十
④ 明治四年九月 施主 橋本德平	④ 中嶋清之助贈之 平時元禄拾三年庚辰九月十四日	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代	④ 宣明明家代 宣明明家代
尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書	尾紙地部に横書
119	118	117	116	115	114	113	112	尾紙	尾七	尾八	尾九	尾十	尾十一	尾十二
① 明治四年九月 施主 橋本德平	① 明治四年九月 施主 橋本德平	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代	① 宣明明家代 宣明明家代
尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠	尾紙以後料紙欠

巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	巻数	場所	
143	巻尾	142	巻尾	141	巻尾	140	巻尾	139	巻尾	138	巻尾	137	巻尾	136	巻尾	135	巻尾	134	巻尾	
①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	①	なし	
明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月	堀主 橋本才造	明治四年九月
此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也	此種一、六百巻八種宮室物也、及破却令再興者也
後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補	後補

巻数	場所	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾
206																		
205																		
204																		
203																		
202																		
201																		
200																		
206																		
211																		
210																		
209																		
208																		
207																		
206																		

220		219		218		217		216		215		214		213			
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾		
③ 宮司明家代	② 千時天和三年癸亥九月廿一日	① 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏右衛門 道通	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永
226		225		224		223		222		221							
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾		
③ 道通	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永	③ 明治四年庚戌九月 宣主 邑 吉武高藏 千時天和三年癸亥九月廿一日	② 宮司明家代	① 千時天和三年癸亥九月廿一日 此誌定部六百巻八冊宮室御也 及城廻珠志念為結縁再興者也 之附州中津川明家任持 釈祐永

246	245	244	243	242	241	240	巻数
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
①	①	①	①	①	①	①	①
此尾六口輪樓八輪宮守也。及護神珠忠念寺經授合再觀者也。	① 明治四年九月 施主 今ノ中野竹太郎 ② 五江院遺蹟	① 至徳四年(寛元)四月廿七日 此尾六口輪樓八輪宮守也。及護神珠忠念寺經授合再觀者也。 于時天和三年(享和)七月下旬 兼之新洲中津川明運住持 沙西祐水	① 此尾老浦六百輪 及護神令合再觀者也。 于時天和三年(享和)七月下旬 兼之新洲中津川明運住持 施主 沙西祐水	① 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助 ② 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助	① 肥後州地切寺之御月庭下 ② 千時天和三年(享和)初秋十五日 自此寺二百四十一番地御守長御門控御番等之。自此輪樓宮内之役當其性御足目御衣御守之。專再提高二所輪樓並莊園並堂業法界實阿闍梨智也 勝律比位定傳 謹啓也 奉徳路四丁御林總十日	① 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助 ② 千時天和三年(享和)初秋十五日 自此寺二百四十一番地御守長御門控御番等之。自此輪樓宮内之役當其性御足目御衣御守之。專再提高二所輪樓並莊園並堂業法界實阿闍梨智也 勝律比位定傳 謹啓也 奉徳路四丁御林總十日	尾題以後科紙欠。
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
②	②	②	②	②	②	②	②
尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。
251	250	249	248	247	246	巻数	
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
②	①	①	①	①	①	①	①
千時元和三年(享和)初秋十五日 此尾十番地御内書守也。	① 明治四年九月 施主 邑 小川幸助 ② 五江院遺蹟	① 至徳四年(寛元)四月廿七日 此尾六口輪樓八輪宮守也。及護神珠忠念寺經授合再觀者也。 于時天和三年(享和)七月下旬 兼之新洲中津川明運住持 沙西祐水	① 此尾老浦六百輪 及護神令合再觀者也。 于時天和三年(享和)七月下旬 兼之新洲中津川明運住持 施主 沙西祐水	① 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助 ② 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助	① 肥後州地切寺之御月庭下 ② 千時天和三年(享和)初秋十五日 自此寺二百四十一番地御守長御門控御番等之。自此輪樓宮内之役當其性御足目御衣御守之。專再提高二所輪樓並莊園並堂業法界實阿闍梨智也 勝律比位定傳 謹啓也 奉徳路四丁御林總十日	① 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助 ② 千時天和三年(享和)初秋十五日 自此寺二百四十一番地御守長御門控御番等之。自此輪樓宮内之役當其性御足目御衣御守之。專再提高二所輪樓並莊園並堂業法界實阿闍梨智也 勝律比位定傳 謹啓也 奉徳路四丁御林總十日	尾題以後科紙欠。
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
①	①	①	①	①	①	①	①
千時天和二年(享和)正月廿日 兼之新洲中津川明運守 歌氏祐水	① 明治四年未秋 施主 今ノ中野竹太郎 ② 五江院遺蹟	① 至徳四年(寛元)四月廿七日 此尾六口輪樓八輪宮守也。及護神珠忠念寺經授合再觀者也。 于時天和三年(享和)七月下旬 兼之新洲中津川明運住持 沙西祐水	① 此尾老浦六百輪 及護神令合再觀者也。 于時天和三年(享和)七月下旬 兼之新洲中津川明運住持 施主 沙西祐水	① 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助 ② 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助	① 肥後州地切寺之御月庭下 ② 千時天和三年(享和)初秋十五日 自此寺二百四十一番地御守長御門控御番等之。自此輪樓宮内之役當其性御足目御衣御守之。專再提高二所輪樓並莊園並堂業法界實阿闍梨智也 勝律比位定傳 謹啓也 奉徳路四丁御林總十日	① 明治四年未秋 施主 邑 小川幸助 ② 千時天和三年(享和)初秋十五日 自此寺二百四十一番地御守長御門控御番等之。自此輪樓宮内之役當其性御足目御衣御守之。專再提高二所輪樓並莊園並堂業法界實阿闍梨智也 勝律比位定傳 謹啓也 奉徳路四丁御林總十日	尾題以後科紙欠。
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
②	②	②	②	②	②	②	②
尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。	尾題以後科紙欠。

259		258		257		256			255			254		253		252		番書數	漢所	漢文	備考	
卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	漢數	漢所	漢文	備考	
①	一	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	漢所	漢文	備考	
此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	高麗一、二、八、十七、日、道碑	明治四年未秋 施主 馬場重平	明治四年未秋 施主 馬場重平	明治四年未秋 施主 馬場重平	明治四年未秋 施主 馬場重平	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	此經卷第六百四十四卷八德宮書院藏	漢所	漢文	備考	
																			漢所	漢文	備考	
264		263		262		261			260		259		258		257		256		番書數	漢所	漢文	備考
卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	漢數	漢所	漢文	備考	
③	②	①	一	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	漢所	漢文	備考	
日本大國經西番州北邊立國東都鎮守八幡堂三所大菩薩工殿公用	明治四年未九月 施主 馬場重平	明治四年未九月 施主 馬場重平	三家益明理天御堂	明治四年未九月 施主 馬場重平	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	明治四年未九月 施主 馬場重平	大正二年未五月、初八日 佛經藏	佛八德大菩薩佛堂前公用	佛八德大菩薩佛堂前公用	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	此經一、部六百卷佛八德宮書院藏	漢所	漢文	備考	
																			漢所	漢文	備考	

271		270		269		268		267		266		265		場所	筆數	
巻尾	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七
①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①
大永二(元三五)五月八日 天台宗東山院藏	② 天和三(元三五)文月下旬 關八(經實)水代不朽之御家簡公用	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 又(應)三(元三五)文月下旬 唐天和三(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)之(中) 去(應)三五(元三五)季子如水(法)二(收)隆(成)成(成) 次(應)三(元三五)二月(後) 岸(中)校(立)申(儀)奉	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)之(中) 去(應)三五(元三五)季子如水(法)二(收)隆(成)成(成) 次(應)三(元三五)二月(後) 岸(中)校(立)申(儀)奉	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)之(中) 去(應)三五(元三五)季子如水(法)二(收)隆(成)成(成) 次(應)三(元三五)二月(後) 岸(中)校(立)申(儀)奉	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)之(中) 去(應)三五(元三五)季子如水(法)二(收)隆(成)成(成) 次(應)三(元三五)二月(後) 岸(中)校(立)申(儀)奉	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)之(中) 去(應)三五(元三五)季子如水(法)二(收)隆(成)成(成) 次(應)三(元三五)二月(後) 岸(中)校(立)申(儀)奉	尾七	尾七	尾七
														純	文	
														備考		
279	278	277	276	275	274	273	272	271								
尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七
①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①
② 天和五(元三五)七月初五日 肥前守上野(俊)重(俊)藏書 延用書之	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 法華經寺 無(何)子(吉)之	② 此(經)六(百)卷(八)幡(經)寫(本)物(也) 及(經)院(藏)書(全)為(諸)科(律)令(再)錄(者)也 天和五(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)六(百)卷(八)幡(經)寫(本)物(也) 及(經)院(藏)書(全)為(諸)科(律)令(再)錄(者)也 天和五(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)六(百)卷(八)幡(經)寫(本)物(也) 及(經)院(藏)書(全)為(諸)科(律)令(再)錄(者)也 天和五(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)六(百)卷(八)幡(經)寫(本)物(也) 及(經)院(藏)書(全)為(諸)科(律)令(再)錄(者)也 天和五(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)六(百)卷(八)幡(經)寫(本)物(也) 及(經)院(藏)書(全)為(諸)科(律)令(再)錄(者)也 天和五(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	② 此(經)六(百)卷(八)幡(經)寫(本)物(也) 及(經)院(藏)書(全)為(諸)科(律)令(再)錄(者)也 天和五(元三五)文月下旬	① 明治四年未秋 龜主 馬場俊平 大經院藏書 安國一(力)利經一(部)六百卷	尾七	尾七	尾七
														銘	文	
														備考		

285		284		283		282		281			280			279		卷數	通所			
卷尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾		
②	①	①	②	①	②	①	②	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
古天和三寶文月下旬 龜之前州中津川明蓮寺 取氏捨水 敬白	此經六百卷八轉宮寶物也 古天和三寶文月下旬	明治四年未秋 龜主 馬場庄之助	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	
291				290				289			288			287		286		卷數	通所	
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	
③	②	①	⑤	④	③	②	①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	
明治四年未秋 龜主 馬場庄八十松	古天和三寶文月下旬 龜之前州中津川明蓮寺 取氏捨水 敬白	此經六百卷八轉宮寶物也、及致持珠忍命為精錄今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日	此經六百卷、及鐵印今再考也 千時天和三年文月廿日

322		321		320		319		318		317		管收場所
巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	管收場所
①	一	④	③	②	①	④	③	②	①	③	②	管收場所
千時天和三年七月廿七日 此條一部六百匁、及波理殘志余為結縁可成者也 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水	なし	大永二年五月十五日 兼盛 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水	千時天和三年七月廿七日 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水	此條一部六百匁、及波理殘志余為結縁可成者也 千時天和三年七月廿七日 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水	① 千時天和三年七月廿七日 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水 ② 明治四年未九月 兼主 清本徳右衛門 西之坊什物 ③ 明治四年未九月 兼主 清本徳右衛門 西之坊什物 ④ 明治四年未九月 兼主 清本徳右衛門 西之坊什物	④ 兼主 親祐水 ③ 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水 ① 兼主 親祐水	④ 兼主 親祐水 ③ 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水 ① 兼主 親祐水	④ 兼主 親祐水 ③ 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水 ① 兼主 親祐水	④ 兼主 親祐水 ③ 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水 ① 兼主 親祐水	④ 兼主 親祐水 ③ 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水 ① 兼主 親祐水	④ 兼主 親祐水 ③ 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水 ① 兼主 親祐水	管收場所
												備考
												管收場所
327		326		325		324		323		322		管收場所
巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	巻尾	尾七	管收場所
①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	管收場所
なし	② 千時天和三年七月廿七日 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水	① 明治四年未九月 兼主 親祐水 ② 明治四年未九月 兼主 親祐水	① 明治四年未九月 兼主 親祐水 ② 明治四年未九月 兼主 親祐水	① 千時天和三年七月廿七日 兼之蘭州中津川明蓮寺住持 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	① 兼主 親祐水 ② 兼主 親祐水	管收場所
												備考
												管收場所

番	場所	備考	番	場所	備考
359	巻尾		364	巻尾	
①	なし		①	なし	
②	大正三年癸未五月十九日 申再読 承認		②	なし	
358	巻尾		363	巻尾	
①	明治四年未九月 第三 高橋源治郎 西之坊什物		①	此経一節六百巻、及破説書再読者也	
②	正八幡櫻宮所和光寺護国工廠公用		②	于時天和三年癸未文月下旬 巻之齋州中津野至持 秋栞米	
③	大永二年壬午五月十六日 志清園		③	此経一節六百巻、及破説書再読者也	
357	巻尾		362	巻尾	
①	明治四年未九月 旗主 石田長平 西之坊什物		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物也、及破説書再読者也	
②	八幡宮内殿御宝物公用方代不付也		②	于時天和三年癸未文月下旬 旗主 高橋源治郎 西之坊什物	
③	大永二年壬午五月十六日 志清園		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物也、及破説書再読者也	
356	巻尾		361	巻尾	
①	此経一節六百巻高野堂御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
②	此経一節六百巻三所大尊御玉殿公用		②	于時天和三年癸未文月下旬 旗主 高橋源治郎 西之坊什物	
③	此経一節六百巻三所大尊御玉殿公用		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
355	巻尾		360	巻尾	
①	此経一節六百巻高野堂御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻高野堂御宝物、及破説書再読者也	
②	于時天和三年癸未文月下旬 中津浦水		②	此経一節六百巻高野堂御宝物、及破説書再読者也	
③	此経一節六百巻高野堂御宝物、及破説書再読者也		③	此経一節六百巻高野堂御宝物、及破説書再読者也	
354	巻尾		359	巻尾	
①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
②	于時天和三年癸未文月下旬 旗主 石田長平 西之坊什物		②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
353	巻尾		358	巻尾	
①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
352	巻尾		357	巻尾	
①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
351	巻尾		356	巻尾	
①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
350	巻尾		355	巻尾	
①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		①	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		②	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	
③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也		③	此経一節六百巻八幡宮御宝物、及破説書再読者也	

371		370		369		368		367		366		365		364		
卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	
②	①	③	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	
大永二卷 在 舊月十七日	① 宣八卷 一 大龍庵西宮廟公用	① 十時末元年戊辰卯月下旬 合方寫畢	① 十時末元年正月初十五日 此卷第十卷終	① 明治四年九月 龍主 龍部久兵衛 西之坊什物	① 此卷一 部六百卷 及破御合再編者也	① 明治四年九月 龍主 龍部久兵衛 西之坊什物	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 明治四年九月 龍主 龍部久兵衛 西之坊什物	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了	① 慶應元年卯月十日 合方寫了
373		374		373		372		371		370		369		368		
卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	卷尾	尾七	
③	②	③	②	③	②	③	②	③	②	③	②	③	②	③	②	
明治四年未秋 龍主 龍田令一	② 宣八卷 一 大龍庵西宮廟公用	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	③ 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	② 慶應元年未秋 龍主 龍田令一	

404		403		402		401				條	文	備考		
卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	條	文		
③ 西之坊什物	② 若松屋 海蔵助助 蝦蛸水 明治四年九月 店主 高木清右衛門	① 北條一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住 釈良水	④ 幸丑二月世母中絶、院立重盛重頼 慶長六年辛丑二月十八日 當宮司坊寄書	③ 立徳二林拾十二日、右筆高屋山德重伴任、兵衛房快沙 行年六六 此縁結者、慶長三年辛卯九月十一日敬養乱入、救縁仕願了阿半也	② 川津 廻行乳右衛門 明治四年未九月 店主 德本重伴 西之坊什物	① 田邊河 藤田平右衛門 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住 釈良水	⑤ 右筆 高屋山德重伴任、兵衛房快沙 今行年六六 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住 釈良水	① 田邊河 藤田平右衛門 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住 釈良水	④ 公東内六次 福田重徳 平時元和三年三月二十五日 甲寅申之助過之	③ 慶長六歲八月輪宮内政判判之公用、金玉珍並不可過之	② 明治四年未九月 店主 國部伊作	① 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住 釈良水		
410	400	408	407		406		405				條	文	備考	
卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	卷尾	條	文	備考	
① 豊之前相中津明徳寺住持 釈良水	③ 平時天和三年庚申七月百廿日 北條一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 明治四年九月 店主 政本太郎 西之坊什物 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也	② 堀吉助助 華木七郎 釈良水 明治四年九月 店主 高木政太郎 西之坊什物	④ 大奉二奉者午五月廿日公題、奉公況此縁結シ 平時天和三年庚申七月百廿日 豊之前相中津川明徳寺住持 釈良水	③ 平時天和三年庚申七月百廿日 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 豊前中津川明徳寺住持 釈良水	② 慶應第二林坐下句候、於此際北相高屋山德重伴任人共世母房快沙行年六六 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也	① 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住持 釈良水	③ 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住持 釈良水	② 慶應第二林坐下句候、於此際北相高屋山德重伴任人共世母房快沙行年六六 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也	① 明治四年未九月 店主 高木清右衛門 西之坊什物	③ 長尾家兵衛 一 なし 明治四年未九月 店主 高木清右衛門	② 西之坊什物 釈良水 明治四年未九月 店主 國部伊作	① 此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住持 釈良水	此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住持 釈良水	此縁一節六百巻、及政理珠志余為結縁會再婚者也 平時天和三年庚申七月百廿日 豊前中津明徳寺住持 釈良水

414		413		412		411		410		卷数	場所
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	頁数	備考
②	①	⑤	④	③	②	①	⑤	④	③	②	①
為家内全、新力庫、古御門	此編 第六白紙、故被指及攻志余為精録合再撰者 十時天和三寶五年七月廿四日	為家内全、田圃村、神作	此編 第六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	曼之部川中津明進住持	此編六百卷及被指殘志、今成初圖八幡宮全、即被撰、成志 之餘再録合寄遺者也 十時天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	曼之部川中津明進住持	曼之部川中津明進住持	曼之部川中津明進住持	曼之部川中津明進住持	此編六百卷及被指殘志、今成初圖八幡宮全、即被撰、成志 之餘再録合寄遺者也 十時天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	此編六百卷及被指殘志、今成初圖八幡宮全、即被撰、成志 之餘再録合寄遺者也 十時天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持
420	419	418	417	416	415	414				卷数	場所
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾				頁数	備考
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦					
此編六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 十時天和三寶五年七月十七日、此第十卷寄遺者也	此編 第六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	此編六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	此編六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	此編六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	此編六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持	此編六百卷八幡宮書院、及被指殘志余為精録合再撰者也 手書天和三寶五年七月下旬 曼之部川中津明進住持					

425		424			423			422		421			420			巻数	場所	種数		
巻尾	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七		
②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③		
千時天治二至七年下旬 豊之前川中津川明達寺 沢枯水	明治四年九月 此経巻第六百巻、被破損今全書無き也	余死ス、前代大僧金管付由申御願 赤香奥前二、一万八死ト云云、 豊宮御妻泉之	千時天和二年七月下旬 豊之前川中津川明達寺、沙門枯水 高木堂御願、此経巻心木焼、 早御覺目地光在座、高僧御願作以興 之口、右口著、敬口	北江、儀作 豊之前川中津川明達寺、 豊之坊什物	明治四年九月、 豊主、楠木口口	千時天和二年七月下旬 豊之前川中津川明達寺、 沢枯水	北江、 儀主、吉井伊吉 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	千時元禄拾三年天切十七日、 此經十卷定本、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	明治四年九月、 儀主、高木忠志右衛門 西之坊什物	
429		428			427			426		425			巻数	場所	種数					
巻尾	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	
④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	
明治四年九月、 儀主、高僧源治郎	高僧口口、 水輪中寺口口、 豊前中津川明達寺、 枯水	此経一節六百巻、 致成損壞此巻余欲之者也	明治四年九月、 儀主、高僧源治郎	高僧源治郎、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	此實経六百巻、 被損壞之令全書無き也 福田豊氏編	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎
429		428			427			426		425			巻数	場所	種数					
巻尾	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	尾七	
④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	④	③	②	①	
明治四年九月、 儀主、高僧源治郎	高僧口口、 水輪中寺口口、 豊前中津川明達寺、 枯水	此経一節六百巻、 致成損壞此巻余欲之者也	明治四年九月、 儀主、高僧源治郎	高僧源治郎、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	此實経六百巻、 被損壞之令全書無き也 福田豊氏編	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎	千時天和二年七月下旬、 儀主、高僧源治郎

444		443		442		441		440				巻数	場所	備考					
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾		
③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①		
大般若經三卷中無火難事此卷三アリ 寂寂記之 寂寂行地之時	千手天和三尊五十七下句 卷之龍州中津明蓮寺 注水	明治四年癸未九月 窟主 山内新助 此六百卷經事書物 及被破殊志余為總發令再興者也	永保六更春向春開 以右御書三卷葉法二度 横大般若經二ト 總題字紙子大般若經之寫 卷之龍州中津明蓮寺住持 枯水	于時天和三尊五十七下句 此經一部六百卷 故及被破殊志余為總發令再興者也	明治四年癸未九月 窟主 圓野源吉 住持枯水	于時天和三尊五十七下句 正八幡 横吉 割公用 高木德松 和光同聲菩薩經八相成蓮寺利物也	于時天和三尊五十七下句 我名護國寺威力神速大自在王菩薩 横八幡宮内段公用不可逆之經	明治四年癸未九月 窟主 高木德松 正八幡 横吉 割公用 高木德松	于時天和三年癸未七月廿四日 卷之龍州中津川明蓮寺 寂寂記之 求枯水	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	明治四年癸未九月 窟主 高木德松 此經一部六百卷 依破却及殊志余為總發令再興者也	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀	于時天和三年癸未七月廿四日 横八幡大般若經藏公用 大永二年癸未五月廿四日 天台宗聖樂儀
451	450	449		448		447		446		445		巻数	場所	備考					
尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾		
③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①		
于時天和三年癸未五月廿四日此卷四卷也 卷之龍州中津明蓮寺	于時天和三年癸未五月廿四日 大般若經三卷門 一ナシ	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	于時天和三年癸未五月廿四日 此經十卷抄治佛之	

學數	場所	年數	備考
457	尾七	①	
456	尾七	②	
455	尾七	③	
454	尾七	④	
453	尾七	⑤	
452	尾七	⑥	
451	尾七	⑦	
457	尾七	⑧	
456	尾七	⑨	
455	尾七	⑩	
454	尾七	⑪	
453	尾七	⑫	
452	尾七	⑬	
451	尾七	⑭	
457	尾七	⑮	
456	尾七	⑯	
455	尾七	⑰	
454	尾七	⑱	
453	尾七	⑲	
452	尾七	⑳	
451	尾七	㉑	
457	尾七	㉒	
456	尾七	㉓	
455	尾七	㉔	
454	尾七	㉕	
453	尾七	㉖	
452	尾七	㉗	
451	尾七	㉘	
457	尾七	㉙	
456	尾七	㉚	
455	尾七	㉛	
454	尾七	㉜	
453	尾七	㉝	
452	尾七	㉞	
451	尾七	㉟	
457	尾七	㊱	
456	尾七	㊲	
455	尾七	㊳	
454	尾七	㊴	
453	尾七	㊵	
452	尾七	㊶	
451	尾七	㊷	
457	尾七	㊸	
456	尾七	㊹	
455	尾七	㊺	
454	尾七	㊻	
453	尾七	㊼	
452	尾七	㊽	
451	尾七	㊾	
457	尾七	㊿	
456	尾七	1	
455	尾七	2	
454	尾七	3	
453	尾七	4	
452	尾七	5	
451	尾七	6	
457	尾七	7	
456	尾七	8	
455	尾七	9	
454	尾七	10	
453	尾七	11	
452	尾七	12	
451	尾七	13	
457	尾七	14	
456	尾七	15	
455	尾七	16	
454	尾七	17	
453	尾七	18	
452	尾七	19	
451	尾七	20	
457	尾七	21	
456	尾七	22	
455	尾七	23	
454	尾七	24	
453	尾七	25	
452	尾七	26	
451	尾七	27	
457	尾七	28	
456	尾七	29	
455	尾七	30	
454	尾七	31	
453	尾七	32	
452	尾七	33	
451	尾七	34	
457	尾七	35	
456	尾七	36	
455	尾七	37	
454	尾七	38	
453	尾七	39	
452	尾七	40	
451	尾七	41	
457	尾七	42	
456	尾七	43	
455	尾七	44	
454	尾七	45	
453	尾七	46	
452	尾七	47	
451	尾七	48	
457	尾七	49	
456	尾七	50	
455	尾七	51	
454	尾七	52	
453	尾七	53	
452	尾七	54	
451	尾七	55	
457	尾七	56	
456	尾七	57	
455	尾七	58	
454	尾七	59	
453	尾七	60	
452	尾七	61	
451	尾七	62	
457	尾七	63	
456	尾七	64	
455	尾七	65	
454	尾七	66	
453	尾七	67	
452	尾七	68	
451	尾七	69	
457	尾七	70	
456	尾七	71	
455	尾七	72	
454	尾七	73	
453	尾七	74	
452	尾七	75	
451	尾七	76	
457	尾七	77	
456	尾七	78	
455	尾七	79	
454	尾七	80	
453	尾七	81	
452	尾七	82	
451	尾七	83	
457	尾七	84	
456	尾七	85	
455	尾七	86	
454	尾七	87	
453	尾七	88	
452	尾七	89	
451	尾七	90	
457	尾七	91	
456	尾七	92	
455	尾七	93	
454	尾七	94	
453	尾七	95	
452	尾七	96	
451	尾七	97	
457	尾七	98	
456	尾七	99	
455	尾七	100	

478		477		476		475				474			473		卷数	場所	旗数	
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	
②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	
明治四年未秋 旗主 此太郎	① 子野村 文作 田澤村 少少 ② 明治四年未秋 旗主 此太郎	③ 右軍 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍行年六六 ② 十時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六 ① 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎	③ 藤田四郎助 旗主 富忠比太郎 ② 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎	③ 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ② 千時天和三年七月百廿日 ① 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎	③ 右軍 高橋山 兵部房快珍行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 明治四年未秋 旗主 此太郎 ① 田澤村 俊作 調科 しり	④ 彼経真書二巻 凡草字詔下紙之紙 蓋敷 永持不替復成説	③ 明治四年未秋 旗主 津安各五郎 ② 千時天和三年七月百廿日 ① 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水	③ 高橋山 兵部房快珍 行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 谷五郎	③ 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日 ② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水	② 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 ① 大黒屋敷助	③ 千時天和三年七月百廿日 ② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 安徳源助	③ 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六 ② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 大黒屋敷助	③ 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎 ② 右軍 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 ① 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六	③ 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎 ② 右軍 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 ① 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六	③ 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎 ② 右軍 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 ① 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六	③ 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎 ② 右軍 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 ① 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六
結 文																		
編 考																		
483																		
482																		
481																		
480																		
479																		
478																		
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	
③	①	③	②	①	③	②	①	④	③	②	①	③	②	①	③	②	①	
明治四年未秋 旗主 富忠比太郎 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六	① 為了換舞樂 五段成帳 室内安全 田澤村右衛門敬口 大永二天五年正月廿八日 旗了	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 丹邊 幸次 旗主 此太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 此太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 此太郎	④ 正八幡徳三所製三原公印 大永二年五月廿八日 旗主	③ 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ② 千時天和三年七月百廿日 兵部房快珍行年六六 ① 明治四年未秋 旗主 富忠比太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 此太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 此太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 此太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日	② 重富中津川明徳寺住僧 旗祐水 ① 明治四年未秋 旗主 此太郎	③ 高橋山聖徳寺住僧 兵部房快珍 今行年六六 此旗一部六百巻 及破御魂志余為福徳令再興者也 千時天和三年七月百廿日
結 文																		
編 考																		

卷数	503	502	501	500	499	498	497	巻数	場所	備考	
巻尾	② 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門	① 新編 兵太郎 ② 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ③ 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ④ 新編 兵太郎	① 右衛門 殿敷 ② 今在家 堀木惣五郎 ③ 新編 兵太郎 ④ 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ⑤ 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ⑥ 新編 兵太郎	① 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ② 十是天和三至五年文月下旬 中津住持 殿敷 ③ 大永二年壬子五月廿九日 鹿嶋忠左衛門 ④ 正八條三所大普賢堂公用 ⑤ 明治四年未九月 殿主 堀谷伝次郎 ⑥ 今在家 田中寛兵衛 ⑦ 于時天和三至五年文月下旬 此箱十卷中寫字之助抄之	① 今在家 田中寛兵衛 ② 此箱経書長五平度子政業書比凡入巻夕廻一枚ノ、二紙成候ノ同年 ③ 号社二月依序中統立候 ④ 于時天和三至五年文月下旬 中津明通住持 枯木 ⑤ 今在家 田中寛兵衛	① 明治四年未九月 殿主 堀谷伝次郎 ② 今在家 田中寛兵衛 ③ 此箱経書二箇 水鏡六紙寫成候事 権大前部宗政 ④ 御書以寄一箇 ⑤ 是之箱州中津明通寺住持 排水 ⑥ 御書以寄一箇 ⑦ 是之箱州中津明通寺住持 排水	① 今在家 田中寛兵衛 ② 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ③ 明治四年未九月 殿主 堀谷伝次郎 ④ 今在家 田中寛兵衛 ⑤ 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ⑥ 天和二年文月下旬 ⑦ 是之箱州中津明通寺住持 排水	① 今在家 田中寛兵衛 ② 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ③ 明治四年未九月 殿主 堀谷伝次郎 ④ 今在家 田中寛兵衛 ⑤ 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ⑥ 天和二年文月下旬 ⑦ 是之箱州中津明通寺住持 排水	巻尾	尾即以後料紙欠 何紙地筆に横書	尾即以後料紙欠
巻尾	① 今在家 田中兵右衛門	① 今在家 小田原兵衛 ② 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ③ 此抄本六百卷、及長知合再書者也 ④ 于時天和三至五年文月下旬 鹿嶋忠左衛門 ⑤ 鹿嶋州中津川明通住持 沙阿祐水	① 今在家 小田原兵衛 ② 北條毛泥六百卷、及慶理合再書也 ③ 于時天和三至五年文月下旬 鹿嶋忠左衛門 ④ 鹿嶋州中津川明通住持 沙阿祐水	① 今在家 小田原兵衛 ② 八條三所信成光 隨官納受諸人快儀 ③ 寫經再反 永禄六年秋歸申句 権大前部宗政 ④ 今在家 小田原兵衛 ⑤ 明治四年未九月 殿主 鹿嶋忠左衛門 ⑥ 鹿嶋州中津川明通住持 沙阿祐水 ⑦ 鹿嶋下反 砂屋隆及自大也、寫經経反作多候、故地下書戸 ⑧ 此抄本六百卷、及經三合再書者也 ⑨ 于時天和三至五年文月下旬	① 今在家 小田原兵衛 ② 此箱経書長五平度子政業書比凡入巻夕廻一枚ノ、二紙成候ノ同年 ③ 号社二月依序中統立候 ④ 于時天和三至五年文月下旬 中津明通住持 枯木 ⑤ 今在家 田中寛兵衛	① 今在家 田中寛兵衛 ② 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ③ 明治四年未九月 殿主 堀谷伝次郎 ④ 今在家 田中寛兵衛 ⑤ 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ⑥ 天和二年文月下旬 ⑦ 是之箱州中津明通寺住持 排水	① 今在家 田中寛兵衛 ② 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ③ 明治四年未九月 殿主 堀谷伝次郎 ④ 今在家 田中寛兵衛 ⑤ 此箱六百卷經書御宗書也、及經三枚卷宗書為科抄合再書集 ⑥ 天和二年文月下旬 ⑦ 是之箱州中津明通寺住持 排水	巻尾	尾即以後料紙欠	尾即以後料紙欠	

512		511		510		509		508		棟別	筆数
巻尾	尾	巻尾	尾	巻尾	尾	巻尾	尾	巻尾	尾		
①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	納文	筆数
此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	水掾六卷夏間 真達鳥、二度日六月此成軍 權大給筆 要敬	明治四年九月 施主 清原源助 正八卷三所大普賢堂前之公用、豊州西本陣講堂院官高代代符 之珍財等齊集來降不可取為基也 明治四年未九月 施主 清原源助	明治四年秋 施主 清原源助 今在家 田中兵右衛門 千時元禄三至天明七年六月十六日此箱十卷古佛事之遺傳之 主八體聖之公用	今在家 田中兵右衛門 沙門枯木 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺住持	大日本國西豐州本陣西本陣守正八體聖宮御立版公用 納尺米米法不可損珍財不可有此上云々 高福殿成徳堂御寶財 田澤村共 安松伊右衛門政春 此延一部六百卷、及檢御合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺住持 沙門枯木	高福殿成徳堂御寶財 田澤村共 安松伊右衛門政春 此延一部六百卷、及檢御合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺住持 沙門枯木	高福殿成徳堂御寶財 田澤村共 安松伊右衛門政春 此延一部六百卷、及檢御合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺住持 沙門枯木	高福殿成徳堂御寶財 田澤村共 安松伊右衛門政春 此延一部六百卷、及檢御合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺住持 沙門枯木	此延一部六百卷、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺住持 釈持水	備考	
518	517	516	515	514	513	512	511	510	509	棟別	筆数
巻尾	尾	巻尾	尾	巻尾	尾	巻尾	尾	巻尾	尾		
①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	納文	筆数
元文三戊申二月十三日、四日開日二所田徳左衛門 野山兵右衛門	明治四年未九月 施主 金沢松太郎 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	此延一部六百卷八卷御宝財、及破紙行安余各給檢合再興者也 千時天和三年夏文月下旬 豊之南州中津明蓮寺 釈持水	備考	

523		522		321		520		519		518		備考		
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	備考	
①	③	②	①	④	③	①	一	⑥	⑤	②	①	③	①	
今在家 田中幸助	明治四年末九月 親主 金沢佐太郎	千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 金沢佐太郎	今在家 田中幸介	大書院院史新 親言公用 明治四年末九月 親主 金沢佐太郎	平時元禄三三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 金沢佐太郎	今在家 田中幸介	一 三八編三所大書院公用 一 明治四年末九月 親主 金沢佐太郎	明治四年末九月 親主 金沢佐太郎 西之坊什物	永隆六年二書寫一巻 権大御影堂版 明治四年末九月 親主 金沢佐太郎 西之坊什物	嘉慶三年二月九日 於肥後州熊本大工院書了 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木 右兼 俊弁	崇徳法印毛書寫二ト 此編一巻六百巻八書寫御室町 及延慶院寺金公書院合再編者也 最時天和三書寫及下句 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	明治四年末九月 親主 金沢佐太郎 後作 丁替	六百巻續之 此編一巻六百巻八書寫御室町 及延慶院寺金公書院合再編者也 天和三書寫及下句 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木
527		526		525		524		523		備考		備考		
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	備考	
①	一	③	②	①	一	④	③	②	①	③	②	①		
千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸介	此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸介 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸介 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	今在家 田中幸助 此編一巻六百巻 及延慶院寺再編者也 千時天和三書寫 卷之蘭州中津川明遠寺 親主 現氏枯木	

531		530			529			528			527			
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾		
②	①	⑤	④	③	②	①	④	③	②	①	②	①		
平時天和三年七月下旬 此條一紙六百卷八卷並御家物也 兼之前州中津川明運寺 取捨水	明治四年九月 宛主 余木伊三郎 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	公用 大日本國新西路九州支之備前郡東部室賀八幡宮 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	今在家 田中康助 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬		
尾題以後料紙欠											科敷地部に紙欠			
537		536			535			534			533		532	
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾
②	①	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②	①	③	②
平時天和三年七月下旬 此條一紙六百卷八卷並御家物也 兼之前州中津川明運寺 取捨水	明治四年九月 宛主 余木伊三郎 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	今在家 吉田吉兵衛 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	近州日野町野伊守門 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬	兼之前州中津川明運寺 取捨水 此條一紙六百卷八卷並御家物也 及後刻殘念之御念書與書也 平時天和三年七月下旬
尾題以後料紙欠		尾題以後料紙欠											尾題以後料紙欠	
尾題以後料紙欠		尾題以後料紙欠											尾題以後料紙欠	

442	541		540		539		538		537		地所	筆數	
巻尾	巻尾		巻尾		巻尾		巻尾		巻尾		地所	筆數	
②	①	③	②	①	③	②	①	④	③	①	④	③	
明治四十年九月 地主 金本新平	謹記近聞	千時天和三年九月 豊之前州中津川明憲住持 沙門祐水	見地村 竹田宗信助安永	千時天和三年七月十六日 此額十令使林院岡堂蔵之	明治四十年九月 地主 金本新平	此額一部六百卷 及破損殘金之余世宗書者也 千時天和三年七月下旬 豊之前州中津川明憲住持 櫻祐水	今在家 吉田長兵衛 明治四十年九月 地主 笠野源太郎 西之坊什物	大永四年三月廿二日 蒙之 明治四十年九月 地主 笠野源太郎 西之坊什物	懷八幡堂七前公用 大永四年三月廿二日 蒙之 明治四十年九月 地主 笠野源太郎 西之坊什物	今在家 吉田長兵衛 此額一部六百卷 及破損殘金之余世宗書者也 千時天和三年七月下旬 豊之前州中津川明憲住持 櫻祐水	豊之前州中津川明憲住持 沙門祐水	② 此額一部二百字寫多 ④ 今在家 吉田伊兵衛 ⑤ 八幡大菩薩御寶西公用 大永三年六月初六日 李見了	籍文 備考
346	545		544		543		542		地所	筆數			
巻尾	巻尾		巻尾		巻尾		巻尾		地所	筆數			
②	①	③	②	①	③	②	①	⑤	④	②			
明治四十年九月 地主 金本新平	富妻村 則左衛門	為嚴親家御武田長久 於高社七在御時尊尊院 天下十二尊書 九月初七日 宗轉教仁米 宣可坊受藏	千時天和三年五月廿一日 此額一部六百卷懷八幡堂寫本也 及破損殘金之餘書者也 千時天和三年九月 豊之前州中津川明憲住持 沙門祐水	交り 大泉寺 兼助	千時天和三年九月 地主 金本新平 西之坊什物	至德四年秋續下旬之比令書寫畢 千時天和三年夏月 町町書寫畢 千時天和三年夏月 町町書寫畢 此額名簿六百卷懷八幡堂寫本也 及破損殘金之餘書者也 千時天和三年夏月 町町書寫畢	明治四十年九月 地主 金本新平 千時天和三年夏月 町町書寫畢 豊之前州中津川明憲住持 櫻祐水	古木儀助 明治四十年九月 地主 金本新平 千時天和三年夏月 町町書寫畢 豊之前州中津川明憲住持 沙門祐水	五八幡御寶東宮公用 此額一部六百卷懷八幡堂寫本也 及破損殘金之餘書者也 千時天和三年七月下旬 豊之前州中津川明憲住持 櫻祐水	千時天和四年七月二日 此巻之内帝良之御書了今川堂許申伏願御筆前藤四十二合也 自今 後末代後見之類不書了不可無口記所加書 高橋川兵部房所有也 行年二十五年才	西之坊什物 籍文 備考		

550		549		548		547		546		種數	文	備考	種數	文	備考	
卷尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
③ 此新拜禮六年三月二日拜禮中成立 于時嘉治四年八月七初之比。合書卷畢	④ 此新拜禮六年三月二日拜禮中成立 于時嘉治四年八月七初之比。合書卷畢	① 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	② 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	③ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	④ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑤ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑥ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑦ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑧ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑨ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	尾	尾	尾	尾	尾	尾
555		554		553		552		551		550		種數	文	備考		
卷尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾	尾
③ 依多牛野羅一列拜見錄	④ 小田力太郎 壬辰禮官三所六禮拜禮前。永代不拜禮之拜禮也 永代二年壬辰三月上旬九日。無拜禮書也	⑤ 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑥ 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑦ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑧ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑨ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑩ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑪ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑫ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑬ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	⑭ 此經一部六百卷八德宮書物也。及破經合再拜者也 于時天和三年庚戌七月廿六日。此第十卷卷尾中成立 ②之南州仲康川明進住持 伊勢 根水	尾	尾	尾	尾	尾

571	570				569	568				567				566				565	備考		
巻尾	巻尾				巻尾	巻尾				巻尾				巻尾				巻尾	備考		
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤		
巻出中部明遺 秋拾水	平時盛座二年三月六日 右筆書堂國高嶽山住呂 兵部房快等奉行年六六 此経大百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興也	今在家 田神之上	一 左シ	● 禮堂正八條大書院正南公用 ● 今在家 田神之上	● 平時元徳拾二書堂明秋十六日 此海十卷有宗神之 ● 明治四年春秋 筆主 金沢徳太良	● 此巻外字不詳多 二番書堂以他本及合書耳已 ● 明治四年春秋 筆主 金沢徳太良	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 今在家 筆作	● 一 左シ	● 權大僧影寫本 ● 今在家 田伴聖宗太	● 大般若經三所經紙 為當年平康皇萬延風下也 元和八年壬午十月書日 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 今在家 筆作 ● 筆主 金沢徳太良	● 明治四年春秋 筆主 金沢徳太良	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 平時天和三年書堂文月百曆日 ● 今在家 筆作	● 天文六丁丑五月書堂 惠等一覽 ● 今 中巻部北 筆主 金沢徳太良	● 明治四年春秋 筆主 金沢徳太良	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 平時天和三年書堂文月百曆日	● 今 中巻部北 筆主 金沢徳太良	● 明治四年春秋 筆主 金沢徳太良	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 平時天和三年書堂文月百曆日
577	576				575	574				573				572				571	備考		
巻尾	巻尾				巻尾	巻尾				巻尾				巻尾				巻尾	備考		
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤		
明治四年未九月 筆主 鹿島志兵衛	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 平時元徳拾二書堂明秋十六日 此海十卷有宗神之 ● 明治四年春秋 筆主 鹿島志兵衛	● 此巻外字不詳多 二番書堂以他本及合書耳已 ● 明治四年春秋 筆主 鹿島志兵衛	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 今在家 筆作	● 一 左シ	● 權大僧影寫本 ● 今在家 鹿島志兵衛	● 大般若經三所經紙 為當年平康皇萬延風下也 元和八年壬午十月書日 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 巻出中部明遺 秋拾水	● 今在家 筆作 ● 筆主 鹿島志兵衛	● 明治四年春秋 筆主 鹿島志兵衛	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 平時天和三年書堂文月百曆日 ● 今在家 筆作	● 天文六丁丑五月書堂 惠等一覽 ● 今 中巻部北 筆主 鹿島志兵衛	● 明治四年春秋 筆主 鹿島志兵衛	● 此経一源六百尊聖宮宝物也 及致却残心余為結縁再興者也 ● 平時天和三年書堂文月百曆日	● 今 中巻部北 筆主 鹿島志兵衛	● 明治四年春秋 筆主 鹿島志兵衛	

583		582			581			580	579	578		577
巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾	巻尾	巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾
③	①	④	②	⑤	①	③	②	①	①	③	①	①
干時嘉慶元年九月二日 池辺寺常住証也 大願主政所奉家	豊崎千代用明通寺住持 秋祐水 干時天和三年癸未七月吉神日 此経一巻六百巻 及改御撰本爲結縁再興會也	明治四年未秋 地主 金沢古次良 小原村 加野安兵衛 干時天和三年癸未七月吉神日 此経一巻六百巻 及改御撰本爲結縁再興會也	干時天和三年癸未七月吉神日 干時嘉慶元年立二月上旬之比 豊崎寺坊小古寺下	明治四年未秋 地主 金沢古次良 干時嘉慶元年立二月十五日 此経十巻有御撰本之	干時天和三年癸未七月吉神日 干時嘉慶元年立二月十五日 此経十巻有御撰本之	④ 榎井村 久之系 ③ 正八幡三所大横庭御通御五所公用 ② 干時嘉慶元年九月下旬其 金沢寺奉 ① 干時天和三年癸未七月吉神日 豊崎寺中津明蓮寺住持 秋祐水	② 此経一巻六百巻 及改御撰本爲結縁再興會也 ① 干時天和三年癸未七月吉神日 此経一巻六百巻 及改御撰本爲結縁再興會也	① 明治四年未九月 地主 豊崎寺兵衛 一なし ③ 干時嘉慶元年九月 豊崎寺兵衛 亦可校合者也 ② 州御家御通宮御立御之公用 ① 明治四年未九月 地主 豊崎寺兵衛	③ 州御家御通宮御立御之公用 ② 州御家御通宮御立御之公用 ① 明治四年未九月 地主 豊崎寺兵衛	③ 州御家御通宮御立御之公用 ② 州御家御通宮御立御之公用 ① 明治四年未九月 地主 豊崎寺兵衛	③ 州御家御通宮御立御之公用 ② 州御家御通宮御立御之公用 ① 明治四年未九月 地主 豊崎寺兵衛	
							科紙欠品題なし					科紙欠品題なし
588		587		586		585		584		583		巻尾
巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾	見付	巻尾
③	②	①	②	①	②	③	②	①	②	③	②	②
此経一巻六百巻 依及改御撰本爲結縁再興會也	明治四年未九月 地主 清藤安次良	① 北江 石川百五郎門 明治四年未秋 地主 宗安安 北江 石川島兵衛 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	② 北江 石川島兵衛 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	① 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	② 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	③ 此経一巻六百巻 依及改御撰本爲結縁再興會也 ② 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	② 北江 政良御 干時嘉慶元年九月下旬之比 赤木合寺奉 明治四年未秋 地主 肥後國池辺寺常住証也	① 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	② 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水	③ 干時嘉慶元年九月十五日 池辺寺常住証也 此経一巻六百巻 依及改御撰本爲結縁再興會也	② 明治四年未秋 地主 金沢古次良 池八幡宮内御撰御之公用 更永代不野御之書所也 宮内御撰 永徳六味御中句比成紙 京御御撰 小原神屋 瓜梨 ④ 豊津村 五兵衛 上小原村 神之地 ③ 明治四年未九月 地主 池野安次良	② 干時天和三年癸未七月吉神日 豊之前津川明蓮寺住持 秋祐水
												科紙地に横書

592		591		590		589		588	
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾
④	①	④	①	④	①	④	①	④	①
<p>正八幡佛宮御堂前公用、永代下石跡米未納之卷五</p> <p>正八幡佛宮御堂前公用、永代下石跡米未納之卷五</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>
597		596		595		594		593	
巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾	巻尾
③	①	③	①	③	①	③	①	③	①
<p>此証一部六百巻、及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>	<p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p> <p>此証一部六百巻、依及破却令可觀者也</p>

600		599		598		忠臣 退所	忠臣 退所
巻尾		巻尾		巻尾		忠臣 退所	忠臣 退所
④	此種一節六百巻者、櫻子八幡宮之神神宝也、然悉別名與尋常此處被十神宮祀禮尚、故今此種宮院所謀受也、諸部弘法元如天下普平國家神誠、殊現般當已甲家遂當受了保長進討也。 平時明治四年末九月 豊後國國東郡國東寺邑 櫻子山崎之坊願元誠	①	此種一節六百巻、櫻子八幡宮之神神宝也、然悉別名與尋常此處被十神宮祀禮尚、故今此種宮院所謀受也、諸部弘法元如天下普平國家神誠、殊現般當已甲家遂當受了保長進討也。 平時明治四年末九月 豊後國國東郡國東寺邑 櫻子山崎之坊願元誠	①	此種一節六百巻、櫻子八幡宮之神神宝也、然悉別名與尋常此處被十神宮祀禮尚、故今此種宮院所謀受也、諸部弘法元如天下普平國家神誠、殊現般當已甲家遂當受了保長進討也。 平時明治四年末九月 豊後國國東郡國東寺邑 櫻子山崎之坊願元誠	①	此種一節六百巻、櫻子八幡宮之神神宝也、然悉別名與尋常此處被十神宮祀禮尚、故今此種宮院所謀受也、諸部弘法元如天下普平國家神誠、殊現般當已甲家遂當受了保長進討也。 平時明治四年末九月 豊後國國東郡國東寺邑 櫻子山崎之坊願元誠
	今在案 中嶋政助	②	明治四年末九月 坂主 藤田牧吉	②	吉木 政五郎門	②	菅野村 志太郎
		③	明治四年末九月 坂主 藤田牧吉	③	吉木 政五郎門	③	菅野村 志太郎
		④	此種一節六百巻、櫻子八幡宮之神神宝也、然悉別名與尋常此處被十神宮祀禮尚、故今此種宮院所謀受也、諸部弘法元如天下普平國家神誠、殊現般當已甲家遂當受了保長進討也。 平時明治四年末九月 豊後國國東郡國東寺邑 櫻子山崎之坊願元誠	④	此種一節六百巻、櫻子八幡宮之神神宝也、然悉別名與尋常此處被十神宮祀禮尚、故今此種宮院所謀受也、諸部弘法元如天下普平國家神誠、殊現般當已甲家遂當受了保長進討也。 平時明治四年末九月 豊後國國東郡國東寺邑 櫻子山崎之坊願元誠	④	菅野村 志太郎

2 紀家系譜(抄出) ○長福寺藏

五十六代 紀伊守源朝臣
季文公孫

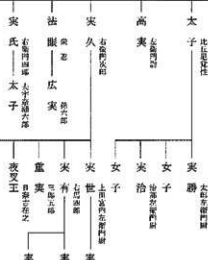
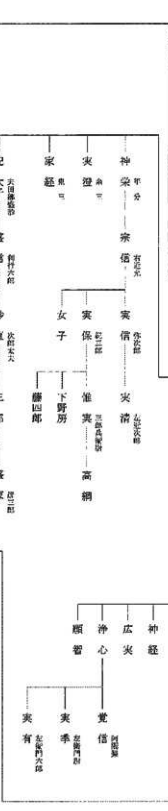
二十代 宇治郡藤原宗茂公孫
長念孫
(中略)
二十二年二月廿八日崩

二十代 肥前守宇治源氏長宗
長孫
及十八代長宗孫長宗四十六

(中略)

二十九代 乃木式部左衛門守
俊道
宇治守藤原宗茂公孫

季
平長宗源氏宗茂公孫
實繼
平長宗源氏宗茂公孫
良實
實房
實方
實時
中務入道



II 近世資料

ここには、近世の関東地域における治水・水利に関する史料と、村勢要覧ともいべき村明細帳を収録した、治水・水利の関係史料として収録したものが、『平尾家文書』および『中田村文書』である。まず、この二つの古文書群と、本書に収録した史料について概説することにした。

【平尾家文書】(個人所蔵)は、上小原村庄屋役をつとめた平尾家に伝わった古文書群である。上小原村は、国東市国東町の南部をほぼ東西方向に貫流する清流川(約六・〇㎞)の中・上流域に位置していた村で、現在は国東町小原に含まれている。一方の「中田村文書」は、中田村庄屋役をつとめた中野家に伝わった古文書群で、現在は大分県立先哲史料館と別府大学に分蔵されている。中田村(現・国東町中田)は、国東町の中部付近をほぼ東西方向に貫流する田深川(約一四・二㎞)の中流域に位置していた村である。

さて、近世の国東半島における水田開発が、河川の氾濫を防ぐ治水の進展と、灌漑施設である溜池の築造により達成されたことは、これまでの本調査でも明らかにされてきた通りである。この点をふまれば、河川の堤防の修復工事に関する「川普請」の史料と、溜池の築造・修復工事に関する「池普請」の史料は、水田開発史の検討において、いずれも重要な情報をもたらしてくれる。こうした観点に立つて、本書には、『平尾家文書』と『中田村文書』にみられる「川普請」および「池普請」の史料を収録した。以下、収録した史料の概説を兼ねて、とくに注目されるいくつかの史料を紹介していく。

【平尾家文書】中の史料⑩・⑪は、文政一(一八二八)年七月に、清流川で発生した洪水被害にともなう堤防の修復工事に関するものである。上小原村では、洪水の発生直後に被災場所の修復工事を行ったが、文政一二年正月付の史料⑩は、その際に工事ができなかった堤防の修復工事、同村があらためて願い出たものである。しかし、この願い出は許可されなかったために、上小原村は、規模を大幅に縮小した上で、翌二月にふたたび修復工事を願い出た(史料⑪)。この願い出

は、翌三月に許可されている。こうして、修復工事は着手されたものと思われるが、二ヵ月後の五月に発生した清流川の洪水は、工事の進展を大きく妨げたと考えられる(史料⑫)。なお、清流川では、天保七(一八三六)年七月にも洪水が発生している(史料⑬)。近世を通じて、河川の治水が、村々にとって普遍的な課題であったことは想像に難くない。

【中田村文書】中の川普請史料を一覧すると、右記の点がさらに明らかとなる。中田村を貫流する田深川では、天保七年(史料⑭・⑮)、同九年(史料⑯・⑰)、嘉永六(一八五三)年(史料⑱)、安政四(一八五七年)(史料⑲)、同五年(史料⑳)に洪水が発生しており、そのたびに村築藩の許可を得て、被災した堤防などの修復工事が行われている。こうした洪水被害にともなう川普請について、文政一〇年二月付の史料㉑には、興味深い記述がみられる。中田村が、同史料中で修復工事を願い出した場所は、供水度毎二手損シ中候場所であり、この流域の耕地は「過分年々当損二相成」といった状況にあるという。すなわち、「是迄普請御免被成下普請出来之上著荒地ニも相成候得共、供水度毎大破二相成候へ著荒地之上二新二当損相増、当時二而者過分之当損場所」であるので、今回は「手強く普請」を行いたいと願い出たのである。

この史料㉑において留意される点は、中田村の耕地が、荒地と再開発をくり返していたと考えられることである。同村の耕地には、「川底二相成居候御田地も過分」に存在するなど、洪水被害にともない、荒地がなば常態化していたとみられる。これは、近世における河川の治水が、決して一時期に達成されたわけではなく、近世を通じて徐々に進展したことを示している。

【平尾家文書】および「中田村文書」中の池普請史料を一覧すると、溜池の堤や池水の送水管である橋の修復工事が、くり返し行われていたことがわかる。これは、溜池の維持・管理にあたっては、たび重なるメンテナンスが不可欠であったことを物語っている。しかし、もともと注目されるものは、『平尾家文書』中の文化八(一八一)年三月付の史料㉒である。

上小原村内の浜田の水田は、「井手末」に所在するために、「年々干損場所二御座候而田主共難決」といった状況にあった。そこで、上小原村は、「出水場所」が

ある村内の石生谷に、新たに溜池を築造したいと願いだしたものである。(この願いは翌四月に許可を受ける。)すなわち、この石生谷における溜池の築造は、新たな水田の開発ではなく、用水路の末端に位置する既存水田への用水の安定供給を目的としていたのである。もとより、近世に築造された溜池には、寛文三(一六六三)年に竣工した尾弘池(現・国東市安岐町)のように、水田の面的な拡大に重点が置かれた大規模なものもみられる。しかし、近世における溜池築造のあり方としては、上小原村の事例にみられるような、水利の安定化を目的としたものが一般的であったと考えられる。

池蕃譜史料のなかで、なお注目されるものが「中田村文書」中の史料④(年次未詳)である。これは、中田村が、中山中池の堤の補強工事にともない、人夫に与えられる扶持高について願いだしたものであるが、「当修繕園圃者共二出夫出情為仕、奉之いのちき仕敷」という一文は興味深い。この一文から、池蕃譜は、零細な村人の生計を支える公共事業としての側面をもっていたことがわかる。こうした池蕃譜はもちろん、前述した川蕃譜をはじめとする村内のさまざまな土木工事は、いずれも公共事業的な側面をもっていたものと思われる。

最後に、村明細帳として収録した、宝暦五(一七五五)年四月付の「豊後國東郡岩戸寺村細帳」について概説しておこう。これは、標題に「按本」と記されていることから、日田代官の求めに応じて岩戸寺村が提出した村勢覽の控えであることがわかる。この史料には、宝暦五年時点における岩戸寺村の村高・反別や人口・世帯数だけではなく、治水・灌漑施設や水利体系の概要、水田・畑地ごとの地味、生産作物や稲の品種、そして寺院や神社など、本調査にとって有効な情報が多く含まれている。

「豊後國東郡岩戸寺村細帳」の内容は、村明細帳が、本調査における重要な基礎史料となることをあらためて示している。なお、今回は原史料の確認ができなかったため、史料の翻刻にあたっては、「大分県史」編纂時に作成された写真版を利用した。

(平川 敏)

凡 例

翻刻にあたっては、原則として原史料の体裁にしたがったが、読解の利便性を考慮して左記の諸点は改めた。

*用字は、地名・人名等を含めてすべて常用漢字を用いた。

*本文中に、読点(、)および並列点(・)を補った。

*平出は、一字空けてこれを示した。欠字はとくに示さなかった。

*割注は、一行にまとめて活字を小さくして示した。

*変体仮名は、江(え)・而(に)・者(は)を除いて、すべて平仮名に改めた。

*なお、ふ(より)についてはそのまま表記した。

*虫損・汚損等により翻刻が不可能な文字は、字数に応じて□で示し、字数が不明な場合は「一」で示した。ただし、本来表記されていた文字が推測できる場合は、右側に(○カ)と注記した。

*抹消箇所は、その箇所の右側に抹消記号(×)を付して示した。

一 後筆・付紙・貼紙は、その箇所を「」で囲み、右肩に(後筆)・(付紙)・(貼紙)と注記した。

一 当時、慣用的に用いられた文字、あるいは明らかに誤字・誤用と思われる箇所は原史料の表記にしたがい、その箇所の右側に()で囲んで正しい文字を示すか、(マ)・(○)等と注記した。このほか、校正者による傍注は、すべて()で囲んで示した。

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

1 平尾家文書

○個人所藏

① 奉願池前築之事

奉願池前築之事

尾追池

長三拾貳間

上小原

一、池前築

横三尺

此坪三拾坪半

此夫貳百四拾四人 但、老坪八人懸り

長三拾貳間

一、間石垣

横貳尺

此坪貳拾坪半

高サ貳間

此夫貳百四拾六人 但、老坪拾貳人懸り

但、老坪之石老尺五歩四方角之積りニ石數貳百拾六、此坪夫石老つ武人懸りニノ四百三拾貳人、石取場所在来六丁、一日二六里歩行之積りニノ老人ニ付三拾六あり

坪數ノ五拾老坪

夫數ノ四百九拾人

右者、尾追池水溜り不申ニ付当春前築仕度候、御見分之上普請被仰付被下候様奉願候、以上

文化二年五月

上小原弁差

幾右衛門(印)

同村庄原

素助(印)

浅井善八郎殿(印)

御邸所

[裏書]

表書之通可被申付候、以上

丑二月十七日

増田藤八(印)

② 奉願新池之事

奉願新池之事

上小原

きべつとふ

一、土手長貳拾老間

一、間底拾間 平均拾五間半

一、横根切拾八間

一、馬路拾間半 平均拾四間

高サ五間

此坪千八拾五坪

此夫六千五百拾人

但、老坪二付六人懸り

右者、上小原新池場所先達而御見分被成下盤廻仕候處、宜御座候ニ付普請仕度奉願候、御免被成下候様御断被仰上可被下候、以上

文化七年二月

上小原庄屋

素助(印)

立川八五郎殿(印)

御邸所

[裏書]

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

三月十二日

三浦主給(印)

③ 奉願池堀貫之事

奉願池堀貫之事

上小原

本多丹藏殿(印)

素助(印)

尾泊池

一、堀貫拾三間

此堀貫銀札貳百六拾匁

但、惣間二付貳拾匁

右者、上小原尾泊池敷樋通不申候ニ付堀貫仕度奉願候、宜御断被仰上可被下

候、以上

文化七年午三月

上小原庄屋

素助(印)

立川八五郎殿(印)

御郡所

⑤ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

素助(印)

御郡所

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

四月十日

増田藤八(印)

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

四月十日

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

四月十日

④ 御願申上覚

御願申上覚

上小原

尾泊池

一、堀割候六間、底名間 平均三間半

二、樋浦長五間、尻間三間 平均四間

高少式間半

此角坪三拾五坪

此夫堀埋四百貳拾人、但、惣坪二付拾貳人懸

右者、尾泊池堀貫損水留り不申二付、此度敷樋仕添申度奉願候、御見分之上

御免被成下候様宣敷御断被仰上可被下候、以上

文化九年申正月

上小原庄屋

曾助(印)

本多丹藏殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

申二月廿二日

中村純平(印)

④ 御願申上覚

御願申上覚

上小原

一、当村浜田と申所之田地井手末二而水行届概、年々干損場所ニ御座候而田主共

難渋仕候、然処石生谷と申所ニ出水場所御座候ニ付、試ニ水溜見候処、至而

水溜宜御座候間、右之場所ニ小池仕浜田へ懸り候様仕度奉存候、御見分之上

御免被成下候ハ、村夫を以普請仕度、此段宜様御断被仰上可被下奉願候、以

上

文化八年未三月

上小原庄屋

⑥ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

一、前瑞

長切武間 中邊石垣五間 〱七間 ならし三間半

上小原

高三間

横武間半

此坪武拾六坪

此夫百五拾六人 但、老坪二付六人懸り

但、石垣取除夫

同百三拾人

但、老坪二付五人懸り

但、埋夫

〱武百八拾六人

右者、尾追池古種腐候故敷洩付候間、前瑞石垣取除古垣腐候分堀出能埋見申

度候、御見分之上普請御免被成下候様奉願上候、宜御断被仰上可被下候、以

上

文化十二年亥二月

上小原庄屋

治助 (印)

後見

素助 (印)

本多丹藏殿 (印)

御郡所

〔表書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

亥二月廿九日

増田藤八 (印)

⑦ 奉願覚

奉願覚

一、当村きへつと新地

寛文四年迄三年御普請被成下、十日程も水落候様相

上小原

成届申候、然ル処一村二而者容易ニ成就難仕候付、何卒当春水出水出夫被仰付被

下候様奉願候、宜御断被仰上可被下候、以上

文化十三年子正月

上小原庄屋

次助 (印)

本多丹藏殿 (印)

御郡所

〔表書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

子三月

増田藤八 (印)

⑧ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

内山池

長上四間、下老間、平均武間半

上小原

一、土手

樋通共六間、横三間、平均四間半

高三間

此坪三拾三坪半

右者、内山池敷種損申候二付、此度敷種仕直申度奉願候、御見分候上御免被

成下候様宣敷御断被仰上可被下候、以上

文政二年卯正月

上小原庄屋

次助 (印)

衛藤四郎右衛門殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

卯二月三日

覆笠莊八郎(印)

⑨ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

一、樋通堀割

長三間

横上四間、下老間

八五間 平均式間半

高サ五間〔此坪三拾七坪半〕

此夫貳百貳拾五人 但、老坪二付六人懸り

一、同埋

長樋通九間、辻五間

八拾四間 平均七間

横上四間、中三間、下老間

八八間 平均式間半

高五間、三間、老間 此坪五拾貳坪半

九間 平均三間

此夫三百拾五人 但、老坪二付六人懸

夫五百四拾人

右者、尾迫池去夏樋通洗致破損仕申候ニ付夫續仕差上申候、御見分之上普請御免被成下候様奉願候、宜御断被仰上可被下候、以上

文政六年未二月

上小原庄屋

治助(印)

用水懸

信右衛門(印)

渡辺近藏殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通御免被成候間、其段可被申付候、以上

未二月

宮崎半太(印)

⑩ 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

さへつとふ新池

長貳拾老間

横老間半 此坪百拾坪

高サ三間半

此夫九百三拾五人 但、土取場老間以上、八人半懸り

一、浦石垣

平坪段式拾老間、高サ三間半 此坪七拾三坪半

此夫四百四人 但、老坪二付五人半懸り

但、石垣築持寄夫共

一、土手掘

長下式拾老間、上式拾五間半 平坪式拾三間式歩五厘

横下三間、馬場老間半 平坪式間式歩五厘

高サ老間半 此坪七拾八坪半

此夫六百貳拾八人 但、老坪二付八人懸り

但、石垣竊持妻夫共

一、浦石垣

平均貳拾三間貳步五厘

一、土手掃

長貳拾卷間

高サ卷間半

上貳拾五間半

此坪三拾五坪

横三間

平均貳間貳步五厘

此夫百九拾三人 但、老坪二付五人半懸り

馬蹄老間半

夫ノ貳千百六拾人

〔高サ卷間半〕

右者、きへつとふ新池浦端土手掃、当奉普請御免被成下候様宜御断被仰上可

此坪七拾八坪半

被下奉願上候、以上

此夫六百貳拾八人 但、老坪二付八人懸り

文政八年酉正月

上小原庄屋

一、浦石垣

平均貳拾三間貳步五厘

治助

高サ卷間半

用水懸り網井村

此坪三拾五坪

笠置權平殿

此夫百九拾三人 但、老坪二付五人半懸り

御郡所

夫ノ貳千百六拾人

⑩ 奉願池普請之事

右者、きへつとふ新池浦端土手掃、当奉普請御免被成下候様宜御断被仰上可

⑪ 奉願池普請之事

被下奉願上候、以上

上小原庄屋

奉願池普請之事

文政八年酉正月

治助(印)

上小原

用水懸網井村

きへつとふ新池

信右衛門

長貳拾卷間

笠置權平殿

一、土平

横卷間半 此坪百拾坪

御郡所

高サ三間半

御郡所

此夫九百三拾五人 但、土取邊老町以上、八人半懸り

一、浦石垣

平坪長貳拾卷間 高サ三間半 此坪七拾三坪半

此夫四百四人 但、老坪二付五人半懸り

① 奉願池普請之事

奉願池普請之事

上小原

一、古荒手取除夫

長上三間 下武間 平均五間半

横 老間半 下武間半 平均武間

高サ三間半

此角坪拾六坪半

此夫六拾六人 但、老坪二付四人懸り

長平均七間半

横平均老間八合九勺

高サ三間

此角坪四拾貳坪半

此夫貳百九拾八人 但、老坪二付七人懸り

長平均七間半

横老合老勺

高サ三間

此角坪貳坪半

此夫貳拾六人 但、五町以上、老坪付拾人懸り

夫ノ三百九拾人

樋通武間八合九勺

一、樋通古土手文堀堀

長上武間半 下武間 平均老間半

高サ四間

此角坪拾七坪半

此夫百七拾五人 但、深サ四間付拾人懸り

一、樋通古土手芝取

樋通七寸

長老間半

高サ四間

此角坪半坪

此夫五人 但、五町以上、老坪二付拾人懸り

一、新土手築添

樋通老間三合九勺

長上三間 下武間半 平均武間七合五勺

高サ武間

此角坪七坪半

此夫六拾四人 但、武町以上、老坪二付八人半懸り

樋通七寸

長武間七合五勺

高サ武間

此角坪半坪

一、新土手芝取

夫ノ貳百四拾九人

合六百三拾九人

右者、木別当池古荒手洩付并堀技前樋通りしつくひ損シ洩候ニ付、何も堀除詰替不仕候而者水溜羅仕、右ニ付普請御願申上候是、御見分被成下御差因之通夫額仕差上申候間、御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

文政九年戊辰正月

上小原庄屋

治助(印)

用水懸納井村

債右衛門(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免候間、夫遣ひ方之儀ハ当奉柄之儀候間、下方取調之上可被
中付候、以上

戊二月

小串助右衛門(印)

⑬ 覺

覺

上小原

水木

一、川土平

長五間

横式間半

此角坪拾貳坪半

高サ老間

但、右垣

此人夫六拾貳人半 但、老坪二付五人懸り

見田

一、同

長四拾間

横式間

八拾坪

高サ老間

但、右同断

此人夫四百人 但、老坪二付五人懸り

龜郷

一、同

長貳拾七間

横半間

拾三坪半

高サ老間

但、右同断

此人夫五拾四人 但、老坪二付四人懸り

向川

長拾四間

一、同

横式間

貳拾八坪

但、右同断

此人夫百四拾人 但、老坪二付五人懸り

はさこ

一、同

長四拾間

横老間

貳拾坪

高サ半間

但、右同断

此人夫八拾人 但、老坪二付四人懸り

小園

一、同

長九間

横半間

六坪七合五勺

高サ老間半

但、右同断

此人夫貳拾七人 但、老坪二付四人懸り

同所

一、同

長八間

横老間半

拾貳坪

高サ老間

但、右断

此人夫六拾人 但、老坪二付五人懸り

新貝

一、同

長拾間

横老間

拾坪

高サ老間

但、右同断

此人夫四拾人 但、老坪二付四人懸り

〔田代〕
一、間

長三間
横式間
高サ老間
六坪

但、右同断

此人夫三拾人 但、老坪二付五人懸り

力堂
一、間

長四間
横半間
高サ老間
式坪

但、右同断

此人夫八人 但、老坪二付四人懸り

まへ田
一、間

長式拾三間
横老間半
高サ老間
三拾四坪半

但、右同断

此人夫百七拾式人半 但、老坪二付五人懸り

同所
一、間

長式拾六間
横老間
高サ老間
式拾六坪

但、右同断

此人夫百四人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、間

長式拾三間
横半間
高サ老間
拾老坪半

但、右同断

此人夫四拾六人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、間

長九間
横老間
高サ老間
九坪

但、右同断

此人夫三拾六人 但、老坪二付四人懸り

鶴田
一、間

長四間
横半間
高サ老間
式坪

但、右同断

此人夫八人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、間

長式拾四間
横半間
高サ老間半
拾八坪

但、右同断

此人夫七拾式人 但、老坪二付四人懸り

流田
一、間

長拾五間
横半間
高サ老間
七坪半

但、右同断

此人夫三拾人 但、老坪二付四人懸り

同所
一、間

長拾間
横半間
五坪

一 高サ老間

但、右同断

此人夫貳拾人 但、老坪ニ付四人懸り

庄の下

一、同

長七間
横老間半

拾坪半

但、右同断

此人夫四拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

川原田

一、同

長四間
横半間

三坪

但、右同断

此人夫拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

同所

一、同

長四間
横半間

三坪

但、右同断

此人夫拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

栗山の下

一、同

長拾四間
横貳間

四拾貳坪

但、右同断

此人夫貳百拾人 但、老坪ニ付五人懸り

向田

一、同

長拾貳間
横老間

拾貳坪

但、右同断

此人夫四拾八人 但、老坪ニ付四人懸り

竹の下

一、同

長貳拾間
横老間

貳拾坪

但、右同断

此人夫八拾人 但、老坪ニ付四人懸り

同所

一、同

長拾老間
横半間

五坪半

但、右同断

此人夫貳拾貳人 但、老坪ニ付四人懸り

地田

一、同

長三拾四間
横半間

拾七坪

但、右同断

此人夫六拾八人 但、老坪ニ付四人懸り

同所

一、同

長拾間
横老間半

拾五坪

但、右同断

此人夫七拾五人 但、老坪二付五人懸り

龜郷

一、同

長四間

横老間

四坪

高サ老間

但、右同断

此人夫拾六人 但、老坪二付四人懸り

浜田

一、同

長式拾七間

横半間

拾三坪半

高サ老間

但、右同断

此人夫五拾四人 但、老坪二付四人懸り

三尾

一、同

長拾老間

横半間

五坪半

高サ老間

但、右同断

此人夫式拾貳人 但、老坪二付四人懸り

坪数ノ四百五拾五坪式合五勺

人夫ノ貳千五拾零人

人夫ノ貳千五拾零人

内

千式拾三人

但、去秋差懸仕儀出夫辻

殊千式拾八人

右書、去于七月洪水二付、川筋破損場所普請夫續り仕送申儀内、去秋差懸
り候場所普請仕、相殘場所当普請仕度奉存候、宜御断被仰上可被下奉願上

候、以上

文政十二年丑正月

上小原庄屋

治助(印)

笠藏権平殿(印)

御郡所

⑭ 奉願覚

奉願覚

見田

一、土手

長三拾五間

横老間半

此坪五拾貳坪半

高老間

此夫貳百六拾貳人 但、老坪五人懸り

かめ田

一、往來

長式拾七間

横半間

此坪八坪半

高四尺

此夫三拾四人 但、老坪四人懸り

向川

一、同

長拾四間

横老間老尺五寸

此坪拾五坪

高五尺五寸

此夫六拾人 但、老坪四人懸り

つる田

一、井手溝

長式拾貳間

横五尺

此坪貳拾老坪半

高老間老尺五寸

此夫百七人 但、老坪五人懸り

竹の下 長拾三間

一、同 此坪六坪半

高老間

此夫武拾六人 但、老坪四人懸り

夫ノ四百八拾九人

右者、去^テ子^ノ年洪水之節、土平切難持置場所ニ付去秋出夫仕儀候迄、此上捲置

候而者少水ニ而も及大破候場所ニ御座候間、御見分之上普請御免被成下、夫

扶神御渡被下候様奉願候、以上

文政十二年丑二月

上小原庄屋

治助(印)

御郡所

笠置権平殿(印)

[裏書]

表書之通被成御免、夫扶神大索三石卷斗七升八合五勺被下之間、普請可被申

付候、以上

丑三月

増田万太(印)

⑮ 奉願覚

奉願覚

上小原

水永

一、川土手

長五間

横卷間半

高サ志間

此坪七坪半 但、四人懸り

此夫三拾人

はきこ 長四拾間

一、同 横五尺

高サ半間

此坪拾六坪 但、四人懸り

此夫六拾四人

小もの 長八間

一、同 横卷間半

高サ半間

此坪六坪 但、四人懸り

此夫夫貳拾四人

新貝 長拾間半

一、同 横卷間

高サ四尺五寸

此坪七坪半 但、四人懸り

此夫三拾人

田代 長三間

一、同 横武間

高サ老間老尺五寸

此坪六坪 但、五人懸り

此夫三拾人

まへ田 長九間

一、同 横卷間

〔高サ老間 〔老尺五寸〕〕
此坪拾老坪 但、四人懸り
此夫四拾四人

同所

長貳拾三間

横老間

高サ四尺

此坪拾四坪半 但、四人懸り
此夫五拾八人

流田

一、井手溝

長七間

横半間

高サ四尺五寸

此坪貳坪半 但、四人懸り
此夫拾人

葉山の下

一、川土手

長拾三間

横老間

高サ五尺

此坪拾坪半 但、四人懸り
此夫四拾貳人

竹の下

一、同

長拾間

横五尺五寸

高サ貳尺五寸

此坪三坪半 但、四人懸り
此夫拾四人

地田

一、同

長拾間

横老間半

高サ老間

此坪拾五坪 但、四人懸り
此夫六拾人

夫ノ四百六人

右者、去子年洪水之節、土手切難拾置場所ニ付去秋村方ニ而舊請仕置候間、

御見分之上夫扶持御渡彼下候様奉願候、以上

文政十二年五月二日

上小原庄屋

治助 (印)

笠置権平殿 (印)

御郡所

〔要書〕

表書之通被成御免、夫扶持大妻式石六斗三升九合被下之間、其段可被申付候、以上

廿三日

増田万太 (印)

⑮ 奉願覚

奉願覚

木別当池

一、堀抜樋通前

長上式間 下老間 平均老間半

樋通四間

高サ上三間半、前老間半、平均式間半

此角坪拾五坪

此夫百五拾人 但、堀埋二間拾人懸り

右者、木別当池樋通しつづく損壊候ニ付堀除、しつづく仕置詰替不仕候而者

經水溜り、右二付堀堀夫頼仕差上申候、御見分之上普請御免被成下候様宣御
断被仰上可被下奉願上候、以上
文政十二年丑二月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免、夫扶持大妻老石五斗被下之間、普請可被申付候、以上
丑四月
十市郎助(印)

① 奉願覚

奉願覚

上小原

見田

一、川土手

長拾三間

横卷間

高サ四人

此角坪八坪貳合五勺

此夫四拾老人 但、五人懸り

龜郷

一、間往来

長貳拾七間

横半間

高サ半間

此角坪六坪七合五勺

此夫貳拾七人 但、四人懸り

新貝

一、同土手

長三間半

横半間

高サ老間

此角坪老坪七合五勺

此夫七人 但、四人懸り

まへ田

一、同土手

長三間

横卷間

高サ老間

此角坪三坪

此夫拾貳人 但、四人懸り

鶴田

一、井手

長七間半

横半間

高サ老間半

此角坪五坪六合

此夫貳拾八人 但、五人懸り

葉山の下

一、同土手

長拾五間

横四尺五寸

高サ老間

此角坪拾坪七合

此夫四拾三人 但、四人懸り

人夫ノ百五拾八人

右着、去月廿三日洪水二付破損仕候処、難捨置場所御座候間、何卒普請御免
被成下候様宣敷御断被仰上可被下奉願候、以上
文政十二年丑六月

上小原庄屋

治助(印)

笠置権平殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書之通被成御免、夫扶持大妻老石貳斗七合被下之間、其段可被申付候、以
上

丑七月

増田万太(印)

⑩ 奉願寛

奉願寛

上小原

尾追切池

長上七間、下式間、平均四間半

一、土手

横専道四間、当番式間、平均八間

高廿六間半、此坪式百三拾四坪

此夫千四百四人、但、老坪二付六人懸り

右者、去ル中年堀抜損土手洗切申候ニ付普請御願申上候処、尾追之儀者敬度

偏付候池ニ候得者捨置、木別当池之方致普請候ハ、一付并用ニも可相成候間

普請仕候様被仰付、去ル西ノ春御普請被成下、余程水溜り候様相成候処、南

之方地山土地悪敷洩り候故、前筑等も仕候得共洩り留り不申候、其上村米迄

二者水行届兼早損場所も御座候ニ付、何分尾追之所取繕仕見申度、村方も箇々

池普請旁殊之外当時因窮仕居申候得共、何卒出情仕度段願出申候、御見分之

上來春普請御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

文政十二年十二月

上小原庄屋

笠置権平殿(印)

御郡所

〔奥書〕

表書之通被成御免候間、其段可被申付候、已上

寛三月

増田万太(印)

⑪ 奉願寛

奉願寛

上小原

尾追池

長上三拾四間、平均貳拾貳間

一、土手前筑式間

間下拾間

高廿五間

此坪式百貳拾坪

此夫千三百貳拾人、但、老坪二付六人懸り

右者、尾追池堀抜洗切候ニ付、去ル丑年普請御願申上御免被成下普請仕候処、

兎角古樋通ニ洩付、其上土手薄夕御座候得者、供水之節者又々古樋通洗切候

程も無免速率存候ニ付、前筑仕候半者土手も丈夫相成洩も留り可申、何分難

捨置候御座候、押移り候半者及大破候様可相成と奉存候、御見分之上當春普

請御免被成下候様宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保七年申正月

上小原庄屋

加藤木右衛門殿(印)

御郡所

⑫ 寛

寛

上小原

石生

一、川土手

長貳拾九間

横専間半

高廿老間半

此夫貳百一十九拾貳人、但、老坪二付四人半懸り

はさこ
一、同 (長式拾間
横卷間)

此坪式拾坪
此夫九拾人 但、老坪二付四人半懸り

新貝
一、同 (長拾四間
横式間)

此坪式拾八坪
此夫百貳拾六人 但、老坪二付四人半懸り

まへ田
一、同 (長式拾卷間
横卷間半)

高サ卷間
此坪 (三二) 拾壹坪半
此夫百四拾貳人 但、老坪二付四人半懸り

葉山の下
一、同 (長式拾卷間
横卷間)

高サ卷間
此坪式拾壹坪
此夫九拾四人 但、老坪二付四人半懸り

地田
一、同 (長拾三間
横卷間)

高サ卷間
此坪拾三坪

此夫五拾八人 但、老坪二付四人半懸り

夫ノ八百貳人

右者、去ル申七月洪水之節、破損場所當時難檢置場所取調書付差上申候、御

見分之上普請御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保八年酉二月

上小原庄屋

素助 (印)

御郡所

加藤太右衛門殿 (印)

〔裏書〕

表書依頼、夫扶持大妻八石式升相渡候間、普請村受可被申付候、以上

西三月

松原珍平 (印)

2 中田村文書

① 奉願夫積之事

奉願夫積之事

中山中之池 横四間

一、土手 入三間

立九尺

此坪拾八坪

此夫百八拾人 老坪二付拾人掛り

但、敷積土手裏三間之間堀夫・詰夫共

右者、中山中之池土手裏敷積損候二付、水過分洩り難檢置当冬普請仕度、御見分之上御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

文政十年亥十一月

庄屋

益右衛門 (印)

○別府大学所藏

中田村

後見

額助(印)

渡辺近藏殿(印)

御邸所

[表書]

表書之通被成御座候間、其段可被申付候、以上

亥十一月

増田万太(印)

② 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所藏

中田村

屋敷田川

一、土手代石垣

長百間
横根切武間
突留老間

此角坪百五拾坪

此夫千貳百人 但、老坪二付八人懸り

同所

一、蛇籠三百間 但、百間之処三重巻二仕如此

此詰夫百五拾人 但、拾間二付五人懸り

此懸ヶ夫百五拾人 但、拾間二付五人懸り

此竹代銀札四百八拾目

但、老間二付銀札老久六分つゝ

同所統

一、土手代石垣

并附石垣共

長三拾間
横ならし武間

此角坪九拾坪

同所

此夫七百貳拾人 但、老坪二付八人懸り

一、蛇籠百五拾間 但、三拾間之処五重巻二仕如此

此詰夫七拾五人 但、拾間二付五人懸り

此懸ヶ夫七拾五人 但、拾間二付五人懸り

此竹代銀札百四拾目

但、老間二付老久六分つゝ

石丸川

一、堀川

長貳拾六間
幅五間

此角坪六拾五坪

深サ三尺

此堀夫三百九拾人 但、老坪二付六人懸り

同所統

一、土手代石垣

長三拾三間
横根切三間
突留老間半

此角坪百拾老坪三合七勺五才

但、此内わくはね籠り申候

此夫八百九拾老人 但、老坪二付八人懸り

同所

一、蛇籠六拾六間 但、三拾三間之処武重巻二仕如此

此詰夫三拾三人 但、拾間二付五人懸り

此懸ヶ夫三拾三人 但、拾間二付五人懸り

此竹代銀札百五拾六分

但、老間二付銀札老久六分つゝ

同所 土手石垣三拾三間之内

一、わく木

長貳拾間

高十九尺

拔式通り

足式間

此木代銀札百六拾日

但、老間ニ付銀札八拾懸り

此大工手間代銀札八拾式五五分

但、拾間ニ付五人懸り、老人ニ付銀札三匁三分つゝ

人夫ノ三千七百拾七人

銀札ノ壹貫六拾八匁五分

右之場所費、先年ノ度々堀川普請御免被成下取計仕候處、供水度毎ニ土手損

シ申候處所、尤右土手之内過分年々当損ニ相成有之、捨置候而者又候此上過

分之御田地損シ候縁相成申候、是迄普請御免被成下普請出来之上者免地ニも

相成候得共、供水度毎大破ニ相成候へ者免地之上ニ新ニ当損相増、當時ニ而

者過分之当損場所ニ御座候、此度手強く普請御免被成下候ハ、突留メ可仕哉

ニ奉存候、是迄通之普請ニ而者逆も突留難仕、只今川底ニ相成居候御田地も

過分之縁ニ御座候へハ、何卒御見分被成下普請御免被付被下度、此段宜御

断被仰上可被下奉願候、以上

文政十年亥十二月

庄屋

荻右衛門(印)

後見川原村

願助

渡辺近藏殿

御都所

③ 奉願口上寛

奉願口上寛

来請

○別府大学所蔵

中田村之内

北野谷改くゝり迫 長根切七間、勇兼六拾間 平均四拾三間半

一、新池土手 横邊通三拾間、馬路六間 平均拾八間

高サ拾壹間

此角坪八千六百拾三坪

此夫六万式百九拾老人

但、老坪ニ付七人懸り

長上廿七間、下夕掛六間 平均廿壹間半

一、盤堀

横上七間、底三間 平均五間

深サ平均貳間

此角坪貳百拾五坪

此堀埋夫千七百貳拾人

但、老坪ニ付八人懸り

右者、中田村之儀者干預村、殊ニ田畑高免ニ而運々困窮仕居候間、先年ノ段々御免下ケ等も相願候得者、不容易儀ニ付御免懸仰付御救成被成下置難有奉存候處、去ル寅年ノ御救米御止メニ相成、其上兼而御承知被成下候之通、北野後野ニ者過分荒畑有之困窮村ニ御座候、川原村之処者、後野へ先年者池有之候之処土手切レ、其後再築立出来不申、右土手懸り田地ノ墾荒田ノ罷成年々荒野江笹立御検見備候、其上兼畑等も過分御座候而困窮仕居在候、且者年々当損等も多ク阿村とも過々難決而已相重り、誠ニ必至之成行ニ而双方共右池邊先年ノ見立罷在、何卒新池築立候へ、前書ニ奉申上候荒田畑共免地と相成、年々当損も行々相減シ可申、左候へ、乍恐御園益全助共助請共相成可申候儀奉存居候得共、兼而困窮故何分取懸り得力不申慮押移り届候得とも、此段格

櫻侯而著弥增建決と福成候間、此度両村申合新池築立之儀奉願上候、何卒御見分之上格外之御憐愍を以御普請被成下候ハ、雖有仕合奉存候、此段宜敷御断被仰上可被下奉願上候、以上
天保五年午八月

中田村庄屋
徳右衛門
川原村庄屋
頼介
御郡所
加藤大右衛門殿

④ 奉願寛

奉願寛
〇別府大学所藏
中田村之内
下中田
巖敷田川 長四拾間
一、堀川 横貳間
比角坪三拾八坪
此夫貳百貳拾八人 但、老坪二付六人懸

一、右根卷蛇籠八拾間 但、四拾間之処武袍置ニノ如此

此竹六拾束 但、武間二付老束五歩
此代銀札九拾目 但、老束二付老束五分
此夫百貳拾人
懸夫四拾人
内 詰夫四拾人
石拾夫四拾人
人夫ノ三百四拾八人

右者、去ル申年^{天保九年}供水ニ付破損場所難捨置ニ付、当春普請取計仕度候間、御見分之上願之通夫扶持御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上
天保九年戊正月
中田村兼持庄屋
欣平(印)

⑤ 奉願寛

奉願寛
〇別府大学所藏
中田村之内
下中田
巖敷田川 長拾八間
一、川土平 横半間
比角坪九坪
此夫五拾四人 但、老坪二付六人懸

一、右根卷蛇籠三拾六間 但、拾八間之処武袍置ニノ如此

此竹貳拾七束 但、武間二付老束五歩
此代銀札四拾目五分 但、老束二付老束五分
此夫五拾四人
懸夫拾八人
内 詰夫拾八人
石拾夫拾八人
人夫ノ百八人
右者、去ル申年^{天保九年}供水ニ付破損場所難捨置ニ付、当秋迄之内普請取計仕度候間、御見分之上願之通夫扶持御免被成下候様、宜御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保九年戊閏四月

中田村表冊庄屋

欣平(印)

御郡所

石田覚也殿

〔墓書〕

表書願夫辻之内、大坐七斗式耳、細柱式給七斗為御敷被下之候間、村受普請可被申付候、以上

戊閏四月十九日

松原珍平(印)

⑥ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大学所藏

中田村

石丸

長九間

一、川土手

横半間

高少武間

此角坪九坪

此夫五拾四人

但、老坪二付六人懸

屋敷田

長拾四間

一、同土手

横半間

高少武間

此角坪拾四坪

此夫八拾四人

但、老坪二付六人懸

坪數ノ武拾三坪

人夫ノ百三拾八人

右者、去廿一日供水ニ付書面之川土手破損仕、當時差懸リ普請取計不仕而者

隨相成場所、下改仕普請御願申上候間、早々御見分之上御免被成下候様、宜御祈被仰上可被下奉願上候、以上

天保九年戊七月

兼善庄屋

欣平(印)

御郡所

石田覚也殿(印)

〔墓書〕

表書依頼、大坐老石老斗為御敷被下之候間、普請村受可被申付候、以上
戊九月
富部兼五兵衛(印)

⑦ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大学所藏

中田村

木給川

一、川土手 長三拾武間

横武間

高少老間

此角坪六拾四坪

此夫三百八拾四人 但、老坪二付六人懸リ

同所

一、右根巻繩九拾六間 但、三拾武間之処三斗置二而如此

此夫百四拾四人 但、老間二付老人半懸リ

此竹武百八拾八本 但、老間二付三本宛

代百拾五及武分 但、老本二付四分當リ

人夫五百武拾八人

同所

一、同 長四拾四間

橫三間貳合五勺

高少老間半

此角坪貳百拾四坪半

此夫千貳百八拾七人 但、右間斷

同所

一、同貳百貳拾間 但、右間斷、五丈儀二而如此

此夫三百三拾人 但、右間斷

此竹六百六拾本 但、右間斷

代貳百六拾四匁 但、右間斷

人夫千六百拾七人

同所下

一、付州 長拾四間

橫貳間

高少老間半

此角坪四拾貳坪

此夫貳百五拾貳人 但、右間斷

同所

一、右根巻蛇籠貳拾八間 但、右間斷、式わ儀二而如此

此夫四拾貳人 但、右間斷

此竹八拾四本 但、右間斷

代三拾三匁六分 但、右間斷

人夫貳百九拾四人

墨敷田川

一、付溝 長三拾六間

橫老間

高サ七尺

此角坪四拾坪

此夫貳百四拾人 但、右間斷

同所

一、同蛇籠七拾貳間 但、右間斷、式わ儀二而如此

此夫百八人 但、右間斷

此竹貳百拾六本 但、右間斷

代八拾六匁四分 但、右間斷

人夫三百四拾八人

同所川

一、州土手 長拾五間

橫貳間

高少老間

此角坪三拾坪

此夫百八拾人 但、右間斷

同所

一、同三拾間 但、右間斷、式わ儀二而如此

此夫四拾五人 但、右間斷

此竹九拾本 但、右間斷

代三拾六匁 但、右間斷

人夫貳百貳拾五人

惣人夫三千拾貳人

竹代、五百三拾五匁貳分

右者、去^{（三〇）}凡戌年洪水之節、書面之場所破損二相成居候処、（中）年々之凶年、其上^{（三〇）}困究村之儀二付、普請取計出夫等も出来兼候二付其促押移り居候得共、何分難^{（三〇）}拾置場所二付、当春普請仕度段願出候間、御見分之上願之通御免被成下候様、宣^{（三〇）}敬御断被仰上可被下奉願上候、以上

天保十一年子正月

庄屋

和平（印）

後見見地

九右衛門(印)

伊藤亮作殿(印)

御郡所

〔裏書〕

表書依願、大麥貳拾八石五斗為御敷被下之候間、普請可被申付候、以上

松原珍平(印)

御郡所

伊藤亮作殿

和平(印)

代岡六拾目 但、右同断
入夫ノ三百八拾四人
竹代ノ百貳拾目也
右之通、此度御見分受候処、普請仕度奉存候間、願之通り御免被成下候様、
宜御断被仰上可被下奉願上候、以上
天保十二年五月二日
庄屋

⑧ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大学所藏

中田村

石丸川

一、堀川 長貳拾七間 横三間

高サならし老間

此角坪八拾老坪

此堀夫三百貳拾四人

但、老坪二付四人懸り

所之口

一、大蛇籠 五つ

此夫三拾人 但、老つ二付六人懸り

此竹百五拾本 但、老つ二付三十本宛

代銀札六拾目 但、老本四分宛

朝日寺測下

一、同断 五つ

此夫三拾人 但、右同断

此竹百五拾本 但、右同断

〔裏書〕

表書依願、大麥三石八斗四升 竹代銀札百貳拾目被下之候間、村受普請可被

申付候、以上

丑二月

宮部甚五兵衛(印)

⑨ 奉願上覚

奉願上覚

○別府大学所藏

中田村

中山尻之池荒手前築

一、長サ五間程 深サ貳間半

横根サ一三間 築留貳間

但、ならし貳間半

此角坪三拾老坪貳合五勺

此夫貳百五拾人 老坪二付八人懸り

但、堀除ケ又築留迄之処ニ而積リ如此

右者、当村中山尻之池荒手前築、殊之外大損シニ相成候二付、水落取次第早々

取繕不仕而者亦大破懸成候而ハ奉願入候間、村受ニ而近々普請取計仕度、何

卒願之通御免被成下候様、寛御断被仰上可被下奉願上候、以上
天保十三年寅正月
中田村庄置

和平(印)

御郡所

伊藤亮作殿(印)

〔裏書〕

表書之通被成御免候間、其段可被申付候、以上

寅二月

高木善兵衛(印)

⑩ 奉願上川普請之事

○別府大学所藏

屋敷田川

一、堀川 長四拾間

横武間

深サ平均半間

此角坪四拾坪

此堀夫百六拾人 但、老坪四人懸り

間所北平

一、大立蛇籠拾六

此夫八拾人 尤老つ二付五人懸り

此竹百四十四本 但、老つ二付九本つゝ

此代銀札百目八分 但、老本七分つゝ

間所

一、棋巻横蛇籠六拾六間 但、武十貳間之延三打

此夫九拾九人 但、老間二付老人半懸り

此竹代七拾九匁式分 但、老間二付三本つゝ、尤老本二付四分つゝ

人夫ノ三百三拾九人

竹代ノ百八拾目

上川

一、土手 長拾四間

横武間根サへ 築留老間

ならし老間半

高サ老間半

此角坪三拾老坪五合

此夫百八拾九人 但、老坪二付六人懸り

右棋巻蛇籠四拾武間 但、三打、尤十四間之延

此夫六十三人 但、老間二付老人半懸り

此竹代五拾目四分 老間二付三本つゝ、尤老本代四分つゝ

人夫惣ノ五百九拾武人

竹代惣ノ式百三拾目四分

右者、先年ノ洪水ニ而、年々之当損壞所ニ付少々つゝ、堀川・石垣土手等ニ而

も付取辦ひ仕度奉存候、何卒前文之場所文者、当年夫違御免被成下候様奉願

上候、猶又竹代等願之通御下ヶ被成下候様宜奉願上候、以上

天保十五年辰正月

中田村庄置

御郡所

中田和平(印)

〔裏書〕

表書依願、大麥五石九斗老升、銀札式百三拾目四分被下之、普請村受申付候

辰四月

八田壽左衛門(印)

⑩ 奉願上川普請之事

奉願上川普請之事

○別府大學所藏
中田村

上川

一、石垣土手 長三拾間

横式間半

高サ平均老間

此角坪七拾五坪

此夫三百人 但、老坪二付四人懸り

此根巻蛇籠九拾間 但、三拾間三把打

此夫百三拾五人 但、老間二付老人半懸り

竹代銀札百八匁 但、老間二付三本つゝ、尤老本代四分當り

人夫ノ四百三拾五人

屋敷田川

一、大立蛇籠拾五

此夫七拾五人 但、老つ二付五人懸り

此竹百三拾五本 但、老つ二付九本つゝ

竹代銀札九拾四匁五分 但、老本二付七分つゝ

此根巻八拾四間 但、武拾八間三把打

此夫百貳拾六人 但、老間二付老人半懸り

竹代間百日八分 但、老間三付三本つゝ、尤老本代四分當り

人夫ノ貳百老人

同所下川

一、石垣土手 長拾六間

横半間

高サ老間半

此角坪拾武坪

此夫四拾八人 但、老坪二付四人懸り

此根巻四拾八間 但、拾六間三把打

此夫七拾武人 但、老間老人半懸り

竹代同五拾七匁六分

人夫ノ百貳拾人

入夫總ノ七百五拾六人

竹代ノ三百六拾日九分

右者、度々洪水仕、是迄之普請場所々破損ニ付、取締ひ不仕難捨置場所ニ御

座候得者、何卒前文之通文者来ル本番夫違御免被成下候様奉願上候、猶又竹

代等も御下ヶ被成下候様宣奉願上候、以上

弘化三年午十月

中田村庄屋

御節所

中田和平 (印)

〔裏書〕

表書之通差免候間、村受普請中付者也

未二月

八田露左衛門 (印)

⑪ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

○別府大學所藏
中田村

屋敷田川口

一、石垣土手 長サ武拾間

横三間横サへ

築留武間

高サ老間六合

此角坪八拾坪 但、两面石垣

此人夫四百八拾人 但、老間二付六人懸り

右根巻蛇籠六拾間 但、武拾間三把打

此竹百八拾本 但、老間二付三本宛

代額札七拾枚欠 但、老本二付四分宛

此夫九拾人 尤老間二付老人半懸り、但、蛇籠懸ヶ石詰迄

間石所

一、小州五つ 五坪 但、両面石垣

此夫三拾人 但、老坪六人懸り

人夫六百人

竹代七拾貳枚

右者、此度評頭見分受候処 来ル西之春普請仕度奉存候、何卒願之通御免被

成下候様宜奉願上候 以上

嘉永元年申十一月

中田村庄屋

中田和平(印)

御郡所

九拾人

一、小州五つ 五坪 尤両面石垣

此夫三拾人 但、老坪六人懸り

人夫六百人 村受

竹代一之儀者、老東二付何処何分懸つ、二而も、外村々御同様御下可被成

下候

右者、此度評頭見分受候処、当春普請仕度奉存候、何卒願之通御免被成下候

様宜奉願上候、以上

嘉永二年西二月

中田村庄屋

中田和平(印)

御郡所

⑬ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

一、石垣両面 長サ貳拾間

横三間根すへ

築留武間

高サ老間六合

此角坪八拾坪 但、両面石垣

此人夫四百八拾人 但、老間二付六懸り

右根巻蛇籠六拾間 但、武拾間三わ打

此竹四拾五束 但、武間二付老束五分つゝ

此代額札七拾六枚五分 老束二付老束七分つゝ

此懸夫三拾人 但、武間二付老人懸り

此石詰夫三拾人 但、武間二付老人懸り

此石拾夫三拾人 但、武間二付老人懸り

○別府大学所藏

中田村

〔表書〕

表書之通、当春村受普請差免者也

西二月

高木佐右衛門(印)

⑭ 奉願上

奉願上

上山下川

一、長サ三拾間

高サ平均老間八合

横平均老間 半面石垣

此坪五拾四坪

此夫百六拾貳人 但、老坪二付三人懸り

右此根巻蛇籠九拾間 但、三把打

此竹貳百七拾本 但、老間二付三本宛

○別府大学所藏

中田村

代銀札百八拾九匁 但、老本二付七分宛

此夫百三拾五人 但、驅夫・石拾詰迄、尤老間二付老人半懸り
人夫ノ武百九拾七人

右者、去正五月洪水之節、破損場兼而御届申上置候過、難捨置場所二付下改

仕差上候間、御見分之上夫扶持・竹代等御下被成下候ハ、村受ニ而當春普

請仕度願出申候之間、何卒御免可被成下様奉願上候、以上
嘉永七年寅正月

中田村庄屋

和平(印)

御郡所

〔裏書〕

表書依頼、為御救大妻武石九斗七升被下之候間、普請村受申付者也

寅三月

増田万太(印)

⑮ 川普請奉願上

木船川

一、両面石垣土手 長三拾七間

横根すへ老間半 土平辻老間

但、平均老間式合五勾

高少老間

此角坪四拾六坪式合五勾

此夫武百七拾七人半 但、老坪二付六人懸り

上川

一、両面石垣土手 長拾五間

横根すへ武間 土平辻老間

但、平均老間半

高少老間半

此角坪三拾三坪七合五勾

此夫武百貳人半 但、老坪二付六人懸り

下ノ川 以前三拾六間普請仕候場所

一、石張根巻 長サ拾七間

横老間半

此坪武拾五坪半

此石屋式拾五工半 但、老坪二付老工つゝ

此作料百貳拾七匁五分 一日二付受ニ而五匁宛

此夫百五拾三人

但、遠方ノ石取仕候二付老坪六人懸り、石屋手依共ニ、尤蛇籠ニ而根巻

仕度奉存候得共、當時ハ竹枯申候而買出申二付石工ニ而根巻仕度、当

卷ニも根巻取計不申而者甚六ヶ救場所ニ御座候

人夫ノ六百三拾三人

右者、普請急場之所計り、村受ニ而普請當春仕度奉存候、何卒本行之通夫遣

御免被成下候様宜奉願上候、以上

安政三年辰正月

中田村庄屋

中野和平(印)

御郡所

⑯ 奉願川普請之事

奉願川普請之事

屋敷田川口

一、半面石垣土手 長サ拾五間

横老間 高少平均老間半

此角三拾七坪半

○別府大学所藏

中田村

此夫百五拾人 但、老坪ニ付四人懸り
右根巻蛇籠七拾五間 但、三わ打

此竹貳百拾五本 但、老間ニ付三本宛

代銀札百拾貳丸五分 但、老本ニ付五分宛

此夫百拾貳人半 尤老間ニ付老人半懸り、但、蛇籠懸ケ・石詰迄

人夫ノ貳百六拾貳人半

右者、昨巳年洪水之節、川石垣殊之外損シ、大事之場所ニ御座候間村受ニ而

普請仕度、何卒夫扶持、竹代御下ケ普請御免被成下候様宜奉願上候、以上

安政五年午正月

中野村庄庶

中野和平(印)

御郡所

〔裏書〕

表書依願、為御救大妻貳石六斗貳升五合被下之候間、普請村受申付者也

午三月

平井作之允(印)

① 奉願急場川普請之事

奉願急場川普請之事

下ノ川 先普請仕候処

一、石垣土半 長五間程

横武間根すへ 築留老間

此平均老間半

高サ老間半

此角坪拾老坪貳合五勺

此人夫六拾七人半 但、老坪ニ付六人つゝ

右古石垣根巻五拾老間

但、長拾七間之所三わ打

此竹百五十三本 但、老間ニ付三本宛
此銀札七拾六丸五分 但、老本ニ付五分つゝ

此夫七拾六人半 尤老間ニ付老人半懸り、但、蛇籠かけ・石詰迄

人夫ノ百四拾四人

同所兼

一、半面石垣 長式拾間

横半間 高サ平均老間

此角坪拾坪

此夫四拾人 但、老坪ニ付四人つゝ

右根巻蛇籠六拾間 但、武拾間三わ打

此竹百八十本 但、老間ニ付三本宛

此銀札九拾目 但、老本ニ付五分つゝ

此夫九拾人 但、老間ニ付老人半懸り、蛇籠かけ・石詰迄

人夫ノ百三拾人

惣ノ貳百七拾四人

竹代ノ百六拾六丸五分

右者、去ル五月廿日、廿三日迄之度々洪水ニ往來筋、川土手損シ、牛馬町通

ひ等も出来不仕候間、急場之普請村受ニ而仕度願出申候間、本行之通早々御

免被成下候様宜敷奉願上候、以上

安政五年午六月

庄屋

中野和平

御郡所

印判之儀ハ返号ニ

付、此間年番所迄

出無判

〔裏書〕

表書依願、為御救大妻貳石七斗四升被下之候間、普請村請申付者也

午六月

平井作之允(印)

⑬ 御願申上中ノ池堀割之事

御願申上中ノ池堀割之事

- 一、堀貫口堀割 長三間
- 高武間

横老間半

此角坪九坪 但、老坪拾人懸り

此人夫九拾人

- 一、同後堀割

長四間

横老間

高老間

此角坪四坪 但、老坪二付拾人懸り

此人夫四拾人

人夫合百三拾人

右者、中ノ池堀貫口堀夫村受ニ而御願申上候間、急々御免被成下候様奉願上

候、以上

元治元年子十一月

庄屋

中野庸平(印)

後見

中野和平

御郡所

〔表書〕

表書依願、大老石三斗為御救被下之候者也

丑二月

平井作之允(印)

⑭ 御願申上中山中ノ池堀貫之事

御願申上中山中ノ池堀貫之事

- 一、堀貫四拾間

但、老間二付銀札八拾目宛

此銀札三貫式百目

右者、中山中ノ池敷種詰り水通し不申ニ付、本行之通堀貫荒穢仕御願申上候間、何卒急々御免被成下様奉願上候、尤右賃銀之儀者、上ノ御下ケ被成下

候様奉願上候、見地分田畑池浸相成候地面、代銀過分之儀ニ御座候ニ付下方

大二難供仕候得共、是者下方ノ如何と積仕代銀差遣候様可仕候間、堀貫土之

儀者、是非上ノ被成下候様宜敷奉願上候、以上

元治元年子十一月

庄屋

中野庸平(印)

後見

中野和平

御郡所

〔表書〕

表書之通差免者也

丑二月

平井作之允(印)

⑮ 御願申上寛

御願申上寛

中山高地池堀貫之事

- 一、長四拾武間

此賃銀八貫百九拾目

但、老間二付受ニ而百九拾五匁

右者、堀貫賃積方仕候間宜敷奉願上候、尤一昨五年頃迄ハ水も少しハ通居候

○別府大学所藏

中田村

○別府大学所藏

中田村

得共、^{（三）}昨寅冬ニ相成候而八少しも通不申、敷種露候故、無視御願申上候間、願之通御免被成下度、則村平・金五郎兩人積前を以御願申上候間宜敷奉願上候、以上

慶応三卯三月

庄屋

中野晴平（印）

後見

中野和平（印）

御郡所

〔表書〕

表書之通差免者也

卯三月

平井作之允（印）

㊦ 奉願上覚

奉願上覚

中山中ノ池本願齋夫積り

一、人夫老万千貳拾五人

内

貳千五百人 当戊年手水夫御免

但、老人三千つゝ

千五百人 当年村受夫仕度

但、老人二付老升五合

此夫扶持貳拾貳石五斗

代老賃八百目 老升二付八分定

御下ケ可被下分

又、貳拾貳石五斗 村中辻ノ出露

ノ四拾五石

但、老人二付三升候積

御伺書

戌三月借り入

大妻貳拾貳石五斗

代老賃八百目

同十一月迄、利百八拾目

但、老割付

元利ノ老賃九百八拾目

此内

五百目 戌之暮出来入

残老賃四百八拾目

亥十一月迄、此利貳百貳拾貳匁

但、暮ノ暮迄老割五歩

元利ノ老賃七百貳匁

内

五百目 亥暮出来入

残老賃貳百貳匁

子ノ十一月迄、此利百八拾目三分

但、右同断、老割五歩

元利ノ老賃三百八拾貳匁三分

内

五百目 子暮出来入

残八百八拾貳匁三分

丑之十一月迄、此利百三拾貳匁三分五厘

但、右同断、老割五分

元利ノ老賃拾四匁六分五厘

内

五百目 丑暮出来入

残五百拾四匁六分五厘

寅十一月迄、此利七拾七匁二分

元利ノ五百九拾老匁八分五厘

如二寅十一月不残出来入済

右之通、当戌年ノ来ル寅年迄五ヶ年之間、四ヶ年ハ五百目宛口寅年ハ本行之
通入済御免被成下候ハ、当春柄困窮者共ニ出夫出情為仕、春之いのちき仕
候而、池も平水御免夫ニ、又村受千五百人仕ひ方仕候ハ、大分裏繰も手厚
ク丈夫ニ罷成、近年中ニ土手揚成就可仕候間、尤老升五合ツ、ニ而者何分野
山稼・町通ひ繰ニ不相成、其日々立不申ニ付、無操本行書取を以御伺申上候、
願之通御開済御免被成下度、猶又御定之老升五合当り之分早々御下ケ可被成
下候、手水夫遣ひ引続ニ村受も遣ひ仕廻度奉存候、左無御座而者、手水夫遣
後ニ老升五合当り渡方仕候而者仕事出情不仕間、失張手水夫同様出情仕候得
者、大ニ村中之為筋と奉存候、何卒御開済之程宜奉願上候、以上
戌三月

見届

中野和平 (印)

平野吉左衛門 (印)

御郡所

戌三月十九日開届 (印)

3 岩戸寺村銘細帳 (宝曆五年・一七五五)

○「大分県史」編纂写真版

宝曆五年
豊後国国東郡
岩戸寺村銘細帳 按本
未四月

寛文式年松平市正様御検地ニ而「水鏡」御座候

一 高三百五拾貳石九斗三升八勺

此反別四拾老町五反貳畝拾九步

木田畑

内

貳石八升三合五勺

此反別貳反五步半

拾貳石三斗九升六合七勺

此反別八反四畝廿七步

四石貳斗九升四合八勺

此反別三反六畝廿三歩半

貳拾五石六斗四合七勺

此反別六町九反三畝廿六歩半

貳石五升九合九勺

此反別貳反九畝六勺

九斗

此反別老反五畝

老石六斗三升六合

田力社地引

田力池栗引

田力井溝道成引

田方前ノ川欠砂入引

畑方寺地引

畑方道成引

畑方請敷石塚引

此反別卷反八畝六步

受敷上藏

三石三斗五升四合四夕

畑方池床引

此反別七反拾三步

五石五斗貳升四夕

畑方前、川欠山崩引

此反別卷町貳反五畝拾八步半

小以五拾七石九斗卷升四夕

此反別五町九反四畝六步

殘高貳百九拾五石貳升四夕

此反別三拾五町五反八畝拾三步

六反五畝十三步

此 訳

上 田高三拾六石八斗貳升卷合四夕

此反別貳町三反四夕

上田高七拾三石三斗卷升貳合八夕

此反別四町八反八畝廿貳步半

中田高三拾三石八斗四升卷合貳夕

此反別貳町六反九步半

下田高拾六石五升四合七夕

此反別卷町四反五畝廿八步半

下 田高貳石卷斗八升七合

此反別拾貳反四畝九步

(後巻)

二百五十八石四斗七升四合七夕

反別十三町貳反貳畝十九步〇

田高合百六拾貳石貳斗卷升六合九夕

此反別拾卷町四反九畝拾三步半

但平均卷反二付高一石四斗六升卷合五夕納

上 畑高四拾七石五斗五升七合五夕

石盛九斗

此反別五町貳反八畝拾貳步半

上畑高貳拾四石貳斗八升貳合六夕

石盛八斗

此反別三町三畝拾六步

中畑高拾八石六斗貳合

石盛六斗

此反別三町卷反卷步

下畑高拾六石五斗六升四合

石盛四斗

此反別四町卷反四畝三步

下 畑高廿五石七斗九升七合

石盛二斗

此反別八町五反九畝廿七步

畑高合百三拾貳石八斗三合卷夕

此反別貳拾四町卷反五畝廿九步半

但平均卷反二付五斗四升九合七夕余

一 高拾四石卷斗三升八夕

新田畑

此反別三町九畝貳步

内

卷石六斗九升五合

田方前、川欠石砂入引

此反別卷反七畝貳步

殘高拾貳石四斗三升五合八夕

此反別貳町九反貳畝步

但高拾石二付貳町三反四畝七步内
平均卷反二付四斗貳升六合貳夕内

此 訳

中田高卷斗八合三夕

石盛卷石三斗

此反別貳拾貳步

下田高貳石四斗六升貳合七夕

石盛卷石卷斗

此反別貳反卷畝廿八步

下 田高貳石六斗八升三合七夕

石盛九斗

此反別拾貳反九畝廿四步半

田高合五石貳斗四合五夕

此反別五反貳畝拾七步半

但平均卷反ニツキ九斗八升九合卷夕内

(後舉)

一十五石五斗貳合七夕

反別卷町四反廿八步

貳百九拾老石貳斗七升七合八夕

此反別三拾五町三反八畝十九步

下畑高卷斗九升六合

此反別四町老反四畝三步

下畑高七石三升五合三夕

此反別貳町三反四畝拾五步半

畑高合七石貳斗三升叁合三夕

但平均卷反ニ付三斗貳合余

一 山畝卷反四畝貳步半

此米貳斗八升卷合七夕

請藏

本新立合三百三石七斗一升三合五夕 毛付

此反別三拾八丁三反拾九步

此 畝

田高百六十二石六斗七升九合叁夕

平均卷反ニツキ

此反別拾壹町七反五畝七步 一石二斗九升貳合六夕余

畑高百四十五石三斗四合四夕

平均五斗貳升七合三夕

此反別

四才余

廿六町五反五畝拾貳步

右村之内葛原分

本田畑

一 高拾九石九斗三升九合八夕

此反別三町四反三畝廿貳步

内

三斗卷升九合卷夕

四升五夕

此反別壹畝拾步半

三斗卷升六合五夕

此反別三畝拾五步半

小以六斗七升六合三夕

此反別七畝拾步

殘高拾九石貳斗六升三合四夕

此反別三町三反六畝拾貳步半

小此畝

上 田高卷石九升六合

此反別六畝廿五步半

上田高貳石五斗九升貳合五夕

此反別卷反七畝八步半

中田高三石六斗三升七合九夕

此反別貳反七畝廿九步半

下田高貳石貳升五合八夕

此反別卷反八畝拾貳步半

下 田高七斗三升六合五夕

此反別八畝五步半

田高合拾石八升八合七夕

但平均卷反ニ付老石貳斗八升卷合九夕内

石盛老石六斗

石盛老石五斗

石盛老石三斗

石盛老石老斗

石盛九斗

畑方山崩引

畑方山崩引

畑方請藏引

此反別七反八畝廿卷步半

上 烟高七斗三升五合

此反別八畝五步

上 烟高貳拾四斗卷合三夕

此反別五畝步

中 烟高七斗六升

此反別壹反貳畝廿步

下 烟高老石貳斗九升四合

此反別三反貳畝拾步半

下 烟高五石九斗八升四合五夕

此反別老町九反九畝拾四步半

烟高合百三拾貳石八斗三合卷夕

此反別貳町五反七畝廿步半

一 山畝三畝拾五步半

此米七升三夕

一 田地用水拾老町余、井手掛り二而御座候

一 同老町八反余、本村之内并葛原岡所天水所二而御座候

一 田方 但替町貳反余 同老作 貳町六反余 片老作

一 当村之儀、少之日照ニも前より日換勝之村方二而御座候

一 田方耆米取、畑方耆大豆取二而御座候

但畑方耆大豆御直段二而銀上納仕候

一 田方實入直段

上 田老反二付 銀五拾六匁六拾七匁迄

上 田老反二付 銀五拾貳匁六拾三匁迄

中 田老反二付 銀四拾五匁五拾六匁迄

下 田老反二付 銀三拾四匁四拾五匁迄

畑方實入直段

下 田老反二付 銀廿匁三拾四匁迄

上 烟老反二付 銀四拾匁四拾五匁迄

上 烟老反二付 銀三拾七匁四拾五匁迄

中 烟老反二付 銀三拾三匁三拾七匁迄

下 烟老反二付 銀貳拾匁匁三拾匁迄

下 烟老反二付 銀拾五匁貳拾貳匁迄

一 田方小作入

上 田老反二付 米貳斗五升三斗迄

上 田老反二付 米貳斗三升貳斗八升迄

中 田老反二付 米貳斗貳斗五升迄

下 田老反二付 米壹斗五升貳斗迄

下 田老反二付 米壹斗壹斗五升迄

一 畑方實入直段

上 烟老反二付 大豆貳斗七升三斗迄

上 烟老反二付 大豆貳斗貳升三斗迄

中 烟老反二付 大豆貳斗貳升貳斗五升迄

下 烟老反二付 大豆壹斗五升貳斗迄

下 烟老反二付 大豆壹斗五升迄

(後章)

一 墨敷實入直段 老反二付銀五拾匁六拾匁迄

一 竹木売賣當時ニ

一 土地之儀 田方ハ砂老^{サコ}ふみ 畑方ハ赤土墨つや大小石交り

一 田方秋作早稲老步通 中稲三歩通 晚稲六歩通作申候 夏作小麦四歩通、

大麦六歩通作申付

一 種子 早稲耆老反二付銀老斗程

中稲耆老反二付銀八・九升程

但 舊代時分者三月十兩時辰迄ニ時申候、種付之儀者五月中ニ種實通迄種付申候

田方作物者白川・あへせんろく・墨やろふ・万石と申候稻作申候
畑方秋作物者大小豆・胡麻・粟・稗・黍・大穰・里いも其外品、作り申候
田畑こやし、刈藪草こへ大束藪草等取あつめ入申候

上田老反二付稻三拾把、四拾把程御座候、尤女馬老駄二付六把ツ、付ケ申候
御定免之内、若不作御定法之播毛二相当御檢見之節者御引方之通小前勘定仕
立来申候

御免割之儀、惣百姓立金御割付之通無高下割合相違来申候
内檢見仕方之儀、庄屋・組頭・長百姓立金拜刈致目録無申之内檢見仕候、昼
食之儀者参り百姓方江相持村中割合入来申候

庄屋組頭御用二付御役所江罷出候節、諸雜用人足賃銀等百姓割合成来申候
諸出来銀、庄屋・組頭・長百姓立金、割賦仕来申候

庄屋作高踏出来銀割合之儀、作り高内拾石相除、残高村中一同割合二人申候
組頭・肝煎諸出来銀割合之儀、組頭者作り高内五石相除、肝煎者武石五斗ツ
老人前二て相除、残高村中一同割合入申候
高拾式石余

但松平市正様御領水野村江出作二為作申候
但本川之外小谷川二筋有之

川除石堀 拾式ヶ所 御普請所
是者前、破損之節御夫役扶持高被下、御地頭様御入用ヲ以御普請仕立候場
所二而御座候

川通井堰 拾四ヶ所 自普請所
是者前より村役仕来申候

株刈數揃 四ヶ所
是者古来、村山二而他村入金無御座候

植立林敷 四ヶ所
是者村中崩山二而松・雑木・小篠生立、尤他村と入金無御座候
御林敷無御座候

庄屋敷無御座候、尤四壁者村中並之敷二而請敷米相納申候
百姓敷右同斷
石橋 長八尺 横六尺 式ヶ所
同 長六尺 横五尺 式ヶ所

御高札 式ヶ所
但村西入口二御座候、切死丹札巻枚
鉄砲四挺 卷ヶ所

但村山中田舎之儀二付田畑耕作猪鹿獲免し申候二付前よりおとし簡二所持
仕候 卷ヶ所
枝郷葛原 老ヶ所
但当村上二有之庄屋宅ノ道法老屋余

竈敷 七拾三軒 子之御改前
内 武軒 寺
式軒 水吞

村中人數 四百老拾九人
内 男 二百拾六人 女 二百三人
牛馬 武拾三疋
内 馬 五疋 牛 十八疋

切死丹類無御座候
庄屋 老人 但給米、米・紙・蠟・油代共二村中毛付百石二付米七斗八升
ツ、村中割合出し申候

組頭 老人 但給米無御座候
肝煎 老人 但給米無御座候
是者諸雜用二付庄屋ノ指図ヲ受、村中小船前より致来申候、尤百姓中間二
而老年替り二相勤申候

詰夫 老人 但給銀九拾目
是者諸雜用二付庄屋ノ指図ヲ受、御用御題状并郡方諸用二付深江村・上岐

御用御題状并郡方諸用二付深江村・上岐

郡村其外近村江御用状持参小走相勤申候

見取田畑無御座候

茶御年貢無御座候

四壁御連上無御座候

入作高無御座候

野手山役・鉄砲狹夫金・馬草竊代・荏胡麻綿代其外諸運上納無御座候

金・銀・銅・鉄・硫黄・白土之類出候山無御座候

市場無御座候

造酒屋無御座候

山守・池守無御座候

御朱印地無御座候

除地畑無御座候

古城跡無御座候

旧跡無御座候

舟馬無御座候

医師無御座候

大工・木挽・桶屋・紺屋無御座候

蝦治・紙漁無御座候

神子・唐僧・山伏等之僧・渡世・座頭・舞々・猿引無御座候

早道水練のもの無御座候

簡充人無御座候

追放者・欠落者・勘当等の御板面付候者無御座候

浪人無御座候

牢屏無御座候

像多高無御座候

寺社寄附米金銀無御座候

田畑高四石老斗四升老合四夕

但寺社地高松平民部様御寄附証文有之候、尤高反別状寺社地引、高名

日之分二而御座候、前々之本高諸引之内寺社地引と有之候、名日之分者御座候

御皆済御目録之外上納物少も無御座候

溜池 老ヶ所 但当村之上二有之候

是者九年元禄年中騒調、杵築御領之内水野村用水二相用中候、其已後当

村之儀松平民部様御知行所二相分候二付、右溜池床之分松平市正操御

領高反別引替地受取候而、当村本高反別二結加へ御取簡御上納仕候、乍

然池床引名目は前々当村帳面書記罷立候也

山林荒間等に新田畑開発可仕場所無御座候

御年貢米津出、同野崎郡浦浜蔵所立陸路老里半附出浜蔵納仕候

当村男女作問之穰無御座候、尤男者葛根・わらひ繩根に仕、女者少く布・木綿織申候

当村之儀、山中二而御座候近來別而作毛荒し百姓困窮仕候

当村 東西三拾九町 南北貳拾三町

当村の御私領境東者松平市正操御知行所水野村江、境南八同御知行所常葉村

内文殊仙寺江、境西八同御知行所赤根村江、境北者当御領上岐部村江境申候

隣村江道法杵築御領水野村へ五町、方角寅ノ方

杵築御領高野村江拾五町、方角辰ノ方

同御領文殊仙寺江老里、方角未ノ方

同御領赤根村江老里半、方角甲ノ方

当御料上岐部村江老里、方角子ノ方

豊前四日市御役所江 道法九里

豊後日田御役所江 同式拾五里

同高松御役所江 同拾九里

戸田因幡守棟御陣屋高田江 同六里

松平市正操御城下杵築江 同七里

木下大和守棟御城下日出江 同拾里

松平主膳正操御城下府内江 同拾八里

- 久留嶋信濃守櫻御城下森江 同廿三里
- 木下大藤様御城下立石江 同八里
- 奥平大膳太夫櫻御城下中津江同拾三里
- 小笠原伊予守櫻御城下小倉江同貳拾六里
- 杵築領竹田津江 同三里半
- 同御領堀嶋江海跡 同貳里半
- 大板江船路百貳拾八里
- 京都江海陸百四十一里
- 江戸江海陸三百里と申伝候
- 豊前国宇佐宮江 道法八里
- 同国求善堤山江 同拾八里
- 同国英彦山江 同貳拾六里
- 同国羅漢寺江 同拾三里
- 豊後国由原山江 同拾九里
- 同国湯布嶽江 同拾五里
- 六所権現宮 貳社 当村氏神
- 是者境内無年貢地二而御座候
- 金剛堂子 壹社 右同断
- 是者右同断
- 栗節堂 貳字 当村
- 是者右同断
- 三十仏堂 壹字 同村
- 是者右同断
- 阿弥陀堂 壹字 同村
- 是者右同断
- 毘沙門堂 壹字 同村
- 是者右同断

本寺比叡山延暦寺

一寺 老字 天台宗岩戸寺
 是者御敷免地二而御座候
 右同断
 一寺 老字 天台宗大同坊
 是者右同断
 右者岩戸寺村高反別銘細書面之儀御尋二付吟味之上書上申候処 少も相違無御座候、以上

宝曆五年四月

國東郡岩戸寺村庄原

良右衛門

同村組頭

新助

同村百姓代

伝藏

”

惣四郎

”

又四郎

”

嘉七

表2 近世国東領域における村高の推移

村名	正保4 (1647) 年	元禄14 (1701) 年	天保5 (1834) 年	明治元 (1868) 年
岩戸寺村	217石0900	217石0900	388石3484	388石3485
米瀬村	1,069石4800	1,069石4800	1,903石7900	1,951石9370
深江村	194石8000	194石8000	290石9639	290石9639
聚来村	217石0200	217石0200	397石9627	397石9627
常来村	1,442石0700	1,442石0700	2,447石4222	2,452石2831
成仏村	535石8000	535石8000	996石8819	996石8819
見地村	339石0300	339石0300	559石1607	559石1607
横手村	669石0100	669石0100	1,449石9001	1,449石9421
中田村	427石0200	427石0200	790石7781	790石8301
田瀬村	764石0600	764石0600	1,506石0891	1,506石2781
岩風村	205石0400	205石0400	431石9280	431石9280
川原村	273石0400	273石0400	608石3097	608石4192
原村	423石1000	423石1000	736石3078	716石7952
安國寺村	375石0500	375石0500	705石1947	705石3247
今在家村	38石7230	38石7230	69石5421	69石5421
興源寺村	252石0300	252石0300	466石1448	466石1448
赤松村	315石0300	315石0300	623石0731	623石5386
小原村	713石0600	713石0600	1,242石8844	1,243石0256
合 計	8,470石4530	8,470石4530	15,614石8717	15,619石4983

【出典】正保4年・元禄14年・天保5年の各村高は、それぞれ「正保郷帳」「元禄郷帳」「天保郷帳」(いずれも内閣文庫所蔵)による。明治元年の村高は、木村龍校訂『旧高田領取調帳』九州編(近藤出版社, 1979年)による。

Ⅲ 近代資料

ここには、明治初期頭の國東郡城における村の概要を伝える史料として『豊後國國東郡村誌』を、明治期のムラにおける無常講（葬送組織）のあり方を示す史料として『無常講規約取極組合連員簿』を、そして、明治期の神社における祭祀の様子を具体的に伝える史料として『年神社祭典元帳』を収録した。以下、これらの史料について概説することにした。

今『豊後國國東郡村誌』（大分県立図書館所蔵）に収録したのは、原則として冒頭に「本村古ヨリ國前郡二属ス」と記された村々であるが、「本村古ヨリ武蔵郡二属ス」と記されている小原村は含めた。また、「本村古ヨリ國前郡二属ス」との記述はあるものの、岐部・小熊毛・大熊毛・向田の四カ村（いずれも現・國東市國見町）については収録しなかった。

岩戸寺・来浦・浜の三カ村は、原史料の『豊後國國東郡村誌 一ノ二』に、残りの各村は原史料の『豊後國國東郡村誌 一ノ三』に収録されている。この二点の原史料の奥書には、いずれも明治一（一八七八）年一月に「編輯卒業」したことが記されており、編輯担当者として、香川真一（大分県寺・高取成章（大分県大等属・加藤賢成（大分県一〇等属・相島錦彦（大分県等外三等）の四名がみえている。

史料の内容を一覧すると、事実とは異なる記述があるので指摘しておく。田深川の中流城に位置する見地村の「池沼」の項目には、同村が水利権をもつ溜池として、中山下池・中山中池・中山上池が記されている。この三つの溜池は、確かに見地村内に築造されたものではあるが、水利権は同村の東側に隣接する中田村がもっていたのである。実際、國東郡城の場合、自村が水利権をもつ溜池を、周辺の他村に築造した事例が多く確認できる。

さて、鶴川村の「税地」の項目には、「町歩八九年一月新築改訂調査ニ仍ル、尤モ十年四月土寇ノ災ニ罹リ焼燬失スルモノハ十一年八月ノ查額ヲ半ケ云々、各部算數ニ係ルモノハ皆全シ」と記された付紙がある。これに関して、『豊後國東郡村誌 一ノ一』の凡例には、「本稿ハ明治九年橋ヲ起スト雖モ、十年西南騒擾ニ際スルヲ以テ脱稿ヲ得ス、十一年ニ至リ實地ニ就テ更ニ精査ヲ遂ケ、稍校勘ヲ加へ稿本始テ成ル」とみえている。大分県では、明治九年に、地租改正がほぼ完了しており、本来は、この集計結果が鶴川村「税地」の項目にも反映されるはずであった。しかし、翌同一年に勃発した西南戦争にともない、國東・宇佐・下毛・速見の県北四郡では一擧が發生し、鶴川村「税地」の集計結果は焼失したという。このため、本史料に収録された鶴川村「税地」の各数値は、明治一年に行なった失分の再調査結果を受けたものとなったのである。

当時の大分県当局が編纂した『豊後國國東郡村誌』の内容は、収録された村々の実態をかたずけずも身分に表したものでない。しかし、明治初期頭の國東郡城における村の概要を伝えている点では重要な史料といえる。今後は、史料の内容について、さまざまな視点から検討を加えていく必要がある。

なお、浜村・深江村の「樓城」の項目にみられる「伊王洋」は、現在の伊予灘を指すものと思われる。また、「物産」の項目などに頻出する「辻生磨」は、近世以来、伴盛藩の特産品であった七島産のことであり、「南麻（いちび）」は、糧表の縦糸と織に使用されたアイ科の一年草である。

明治一七年正月付の『無常講規約取極組合連員簿』は、國東町深江に存在する無常講の組合員の共有により伝えられてきたものである。今回は、個人名についてはすべて省略し、規約全文の全文を収録した。なお、表紙には、「大正拾壹年旧八月訂正」と記されており、条文中には、昭和一五（一九四〇）年に改正された規約内容の書き込みがみられる。この史料は、葬儀が葬祭場で行われるようになった最近まで、実際に使用されていたという。

無常講とは、ムラにおいて「組合中死亡」の際、講の組合員が、葬儀から土葬までを共同して行う葬送組織である。条文は、追加条文を除けば全一〇カ条から成るが、葬儀や土葬に関するものは前半の第一〜五条である。しかし、興味深いのは、組合内の日常的な生活規範を定めた後半の第六〜一〇条であろう。たとえば、第九条では、組合員の行為に「何事ニ限ラス眼ニ余ル事」があれば、相互に注意し合うように求めている。また、第一〇条では、組合員は「道徳ヲ重シ、美

風ニナラヒ、全員が儉約と生産につとめることを定めている。こうした条文からは、組合員相互の結びつきを強め、全組合員の共同体意識を再生産しようとするムラの姿勢がうかがえる。このため、規約に違反する組合員があった場合には、「直子二組合員ヲ除ク」と定めているのである。

現在、本史料のようなムラの講義が伝えてきた共有文書は散逸の危険性が高く、今後の現地調査における所在確認が急がれるところである。

明治三十八年旧一月に作成された「年神社祭典元帳」は、国東町中田に所在する磯神社の氏子の共有により伝えられてきたものである。今回は、個人名を部分的に省略し、「村社祭典実行規約」をはじめとする全文を収録した。

内容は、冒頭の磯神社の由緒に関する記述につづき、全一カ条から成る「村社祭典実行規約」とその細則、そして「夕祭式献備物」、「祭日献備物」、「祭坐献立」が収録されている。この史料は、明治期の神社における祭祀と祭祀組織の具体的な姿を伝えている点で重要なものといえる。

国東半島の神社には、厳格なトウヤ（頭屋）制度をもつ、古い形のムラの祭祀組織がみられる。しかし一方で、その多くは、近年の過疎により衰退あるいは変容していることも事実である。また、現地における聞き取り調査でも、過去の祭祀組織の復元はしだいに困難になりつつある。こうした地域の現状にあつて、明治期の一神社における祭祀組織の姿を伝える本史料は、失われつつある過去の祭祀組織を復元する際の有効な手がかりになる。

こうした史料も、前述した講組の共有文書と同様に、散逸の危険性が高い文化財の一つである。ムラの神社の祭祀や祭祀組織が衰退・変容しつつある現在、現地における聞き取り調査はもちろん、祭祀や祭祀組織に関する史料を調査し記録することは、それ自身が重要な意味をもっていると考えられる。

(平川 毅)

凡 例

一 翻刻にあたっては、原則として原史料の体裁にしたがったが、読解の利便性を考慮して左記の諸点は改めた。

*用字は、地名・人名等を含めてすべて常用漢字を用いた。

*本文中に、読点（、）および並列点（・）を補った。

*割注は、一行にまとめて括弧を小さくして示した。

一 虫損・汚損等により翻刻が不可能な文字は、字数に応じて□で示し、字数が不明な場合は「」で示した。ただし、本来表記されていた文字が推測できる場合は、右側に（○カ）と注記した。

一 抹消箇所は、その箇所右側に抹消記号（~~ス~~）を付して示した。ただし、抹消による訂正箇所は、抹消箇所の直後に、「」で囲んで訂正文字・訂正文を示した。

一 後筆・付紙・貼紙は、その箇所を「」で囲んで右肩に（後筆）・（付紙）・（貼紙）と注記した。

一 当時、慣用的に用いられた文字、あるいは明らかでない字・誤用と思われる箇所は原史料の表記にしたがい、その箇所の右側に（~~）~~で囲んで正しい文字を示すか、（ママ）・（〇）懸等と注記した。このほか、校訂者による傍注は、すべて（~~）~~で囲んで示した。

1 豊後国東郡村誌 (明治一一年)

○大分県立図書館蔵

【豊後国東郡村誌 一ノ二二】

○岩戸寺村

本村古ヨリ國前郡ニ属ス、古來分合詳ナラス

疆域

西八千燈塚・熊嶽ノ嶺ヲ以テ赤根・千燈二村ニ界シ、西北ハ河内原ヲ以テ岐部村ニ界シ、南ハ文珠山脈ニ隨ヒ大恩寺村ニ接ス、東ハ溪水ニ沿テ来浦村ニ隣ス

幅員

沿革

東西三十拾老町、南北貳拾三町、面積
鬼籠村ニ出ス

〔慶長五年細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉立一興一行・松井康之ヲシテ連見郡并築城ヨリ之ヲ支配セシム、寛永九年細川一興〕氏肥後へ転封ノ後、

小笠原忠知信州松本ヨリ徙封代リテ之ヲ領ス、正保二年同氏參州吉田へ転封ス、同年七月松平直政ノ命ニ從テ、元文二年故アリ没収セラレテ徳川氏ニ歸シ日田郡水山布政所ニ属ス、後慶応三年久留米藩藩政所ヨリ支配ス之ニ代リ、同年八月ヨリ改メテ日田県ノ所轄トナリ、同四年十一月同県廢セラレテ大分県之ヲ管轄ス

里

大分県庁至縣分郡太方町頃田縣中央アリヨリ北方貳拾里九町壹間貳尺標柱本村

平ノ切七段ノ番地番地等並前所方丈高ノ島ニアリ、東方来浦村へ貳拾四町五

拾三町、西方大恩寺村へ壹里拾老町拾四間、北方岐部村へ壹里九町五間四

地勢

西ニ千燈塚ヲ負ヒ、其山脈南北ニ跨リ海ニ抵ル、聚落山間ニ屬シ、柴藪

地味

其色赤黒併ニ赤トシテ、其實美ナラス、甘藷ニ宜シ、水利便ナレトモ動ス

レハ旱ニ苦ム

税地

官膏地

無税地

實租

戸數

人數

牛馬

山

田賦拾町壹反貳拾六步、畑三拾五町九反四町五步、宅地四町三反七畝貳拾三歩、山林貳拾七町七畝貳拾七歩、原野五町五反拾五歩、林場七町七反五畝貳拾四歩、芝地老藏貳拾壹歩、總計百町七反八畝貳拾三歩

社境内地七畝貳拾貳歩、寺院地七畝貳拾四歩、芝地七畝拾九歩、社境外地貳反九畝四歩、原野五町貳歩、湖池貳町貳歩、總計七町五反貳畝九歩

荒畑五反貳畝貳拾三歩、墾墾地壹反貳畝貳拾貳歩

地租金五百貳拾拾壹圓、墾墾金壹百五拾圓、職〔耕〕獵税金壹圓、牛馬売買税金五拾圓、總計金六百八圓貳拾拾壹圓

本籍百九戸並民、社拾戸小姓、寺老戸天竺宗等、總計百貳拾戸

男貳百貳拾六口平良、女貳百三十拾口平良、總計四百五拾六口並民男老女人數

牛馬 牝牛三拾九頭、牝牛三拾三頭、總計七拾貳頭、牡馬貳拾五頭、牝馬壹頭、總計貳拾六頭

千燈塚高百三拾丈、周圍二里、村ノ西北ニアリ、嶺ヒヨリ三分シ、西北ハ千燈村ニ屬シ、南ハ熊嶽村ニ屬シ、東ハ本村ニ屬ス、半村以上蒼蒼蒼茂、以下樹木鬱鬱、山脈八段ノ登山ニ遊リ、南ハ熊ノ嶺・文珠山ニ遊リ、北ハ小物山ニ遊リ、登降ニ條一ハ村邊字所ヨリ上ル、南老藏ニシテ遊シ、一ハ村南字所城ヨリ上ル、高五町畝ニシテ遊シ、熊ノ嶺高百丈、周圍壹里拾八町、村ノ西南ニアリ、嶺ヒヨリ三分シ、西南ハ赤根村ニ屬シ、東北本村ニ屬ス、山脈南ハ文珠・小恩、板敷ノ諸山ニ遊リ、北ハ千燈塚ニ遊リ、樹木老茂、登降ニ條一ハ村邊字所ヨリ上ル、高五町畝ニシテ遊シ、字高野ヨリ溪水、橋浦出ス、下流山口池ニ入ル、一ハ村邊字所、深五町、長崎七町三拾拾壹歩、小嶽高七拾丈、周圍壹里、村南ニアリ、山脈南ハ文珠山・熊ノ嶺ニ遊リ、東ハ板敷山ニ遊ス、樺太嶺、麓路一條村字山ヨリ上ル、高六町畝、板敷山高四拾丈、周圍壹里、村南ニアリ、嶺ヒヨリ三分シ、東南ハ大恩寺村ニ屬シ、北ハ赤根村ニ屬シ、東ハ本村ニ屬シ、山脈南ハ小恩・文珠・千燈ノ諸嶺ニ遊リ、東ハ高ノ嶺山ニ遊リ、樹木鬱鬱、登降ニ條一ハ村東字所道ヨリ上ル、高五町畝ニシテ遊シ、一ハ村東字所ヲ隔テ南ヨリ上ル、高拾町畝ニシテ遊シ、文珠山高百六拾丈、周圍二里、村南ニアリ、嶺ヒヨリ三分シ、東ハ大恩寺村ニ屬シ、南ハ赤根村ニ屬シ、西ハ本村ニ屬ス、草莽蒼茂、山脈西ニハ熊ノ嶺・千燈塚ニ遊リ、北ハ小嶽ニ遊リ、東北ハ板敷山ニ遊リ、登降ナシ

岩戸寺川ニ等河二萬五、広八間、深四間、深三六、淺四、流レ急ニ水清ク能流シ、源ヲ山口池ニ發シ、村ノ中央ヲ東流シ、字水口ヨリ赤瀬村字四十町ニテ海トナリ、其間拾七

町西門、南園橋高田庄二區ス、村ノ西南六町兼シテ岩戸寺川ノ上流十南門アリ、水堀
武尺、広二箇、橋長四間、広三箇、三三、
山口池東西三町二箇間、南北三町武松間、四八町、村ノ西南ニアリ、二級紙及七能ノ炭炭
行ノ水下流來リ、長八町、又流幾アリ、小溝ノ裏ヨリ清下流來リ、長六町、長四町、繼
レテ岩戸寺川ノ源トナル、本村並ニ朱備村ノ用本トナス、良野、又ス、
高田往還三等道路ニ屬ス、村ノ北北東邊村ヲ一ヶ谷ヨリ村ノ西南邊村ヲ宇志志ニ至ル
長卷ノ町五ヶ穴間、広三箇、字間四ヨリ南ニ折レテ大谷寺村路アリ、字ノノ坊ヨリ北ニ折レテ
龍田道ニ至リ、大恩寺大道無キ、村ノ西南南西ヨリ村邊神宮村兼小嶽ニ至ル、長拾四町
餘八間、広四尺餘、岐部道至、村ノ中央中ノ坊ヨリ離リ、村ノ西北邊村ヲ界字志志
餘二箇、長拾四町餘間、広二尺六寸

堤塘
中ノ防塘岩戸寺川ニ沿ヒ、村南字坊ヨリ村ノ東南字法法ニ至ル、長四町武松間、西四二尺、
堤塘長間武尺、修繕費三分八官二釐七分八厘ニ屬ス、出水堤塘岩戸寺川ニ沿ヒ、村東字出水
ヨリ字水口ニ至ル、長三町、堤塘四尺、堤塘間、修繕費三分八官二釐七分八厘ニ屬ス、向
フ陂治堤塘岩戸寺川ニ沿ヒ、村東字向ノ陂治ニアリ、長四町餘間、堤塘間三尺、堤塘三間、
修繕費二分八官二釐七分八厘ニ屬ス

社
六柱社村、★地東南方面、南北九間、西稻老殿依地、村邊字竹ノ迫ニアリ、底津路津
見社、底津之男神、中津路津見社、中津之男神、上津路津見社、上津之男神ヲ祭ル、明治五年
村社三列ス、格日十二月八日

寺
岩戸寺天台宗、東邊六間餘、南北三間餘、西稻老殿依地、近江德信郡都道寺來、
村南字寺迫ニアリ、並ニ二年廣仁開闢新講堂、文明七年修築中興ス

物産
并草蓆千五百餘束、榎実地方干柿、新式松毛刀、武百石以上、製菓、大福等ニ屬ス

民業
男婦ヲ來トスル者九十九、南邊ヲ來トスル者四、北邊ヲ來トスル者七

○來漕村
本村古ヨリ國前郷ニ屬ス、
古時浜村ノ一村タリ、元和ノ頃分テ來漕・中村・長野・浜村ノ四村トナ
リ、明治四年六月長野村ヲ本村ニ合ス

區域
西八溪水ニ沿テ岩戸寺村ニ隣シ、南ハ珠山嶽ニ迫ヒ大恩寺村ニ接ス、
東南ハ岩戸寺川ヲ以テ浜村ニ界ス、北ハ千燈嶽ノ背筋ヲ限リ岐部・大熊

毛・小瓶毛・向田ノ三村ニ界ス
東西三拾四町、南北拾八町、面積
西方寺村ニ出ス

沿革
慶長五年豊前國小倉城主細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉興行・松井康之ヲ
シテ連見郡伴築城ヨリ支配セシム、寛永九年岡氏配後ハ転封ノ後、小笠
原忠知信州松本ヨリ從封之ニ代ル、正保二年岡氏參州吉田ハ転ス、故ニ
松平英親本部高田城ヨリ伴築ハ徙リ岡氏ノ所領トナリ、爾來世襲後第十
世松平親實ニ至リ王政革新、明治二年六月版籍奉還、同四年七月改メテ
伴築縣ヲ置キ、同年十一月同果廢セラレテ大分縣之ヲ管轄ス

里程
大分縣庁至伴築八分町同田中ニ至リヨリ北方拾九里武拾九町九間尺兼柱本
村字寺迫防塘邊石村兼岩戸寺前字法法ニ至リ、東方浜村ハ拾七町
拾八間武尺、西方石戸寺村ハ武拾四町五拾武間、南方大恩寺ハ卷里五町武
拾也間、北方向田村ハ武拾八町三拾武間

地勢
南ニ岩戸寺川ノ流ヲ帶ヒ、北ハ嶺石山・稻荷山ノ諸峯ヲ負ヒ、西ハ岩戸
寺村ニ接シ、東ハ浜村ニ界シ、運輸便ニシテ漸次乏カラス

地味
其色赤黒粉チト云、其質美、稻粱・菽麥ニ宜シ、水利便ナラス

地味
田邊岩戸寺村ニ至リ、畑田四八三反畝餘七畝、宅地八三反畝餘三歩、内陸地
畝反九畝餘五歩、山林畝拾五町四反七畝餘二畝、原野五反畝餘四歩、林邊村七畝八畝、
芝地寺町七反畝餘八畝、總計百拾七町餘畝餘七歩

官有地
社境内地三反八畝餘八畝、社境外地反四畝餘四歩、芝地面積餘畝、寺院境内
地九畝餘、溜池寺町町反五畝餘、總計町町反四畝餘
荒地三町二反四畝三歩、埋葬地寺町町反四畝三歩、火葬場三畝餘、總計町町反八畝
六歩

無稅地
地租率武百石五町八拾畝餘、與稅金六町三反七畝餘、家棟稅金四七畝餘、
須稅金三町、牛馬光買稅金三町、總計金千石五町八拾八畝九畝七畝
本籍百七拾三丁一畝餘、町長百七拾畝、社稅拾戸小、寺三町、天寺寺、
龜井寺、岩戸寺、總計百九拾六戸

戸數
男三百八拾四口、女三百八拾七口、平民三百七

物産 甘露五倍力方三石、芥菜唐三千五百石、榎實百九拾七石、生

糶米万石、竹五石七拾束、薯上馬、白米ノ余産二萬石

民業 男傭ヲ粟トスル者貳百五拾七戸、馬ヲ粟トスル者壹戸、馬ヲ粟トスル者拾五戸

【豊後國東郡村誌 一ノ三】

○深江村

本村古ヨリ國前郷ニ屬シ、古來分合ナシ
濱城 東ハ伊予洋ニ瀕シ、南ハ山林ヲ以テ堅來村ニ接シ、西北字四箇一並ニ島
越ノ山林ヲ以テ浜村ト界ナス

幅員 東西貳拾七町、南北六町、面積

沿革 慶長五年細川忠興之ヲ領シ、其臣有吉立、「興」行・松井康之ヲシテ連見
郡并築城ヨリ之ヲ支配セシム、寛永九年細川氏肥後へ転封ノ後、小笠原
忠知信州松本ヨリ徙封代リテ之ヲ領ス、正保二年岡氏參州吉田へ転封ス、
同年七月松平英親本郡高田城ヨリ杵築へ徙リ岡氏ノ所領トナリ、貞享二
年郡松平直政ノ采地トス、元文二年故アリ没収セラレテ徳川氏ニ讓シ日
田郡水山布政所ニ屬ス、後慶応三年久留米藩ニ分封高島藩ヨリ來ス、二代
リ同年八月ヨリ改メテ日田県ノ所轄トシ、明治四年生國四ノ村ニ歸屬アリ預リテ
之ヲ支配ス、後明治元年熊本藩ノ一ナリ、同四年十一月岡眞盛セラレテ
大分県之ヲ管轄ス

里程

大分県庁迄大分郡大分町由南中央ニアリヨリ北方拾八里貳拾四町五拾七間
生村村中野武拾壹町由南中央ニアリヨリ南方陸來村へ貳拾壹町五拾
間、北方浜村へ拾六町拾八間五尺

地勢

地勢 東海ニ瀕シ、自余三面皆山林ニ屬ス、運輸便ニシテ薪炭乏カラズ
地味 其色赤、質惡、稻粟ニ宜ク水利便ナラス

地味

税地 田畠拾町五反拾貳畝、畑貳拾町五畝貳拾五畝、宅地貳町四反七畝拾步、山林貳拾壹町
五反五步、原野四町五反六畝六步、物干場七反步、總計七拾壹町七反九畝貳拾八步
無税地 埋葬地五反六畝拾步、火葬場貳畝拾步、總計五反八畝拾步

官有地 社地四畝拾三畝、山林三反三畝貳拾七步、溜池三反九畝貳拾五步、總計七反八畝五步

賃租 地租金百貳拾四圓五拾七錢八厘、賦課稅金壹圓、總計金壹百貳拾壹圓五拾七錢八厘

戸數 本郷七拾貳戸平民、社老戸七、總計七拾三戸

人數 男百七拾四口平民、女百五拾六口平民、總計三百三十拾口

牛馬 牡牛三拾頭、牝牛拾七頭、總計四拾七頭、牡馬拾六頭、牝馬壹頭、總計
拾七頭

山

墓ノ塔山宮三畝五反、岡田三町、村田ニアリ、南上町四反、東南八畝兼村ニ屬シ、南ハ
大恩寺村ニ屬シ、西北ハ浜村ニ屬シ、東ハ本村ニ屬ス、山腰實ハ松樹・文藝両山ニ薄リ、東ハ
海ニ臨ル、松木繁茂シ、聖蹟各條ノ湖ニテ鳥居ヨリ發ル、宮町西拾間

川

深江川ニ源河三橋久、平井水割尺、広五間三尺、築橋間、本村字四ヶヶ一ニ源リ字江平ニ源テ
海ニ入ル、長流龍宮町、陸田ノ海邊ヲ過シ赤水ヲ湧下ス、江影橋大分住連ニ屬ス、村東拾
貳町至シテ深江川ノ下流至リ江成ニアリ、水灌尺、広五間三尺、橋長五間三尺、広壹間、陸上
編

池沼

河内新池東面貳町、南北拾間、周圍五町、村田ニアリ、村ノ用水トナス
大分住連一等道路ニ屬ス、村北新村集字里岩ヨリ東南聚來村界ヲ越テ谷ニ至リ、溝池ニ沿ヒ
長九町貳間、広壹間三尺、明治九年五年新築

道

金尾驛崎石驛驛、村ノ東方ニ出スルニ至リ、志町字出ノ地邊ヲテ如志成トイフ
八坂社社比、社地壹畝三拾七間、南北四間、西長四畝拾三畝、村東中村ニアリ、須
佐之男命ノ祭ル、明治五年村社三列ス、祭日六月三日

社

物産 苜蓿實貳、七石五拾束、生糶實貳、貳石、榎實實貳、壹石、薪實貳、壹石、實以七
畝、大板二畝

民業

男傭ヲ粟トスル者七拾五戸、馬ヲ粟トスル者壹トス

○聚來村

本村古ヨリ國前郷ニ屬シ、古來分合ナシ
濱城 東海ニ面シ、西ハ山林ヲ以テ浜村ニ接シ、西南ハ原野ヲ以テ大恩寺村ニ
界シ、南ハ山林ヲ以テ富來村ト界シ、東南ハ耕地ヲ以テ富來浦三界シ、「ス」、
北ハ山林ニ屬シ深江村ニ隣ル

七月改メテ竹藪黒ノ置キ、同年十一月間黒鹿セラレテ大分県之ヲ管轄ス
大分県庁迄種々大分県分庁前田橋中央ニテヨリ北方拾八里貳拾五町四拾間至未
村吉ノ前百五拾八地端至野毛南西東方九ノ地ニテリ、東方富來村へ拾七町三
拾間、西方拾五ノ寺村へ志里拾壹町拾四間、南方下成仏村へ貳拾町三拾三間、
成仏村へ貳里拾町五拾八間

地勢 東耕地ニ連リ、西南於寛平札・文珠ノ諸山ヲ負ヒ、北ハ山林ニ接シ、運
輸便ニシテ新設芝シカラス

地味 其色黒、質堅、稲梁ニ宜シ、水利便ナラス、旱ニ苦ム

税地 田三拾六町二反貳拾九畝、畑五拾町七反八畝七步、宅地六町五反八畝貳拾畝步、一六町六反
八畝七步、内社地九畝貳拾五步、山林園地八町二反五畝貳拾畝步、原野武蔵郡九町七区老職
拾五步、社地九畝貳拾五步、總計百七拾四町八反四畝貳拾九步

無税地 埋葬地志町五反四畝貳拾六步

實租 社地五区三畝貳拾六歩、寺院地西區三畝拾畝歩、林野町西區九畝六歩、瀧池四町六畝四
歩、原野拾武町歩、總計拾四町五反貳畝拾六歩

戸數 本籍百六拾八戸平民、社貳戸小社、寺貳戸天台宗寺宇、釋迦淨土宗宇、總計百七
拾武戸

人數 男三百九拾八口平民、女三百九拾七口平民、總計七百九拾五口

牛馬 牡牛八拾九頭、牝牛三拾八頭、總計百貳拾武頭
文珠山高登寺、開國三區、村西ニアリ、嶺上ヨリ四分シテ、南ハ成仏村ノ屬シ、北邊戸
寺村ノ屬シ、西ハ赤松村ノ屬シ、東ハ本村ニ屬ス、山嶽西南側ヨリ山ニ連ル、山嶽ノテ拾拾拾末
等ノス、社堂建寧寺、登路ナシ、排水一畝半幅ニ導出ス、文珠川ノ水際ナリ、於寛平札山高拾
丈、寛平ノリ、開國三區、村西ニアリ、東區南成仏村ニ屬シ、北ハ本村ニ屬ス、山嶽西南側ヨリ
山ニ連ル、樹木生々ス、登路難ク登降ナシ、霧ノ塔山高三拾五丈、開國三區、村北ニアリ、嶺
上ヨリ四分シ、東南ハ豊來村ニ屬ス、東ハ隈江村ニ屬シ、西北ハ赤井村ニ屬ス、南ハ本村ニ屬ス、
山嶽西ハ坂道、文珠ノ二山ニ連リ、東ハ樹三底ル、樹木繁茂シ、登路一畝半幅ナリ、嶺上ヨリ五分シ、
ル、高六尺、板屋山嶽四拾丈、開國志里貳拾八町四拾間、村ノ南北ニアリ、嶺上ヨリ三分シ、

川 西ハ若戸村ニ屬シ、北ハ赤井村ニ屬シ、東南ハ本村ニ屬ス、山嶽西ハ小嶽、文珠、千疊ノ諸
山ニ連リ、樹木繁茂ス、村南ヨリ治ノ池ル、長一町、幅限ナラス
文珠川 三等河ニ屬ス、隈六尺、流石止間、狹武間、源ヲ村南水鏡ノ内池ノ甲ニ發シ、
村ノ中央ニ流シ、宇高尾ニテ北流シ、入ル、長一町三拾畝武町貳拾三間武尺、
ワノ池池東西二町三拾三間、南北七町、村西ニアリ、赤田池東西壹町、南北三拾
三間、開國三町、村西ニアリ、横松池東西拾五間、南北三拾間、河内志里拾三間、村西ニア
リ、南野池東西四八間畝、南北壹町三拾五間、開國三町四拾六間、村南ニアリ、以上諸池
本村ノ用水トナス、南野池東西壹町、開國志里五拾四間畝、開國四町貳拾六間、村南ニアリ、
見地村ノ用水トナス

道路 大分佐達三等道路ニ屬シ、西南成仏村界字地鏡ノ尾ノ止ヨリ村東志里村界字地鏡ニ至ル、兵
者里三拾武町貳拾三間武尺、巾着間四尺、成仏道三等道路ニ屬ス、村ノ中央字ノ町ヨリ中
シテ高田尾端トナリ、南野成仏村界字地鏡ノ尾ノ止ニ至ル、惣志里三拾武町貳拾三間武尺、
宅間四尺、岩戸寺道三等道路ニ屬シ、村西字文珠地鏡ヨリ北方志里村界字文珠野ニ至ル、
長四町拾六間、巾五尺、高田尾端三等道路ニ屬シ、村東志里村界字地鏡ノ尾ノ止ヨリ成仏村界
字高尾ニ至ル、長三町三拾三間、巾志里間四尺

社 大神社 社、社地東區拾五畝畝、南北八間畝、面積及石拾畝、村ノ中央字垣中ニアリ、
大山威命ヲ尊ル、明治五年村社ニ列ス、祭日六月十五日

寺 文珠仙寺天台宗、東邊志里町志里間、南北拾拾間畝、而田三反三畝拾六歩、村西字文珠助寺
ニアリ、近江國熊野郡志里寺、文武天皇元年校小角路メテ此山ヲ開キ、贊皇一年開仁國寺ヲ
創業ス、當國ノ創始ナリ、大恩寺釋迦淨土、東西六間畝、南北拾五間畝、面積九畝拾六畝、
富來淨土法華寺、村ノ中央字區ニアリ、慶安二年開仁國寺ヲ建ス

學校 公立小學校地ヶ所村西字山嶽ニアリ、生徒男七拾餘人、女拾餘人

物産 井上志里實菜千七百八拾畝、榎實實、六千三百四拾九斤、胡豆實、三万六千斤、大豆等へ
輸ス

民業 男勤勞業トスル者五百六拾餘戸

○富來村 本村古ヨリ國前郷ニ屬シ、古來分合ナシ

區域 東ハ富來浦及浜崎村ト新地ヲ界トシ、西ハ耕地、山林ヲ以テ大恩寺・暨

来向村二隣り、南ハ見地村ト原野ヲ境トス、北ハ字山隣「際」山林ニ至リ墾テ村ト界ス

郷員 東西貳拾九町、南北三拾町、面積

沿革 大分県庁ニ出ス

里程 大分県庁ニ出ス、大分町、八里八町拾四間、往本村

地勢 四面山林・耕地ニ属シ、運輸便ニシテ榮耀之カラス

地味 其色黒、其質美、稲稔ニ適シ桑茶ニ宜シ、水利便ナリ

税地 田六拾町三反五畝、畑二拾三町七区三畝八歩、宅地四町六反九畝五歩、内寺地宅反

官有地 社地四反四畝九歩、森林四畝八反、山林貳畝六歩、溜池宅町八反四畝五歩、總計

實租 地租金十八拾三圓貳拾七匁、酒類税金貳拾五圓五匁、賦金金五拾匁、總計金十

戸數 本籍百廿五戸、社者戸小住、寺者戸五拾五戸、總計百貳拾

人數 男貳百貳拾三口、女貳百三拾貳口、總計四百五拾五口

牛馬 社牛貳拾八頭、牝牛三拾三頭、總計六拾六頭、社馬貳拾四頭、牝馬貳頭、

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

北拾八町、東西各町拾八間、村南ニアリ、羽田池東西三拾間、南北各拾畝、開田宅町三拾

道路 高田往通三等道路ニ属ス、東ハ富永浦界ヲ圍テ西ハ大恩寺村中實野ニ至ル、長拾七町

社 八坂社、社地東西貳畝四畝、南北各貳拾六間、南極西反四畝九歩、村ニ中央

寺 泉慶寺、東西三拾間、南北三拾間、東西各反四畝、村西字殿敷ニシテ、山極園

物産 榎葉實、六千五百斤、牡丹所實、貳千三百拾五、皆大坂毎ニ輸ス

民業 男農業トスル者九拾九戸、既ノ業トスル者五戸

○浜崎村 本村古ヨリ開闢第二農ス、

疆城 東ハ海ニ面シ、西ハ山林ヲ以テ富永村ニ接シ、南ハ北江村ト山林ヲ界シ、

沿革 大分県庁ニ出ス

里程 大分県庁ニ出ス、大分町、八里八町拾四間、往本村

郷員 東西貳拾九町、南北三拾町、面積

地勢 四面山林・耕地ニ属シ、運輸便ニシテ榮耀之カラス

地味 其色赤、其質悪、畑レトモ稲稔・桑茶ニ適ス、時々旱ニ苦ム

税地 田七拾七町四反四畝七歩、畑三拾九町四反五畝拾六歩、宅地六町五反七畝三歩、内社地

飛地 木村ノ南方北江村ノ内、畑五畝貳拾四歩

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

池沼 南野池東西各町三拾間、南北各五間、開四町、村南ニアリ、荷多池東西各八間、南

川 文珠川ニ等シ三畝、渠六尺、溝五尺、庄拾五町、渠七町、溝レ溝ヲ水溜ク渠ニシテ、渠ヲ大

無税地 埋葬地老町老反六畝五歩

官有地 社地東段畝拾歩、寺院地九畝零歩、山林三反零段拾七歩、溜池三町三反四畝老

賈租 地租金八百九拾七圓七錢零四厘、家祿税金老百八錢四厘、總計金八百九拾八圓七拾九

戸数 本籍百三拾七戸土着百戸、平氏百三拾六戸、社貳戸小社、寺壹戸御落着身老宇、總

人数 男貳百九拾七口土着老口、平氏貳百九拾六口、女三百六口平氏、總計六百三口

牛馬 牡牛六頭、牝牛五拾八頭、總計六拾四頭、牡馬五拾四頭、牝馬貳頭、總

川 文珠川三町川二萬六、深三尺、淺壹尺、広拾畝間、深六間、流レ緩ク水清ク水淡シ、瀬ヲ大

池沼 大谷池夏三町、南北老町畝拾間、周八町、村西ニアリ、小谷池東西老町畝拾間、南北

道路 大分往通ニ等道路二區ス、村北富米村算字富田ヨリ村南北江村男子モ田ニ至ル、兵六町三

社 直日社社廷、社東西三拾四間余、南北三三間、前庭八畝拾拾歩、村ノ中央ヲ不設院ニアリ

寺 神宮口、太二町神ノ跡ル、祭日六月十六日、貴船社社村、社南東西拾二間余、南北八間余

物産 榎實貳萬、貳千斤、社三所實實、貳千四百石、大板、中舟等二種也

民衆 男百七十五人、女百三十三人

○富來浦

古ヨリ國前郷二區ス、古時浦手・柳迫ノ二村ナリ、明治四年六月合シテ一村トナリ本村ノ稱ニ

改ム、東八海ニ瀕シ、西ハ富來村ト耕地ヲ接シ、南ハ文珠川ヲ境シ、浜崎村ニ

對シ、北ハ耕地ヲ以テ海ニ沿ヒ墾來村ト接ス、東西貳拾町、南北貳拾六町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス、大分県庁元榮次郎大分町田中ニアリヨリ北方拾七里貳拾町貳拾四間置村

里程 村手大町八百貳拾零步、小倉至三町三反前田中ニアリ、北方墾來村へ拾七町四

地勢 東北海ニ瀕シ、西南耕地ニ連リ、運輸便ナレトモ霜積之シ

地味 其色黒、其實美、稲穀ニ宜シ、水利便ナリ

地味 田畝拾五町八反六畝拾貳歩、畑六拾町八畝零歩、宅地八町三反零畝拾七歩、山林三

稅地 町老改畝二歩、原野七町五反六畝拾零歩、物干場四町老區二畝拾拾歩、沼地五反零

無税地 埋葬地九反四畝六歩

官有地 社地貳反三畝拾八歩、寺院地貳反四畝九歩、寺境外地貳反拾五歩、山林三町八畝拾拾

賈租 地租金八百五拾四兩零四厘、酒類税金五拾七圓六拾八錢、家祿税金百八拾三圓三厘

戸数 本籍貳百七拾四戸土着八戸、平民貳百七拾五畝、總計金九百五拾八圓三錢拾七厘

人数 男五百八拾貳口、女五百七拾七口、平氏五百七拾八口平氏、總計千百

牛馬 牡牛八頭、牝牛四拾八頭、總計五拾六頭、牡馬三拾五頭、總計三拾五頭

舟 日本形船八拾四艘五拾石以上者七艘、五拾石未満者拾七艘、漁船六拾艘、船隻

池沼

文珠川 / 藤河二橋、澤六尺、淺谷尺、広成谷尺間、要石間、流し橋ク水行ク味淡シ、源ヲ

池沼

大泉寺村ニ瀧シ、常陸村ヲ越テ村西字源本ヨリ米リテ金取至リ、南沼崎村ノ間ヲ割シテ新田

池沼

中ノ追池東面武松五間、南北狹間、湖邊町武松池間、村北ニアリ、村ノ用水トス

池沼

大分往還ニ陸道路ニ瀧ス、山北聖妻村長字白砂ノ間沼崎野宇富田ニ至ル、並武松池ヲ臨

池沼

村ノ中央本町ヨリ富原村界宇田至ル、長拾三町五拾四間、巾形三町二尺

池沼

揭示湧水東ノ山ヨリ武野給田字町口ニアリ

池沼

富米港無キ、東西四町、南北四拾三間三尺、文珠川ノ東流ナリ、千瀬澤七尺ヨリ二尺ニ出ル

池沼

東方ニ向フ東面ニ直ノカラス、一ヶ年出入船隻宅万五十六三町、輸出此土產、新農、生蠶、

村会所

用務所本村ノ中央本町ニアリ

古跡

富米城址村西ニアリ、東西四町、南北三町、即宇影ヲナシ石積存シ遺跡存セス、周圍ノ

古跡

聖澤澤シテ水田トナリ、其間田ノ得水皆曾ス、初メ大友源氏ノ使士米長基助メテ邑ヲ此ニ立シ

古跡

際サ氏ヲ富米ト改メ源ノ宗將、故世武成ニ至ル、足利尊氏ノ使士米長基助メテ邑ヲ此ニ立シ

古跡

比、出度源ヘテ其城ニ入リ、其城主氏ヲ懸置シ兵ヲ賜フモ氏ノ從ハシメ、幕氏ノ領領リテ以

古跡

テ大ニ振テ、忠義無難アリ、存其跡ヲトク、且其ノ地ニ、忠義無難ヲ稱ス、其城ノ跡ヲ

古跡

間垣垣瓦葺クシテ其城ニ形シ、其城五年築石田三成ニ見テ大角城ニ稱死ス、家純ノ最ト

氏多ク少測ノ被擄ノ跡ヲ、此城其跡ヲ見ズ

并土庫家典、千束、榎實實、寛三尺、生蠶實典、武方七尺、管六坂二輪ス

男爵ノ業トスル者自取田、浪ノ業トスル者自田、野ノ業トスル者自田

民業

物産

鹽

○成仏村

本村古ヨリ關前郷ニ屬シ、古來分合ナシ

東ハ下成仏村ト荒谷川ヲ以テ相對ス、西ハ兩子山ヲ以テ赤根村ニ界シ、

西南ハ兩子山ノ嶺ヲ以テ兩子村ニ界ス、南ハ横手村ト山林ノ境トス、北

ハ於英奉礼山ヲ分テ大恩寺村ト相接ス

墳墓

富米忠茂藩村北字多野新林中ニアリ、古墳數セシテ文中方弘寺住僧一理兼美氏ノ遺骸

卜算石神ノ遺骸ス、其傍ヲ残存遺骸頗ル古古ナリ、忠茂ノ御墓ハ富米城ノ所ニ傳ヒス

御祖社村北、社地狹狹五間余、南北狹間余、東西六尺拾六間、村東字下田ノ一町ニア

リ、伊藤氏等、伊藤藩ヲ祭ル、祭日六月十五日、年中神社社地、社地東西五間余、南北六

間余、面積三畝五步、村南内ノ田ニアリ、稲田延會ヲ祭ル、祭日六月十五日、二社別稱五

社列ス

光永寺東、東西拾間余、南北狹間余、面積畝貳拾拾步、正勝村光岡寺、村東字下

町ニアリ、慶長十一傳明利親王御遺跡、万弘寺傳傳法、東西七尺六間余、東北西北西南

余、面積三八尺拾八歩、山根田野野妙心寺、村西字御池ニアリ、虚空中華堂東北南東

茂草屋シ、豐山山ヲ圍ムトス

地勢

東南ニ荒谷川ヲ帶ヒ、西北ニ滑瀧山及於英奉礼山ヲ負ヒ、運輸便ナラス、

其色赤アリ墨アリ、其質中美、四面皆山ニシテ種菜登種ナシ

田畠拾八町七反武藏郡八歩、畑武藏郡八畝畝九歩、宅地田町三反五畝九歩、山林拾

六町六反四畝拾三歩、原野四拾五町七反武藏郡六畝、給計百拾七町四畝五歩

地味

地味

地味

地味

地味

地味

開 中六尺、富米運三町、村西田深澤子庄敷ヨリ北三線シ、東北番新井界字大石三町、其拾四町、広二尺

八坂社村社、社東原武松間、南北武松村明命、原武松反四町武松村、村東字横田ニアリ、神佐之勇等、足名權命、熊田比女命、手名權命、車取盛、天御中主神、大國玉命、大山祇神、即之孫等、野槌神、天之孫百神、即之開戸神、天之孫土神、即之孫土神、久那斗神及香公等鎮ル、明治五年村社ニ列ス、祭日六月十四日

五林寺神宮寺、其自武松村明命、南北武松間、面積八畝武松地歩、境子村爲禰寺末、村東字横田ニアリ、享永八年開闢神廟創建ス

物産 牡丹草實賣、千五百七拾五匁、榎實賣、千匁、薪賣、五万匁、皆長門、周防又八尺取等二匁ス

民業 男業ヲ染トシ考ヲ染得テ染トスル者百拾六戸

寺 本村古ヨリ國前郷ニ屬シ、古來分合ナシ

區域 東ハ荒谷川ヲ以テ川原村ニ隣シ、東南ハ岩屋村、西ハ見地村ト耕地ヲ接シ、南ハ横手村、北ハ浜崎・北江二村ト皆山林・原野ヲ以テ界トス

稲農 東西南武拾町拾六間、南北拾八町、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里程 大分県庁迄程大分郡大分町田中ニアリヨリ北方拾七里拾壹町五拾七間程程

地勢 村中三百五拾五畝程小坪高田原等諸山北方武松間ニ在リ、東方川原村へ拾九町武松間、浜崎村へ老里拾貳町拾貳間、西方見地村へ拾六町五拾三間、南方岩屋村へ拾九町武松八間、横手村へ武拾貳町三拾壹間

地味 東西耕地ニ連リ、南北山野ニ屬シ、運輸便ナラス、柴薪多シ

見地村ニ間シ

田 田間狭八町四反間餘步、畑取拾七町六反畝餘歩、宅地五町五反畝餘歩拾八畝、流作田「未定地」八畝拾九歩、山林三拾三町九畝餘歩八畝、原野武拾町七拾廿六歩、總計百三拾五町四反八畝七歩

無税地 環葬地至反九畝餘拾七歩

官有地 社地壹反三畝拾七歩、寺院地貳反四畝七歩、山林三反三畝餘拾五歩、畑壹反五畝八歩、總計八反六畝餘拾七歩

實租 地租壹反五拾七町九畝餘歩、家課税壹町八畝餘歩、酒類税金壹拾四町八畝餘歩、計壹反八拾九町九畝餘歩

戸数 本籍百拾四戸十族宅戸、平民百拾三戸、寄留老戸軍民、社九戸小住、寺三戸御曹洲米取等、真宿老等、總計百拾拾七戸

人数 男貳百貳拾六口上族三口、平民貳百貳拾三口、女貳百貳拾口七族口、平民區百拾八口、總計四百四拾六口、外寄留五人男三人、女二人

牛馬 社牛三拾九頭、牝牛六頭、總計四拾五頭、社馬三拾六頭、牝馬三頭、總計三拾九頭

川 荒谷川(三峯河)ニ屬ス、深五尺、廣三尺、広七間、流レ緩ク水清ク餘波シ、流ヲ成仏村ニ犯シ、下成仏及七見地(二村間)ヲ東ニ流レ、村ノ西ニ水邊橋ヨリ奔リ東見地村、奔リナシ、南岩屋村ノ北界ヲ割リ字立野ニ至リ川原村ニ入ル、長武武松町武松七間、同村北ニ原村界ヲ落合ニテ横川ヲ合シ、安國寺、田原、鶴川ノ二村ノ經テ海ニ入ル

田 田深澤三等道路ニ屬ス、村西見地村界邊ヨリ東川原村界ヲ横川ニ入ル、武松老町武松拾三間、廣三間、道邊ヨリ右横手村、左浜崎村ニ通スル岐路アリ、岩屋道三等、村東字ノ中田ヨリ岩屋村界ヲ右堂ニ通ル、長四町、広二尺、横手道三等、村西字道邊ヨリ南武松手村界ヲ東岩屋山ニ通ル、長七町、広五尺、浜崎道三等、村北字道邊ヨリ東北浜崎村界ヲ北本松ニ通ル、長拾八町武松拾七間、広二尺

社 歲神社村社、社地東西拾五間餘、南北拾二間餘、面積七畝餘拾五歩、村ノ中央ヲ居ルニアリ、大盛神、夏比佐神、御祭神、秋田神、若狹神、天守御中主命、大御主命、大山岳命、野槌神、天之孫土神、即之孫土神、天之孫百神、即之開戸神、天之孫土神、大國玉命及香公ヲ祭ル、明治五年村社ニ列ス、祭日十一月七日

淨土寺真宗、東邊拾九間餘、南北拾九畝餘、面積九畝餘、山崎國前郷本郷寺末、村北字山下ニアリ、正應三年德祥心開闢創建ス、東光寺南無南無、東西拾七間、南北九間、面積拾反畝餘六歩、横手村爲禰寺末、村ノ東南界東光寺ニアリ、享永五年開闢國前郷遷入、松月寺高野宗、東邊拾六間、南北七間、面積拾畝餘歩、連見地本村爲禰寺末、村字内間ニアリ

民業 男傭ヲ兼トシテ傭ヲ兼テスル者百三拾戸

○川原村

本村古ヨリ國前郡ニ屬シ、古來分合ナシ

區域 東八田深・北江ノ二村ト耕地連接シ、西八中田・岩屋ノ二村ト山林・耕地大牙相接シ、南八原村ト田深川ノ境トシ、北八北江村ト松林山ヲ界トス

里程

大分県庁迄本分縣六町距離中央ニアリヨリ北方拾六里三拾壹町五間餘往本村宇都平橋六考地及成程松尾新田ヨリ東方四拾間ノ地ニアリ、東方北江村へ貳拾三町五拾壹間三尺、鶴川村へ三拾町、西方岩屋村へ拾六町貳拾八間、中田村へ拾九町貳拾間、南方原村へ五町貳拾間、安國寺村へ拾九町四拾六間四尺

地勢

北方山野ニ屬シ、南ニ田深川ヲ帯ヒ、運輸便ナラス、耕作用ニ賸ル

地味

其色黒、其質美ニシテ稲稔ニ宜シ、水利便ナリ

地味

田深川七町五反五畝貳拾六畝、畑貳拾貳町七反八畝拾三畝、宅地四町四畝七步、山林貳拾貳町七反五畝五步、原野七町七反八畝四畝、總計百四町八反七畝貳拾五步

無稅地

埋葬地五反五畝貳畝

官有地

神社地貳反五畝五步、山林九町四反五畝貳拾七步、寺院地三反五畝六步、溜池地三畝、總計拾町貳畝八步

實租

地租金千七百九拾七錢七錢、酒類稅金四百七拾三錢、統賦稅金各町、牛馬壳買稅金各町、賦金金各町、總計七拾五町七拾七畝

戸數

本籍百拾八戸平民、社屋戸六社、寺堂戸卅壹間、總計百貳拾九戸

人數

男貳百三拾五口平民、女貳百六拾壹口平民、總計四百九拾六口

牛馬

牡牛貳拾壹頭、牝牛拾五頭、總計三拾六頭、牡馬拾頭、總計拾頭

川

田深川ニ等三箇流、深谷平川、淺田川、止畝川、狹狹田川、長谷五町、流レ續テ水清ク味美シ、郷ノ成仏村山三條シ、村西原村水字合ニテ橋ヲ用テ合シ、村南原・安國寺ノ兩村界ヲ取流シテ字安國ヨリ北江村ニ入リ、田積・鶴川兩村ノ間ヲ流レ海ニ入ル

池沼 阿(西) 山地東南三拾壹町、南北拾六間、西四町貳拾八間、村西ニアリ、村ノ用水トナス

道路 北江道三等道路ニ屬ス、村西岩屋村界字境川ヨリ村東北江村界字境水ニ屬ス、長拾九町、巾三反、中田道三等道路ニ屬ス、村西字境川ヨリ北江村界字境川ヨリニ屬ス、長貳町、巾三反

社 桜八幡本宮社村、社地東南二拾間、南北町貳拾五間餘、面積七反七畝五步、村北字境水宮ニアリ、村北大字、天神大宮、神功地ノ祭ル、明治五年村社ニ列ス、毎十一月七日

寺 常寂院御書洞窟、聖觀音坐像、南北四拾六間、面積三反五畝貳拾六畝、境内村界邊帶來、忠孝十年前月台塔奉納也

物産 井土常賣、千栗賣、大豆二畝ス

民業 男傭ヲ兼トスル者百拾七戸

○北江村

本村古時ヨリ國前郡ニ屬ス、

區域 古時北江・吉木ノ兩村タリ、明治四年六月吉木村ヲ本村ニ合ス

地勢 東ハ海ニ瀕シ、西ハ川原村ト松林山ヲ以テ界シ、西南ハ宇新榮山林・原野ヲ以テ中田村ニ界シ、南ハ小山ヲ限リ田深川ニ隣シ、田深川ヲ以テ安國寺村ニ界ス、北ハ山林ヲ界シ浜崎村ニ隣ル

地味 東西拾九町貳拾間、南北拾九町五拾間、面積

大分県庁迄本分縣六町距離中央ニアリヨリ北方拾六里三拾壹町五間餘往本村宇都平橋六考地及成程松尾新田ヨリ東方四拾間ノ地ニアリ、東方北江村へ貳拾三町五拾壹間三尺、南方安國寺村へ貳拾五町貳拾貳間、田深川へ拾町拾五間四尺、北方浜崎村へ拾七町七間貳尺

地勢 東ハ海ニ面シ、西ハ山野ニ屬シ、運輸便ニシテ耕作之シトセス

地味 川原村ニ同シ、質美ニシテ稲稔ニ宜シ、水利便ナリ

田深川七町七反五畝貳拾六畝、畑九拾二町四反九畝貳拾七步、宅地六町五畝拾五步、内寺地五畝拾六畝、山林七拾六町貳畝拾七步、原野貳反七畝貳拾六畝、物干場六反五畝拾貳畝

歩、總計五百三拾四町貳貳貳貳貳步

無稅地 荒地九町貳拾步、埋葬地四町貳貳拾貳步、總計九町四反六畝拾九步

官有地 社地貳貳九畝貳步、山林壹町四反貳拾九畝、湖池貳町六反貳畝步、總計四町三反貳畝步

賈租 地租叁千八百八十八匁六厘、船稅金貳拾貳圓、牛馬売買稅金三圓、總計叁千九拾貳圓六匁

戶數 本籍八百八拾四戸平民、社三戸小僧、寺壹戸嘉善寺、總計八百八拾八戸

人數 男四百六拾六口平民、女三百六拾六口平民、總計七百八拾貳口

牛馬 牡牛貳拾五頭、牝牛貳拾貳頭、總計四拾七頭、牡馬九拾五頭、總計九拾五頭

日本形制

北江川三等河二流、深貳尺、淺貳尺、広途貳間、狹途壹間、長壹間、流レ緩少水清ク味淡シ、瀬ヲ村内由村界字所築ニ築シ、村ノ中央ヲ貫流シ海ニ入ル、田深川二等河二流、深壹尺五寸、淺四寸、広途壹間、狹途壹間、流レ緩ク水清ク味淡シ、瀬ヲ流石村山ニ築シ、原ノ南村界字所合ニテ瀬ヲ用ト合シ、川取村ヲ越テ水村ノ西田字所築ニ築シ來リ村南安國寺村界ヲ東流シ、南村ヲ大田ヨリ田深村ニ入り同村ヲ越テ勢川ニテ南ニ入ル、其間三町、長栄橋

大分河邊ニ築ス、村東五町南シテ北江川ノ下流字江端ニアリ、水深壹尺五寸、淺貳尺、広途壹間、狹途壹間、由壹間二八、百匁

横池池東邊ニ築間、柳並築間、田園壹町三間、村西ニアリ、湧崎池東邊貳町園池園間、南北西皆園、園間五町打木間、村西ニアリ、長池池東邊貳町七間、南三拾間、則同四町

池沼 八板村、村西ニアリ、暫行ノ用水トナス

大分河邊ニ築ス、村北此崎村界字本木ヨリ南田深村界字上野ニ至ル、長拾二町拾九

町山老間三六、川邊ヨリ西ニ折レ川原村遊アリ、川原邊三等河邊ニ築ス、村東字江端ヨ

リ西川原村界字年々江端ニ至ル、長拾五町、由貳尺五寸

八板村社、社地東西三拾三間、南北三拾三間、酒田反三畝貳畝拾步、村南字明見ニアリ、

書卷美等、稲田町金ノノ神ヲ祭ル、祭日九月二十九日、鐵器社社址、社地東西貳畝貳間、南

北三拾間、酒田反四畝九步、村北字上リ立ニアリ、市井島美等ヲ祭ル、祭日十月十七日、以

上ニ明辨五戸村ニ列ス

兜心寺嘉樂、東園拾間、南北拾五間、西園五畝拾六步、西園部竹崎村妙徳寺、村ノ西兩

寺

社

道

路

池

沼

川

舟

寺

字本木ニアリ、此橋二町餘嘉善寺創建ス

物産 庄生磨房、千五百石、大板二積ス

民業 男馬ヲ棄トスル者八拾三戸

○田深村

本村古ヨリ園前郷ニ屬シ、古來分合ナシ

區域 東八海ニ抵リ、西八川原村ト耕地ヲ接シ、南八鶴川・安國寺ノ兩村ト田

深川中央ヲ限リ境トス、北八北江村ト隣リ小山ヲ以テ界トス

幅員 東西五町九間、南北拾老町四拾四間、面積

拾平 大恩寺村ニ出ス

里種 大分県庁元藩大分郡田園中央ニアリ北方拾六畝拾貳町貳拾四間、南村

村中町千三百畝拾步、勢崎村種一畝、宅前東方面園西尺ノ地ニアリ、西方安國寺村へ

九町七間、川原村へ拾八町四拾巷間、南方鶴川村へ拾老町拾九間、北方北

江村へ拾六町拾五間四尺

地勢 東八海ニ面シ、西北八耕地ニ連リ、南八田深川ヲ帯ヒ、運輸便ナレトモ

薪炭甚ダ之シ

川原村二間シ

地味 田園拾八町老尺、畝貳拾六畝、畑拾九町老尺、畝九畝拾五畝、宅地五町八反、畝貳拾貳畝

内等、耕地壹反八畝七步、山林壹町五畝拾八步、原野貳畝貳拾八畝、物干場九反、畝拾畝

寄洲五畝拾五步、總計七拾五町貳反六畝四歩

無稅地 八反、畝貳畝拾步

埋葬地 八反、畝貳畝拾步

官有地 神社地壹反六畝三歩、山林壹町貳反四畝步、寺院地壹反四畝步、總計壹町五反四畝三

步

賈租 地租叁千九拾三百八拾五匁、酒類稅金貳百拾七圓五匁五釐、船稅金壹百八拾九畝

牛馬売買稅金四圓、賦金壹三圓、總計叁千三百五拾五圓九匁九釐四毫

戶數 本籍貳百六戸平民、社貳戸小僧、寺三戸淨土寺、神護摩寺等、嘉樂寺等、總

計貳百拾壹戸

人數 男四百貳拾四口平民、女四百貳拾三口平民、總計八百四拾七口

牛馬 杜牛拾七頭、牝牛拾頭、總計貳拾七頭、牡馬拾壹頭

日本形船五艘五番未滿荷船

田深川二等船二隻、渡三、渡三、止置拾間、焚拾八間、共拾町、流し磯夕水清夕流決

ノ、瀬ノ成山山ニ登リ、原ノ川原四村界本高合ニテ橋手用ヲ合シ、川原四村ヲ經テ本村ノ南南

字ノ村邊川ニ來リ、村南ニ國寺、錦川ノ内村界ヲ東流シテ割川ニ至ル、沼橋大分往還ニ

別テ、村東町田深川ノ下流字前川ニ築ス、水櫃三尺、渡五、止置拾間、橋長貳拾間三尺、

由池間老尺、木割、從新築石段ナラテ明治十年十一月新橋ヲ築ス

道 路 大分往還ニ等路ニ築ス、村北江村界字伊預野ニリ兩船川村界田深川ニ至ル、長拾町、

巾幅三尺、宇下町ヨリ通レ北江村邊アリ、北江道ニ等路ニ築ス、村東字下町ヨリ至

方北江村界字本二尺、長七町、巾幅三尺

社 天満神社、社地東南拾間、南北三拾七間、而極毛屋三間拾二歩、村東字女ヶ嶺ニアリ、

菅公ノ始、明治五年村北ニ列ス、祭日十一月廿五日

寺 淨念寺真宗、東西拾五間、南北拾七間、面積八畝畝貳畝、玉澤村元田寺、村東字女ヶ

嶺、面積ニアリ、佛淨蓮華園建立ス、西林寺淨土宗、東西拾五間、南北拾八間、面積壹畝

四畝、山邊田原界字加恩院、村東字下町ニアリ、面積一畝、佛空蓮華園建立ス、千光寺淨

蓮宗、東西拾二間、南北拾拾間、面積九畝拾五歩、大分郡大分町方寺、村東字下町

ニアリ、中水田備日原園寺創建ス

學 校 公立小學校、所村東字下町ニアリ、生徒男四拾壹人、女貳拾八人

名 勝 安ヶ浜村東ニアリ、東邊洋二面シ、千畝出段半、一番乃松橋舊遺蹟ニシテ、其下崎野ヲ通

スヘキモノアリ、古人松數ノ跡數多シ、庵堂、古井、古池、古井ノ水、其ノ水、其ノ水、其ノ水

物 産 荳、蕎麥、粟、千栗、大豆、二粒ス

民 業 男西ノ業トスル者百拾八戸、男ヲ工ノ業トスル者百四、而ヲ業トスル者百七、匠ヲ業トス

○原村 本村古ヨリ團相郷ニ屬シ、古來分合ナシ

壑 城 東ハ安園寺村ト山林ノ耕地ヲ以テ界トシ、西ハ岩屋村ト小川ヲ境トシ、赤

松村ト耕地ヲ接シ、南ハ小原村ト蛇山ヲ以テ界トシ、北ハ田深川上流ヲ

隔テ、(一)、川原村ト相對ス

幅員 東西貳拾町、南北拾八町三拾畝間、面積

沿革 大恩寺村ニ出ス

里 程 大分県庁元舊大分郡大分町幅員中中央ニアリヨリ北方拾六里貳拾七町五拾七間四

尺、往本村字百九拾四番番切長作老新運方面間長ノ如クアリ、東方安園寺村

尺拾四町貳拾六間四尺、西方赤松村ニ拾五町四間三尺、北方川原村ハ五

町貳拾間

地 勢 南二山ヲ負ヒ、北二田深川ヲ帶ヒ、運轉便ナラス、薪炭多シ

地 味 其色赤、其質美、稲稈ニ宜シ、水利アリ

稅 地 田五拾六町區八畝拾三歩、畑貳拾四町六反六畝貳拾五歩、宅地六町五反四畝七段、內中

陸地五畝拾四畝、社地八畝拾八歩、山林四拾三町六反八畝貳拾三歩、原野九町三反拾

武歩、總計百四拾町七反八歩

無稅地 埋葬地八反三畝拾二歩、溜池貳畝貳步、總計八反五畝貳拾三歩

官有地 社地四反七畝拾五歩、山林貳反八畝拾九畝、寺院地八畝九歩、溜池壹町貳反五畝

賃 租 拾六歩、總計壹町九反八畝拾五歩

戶 數 地租金千三百貳拾兩拾五錢七厘、銃獵稅金壹兩、牛馬売買稅金三百、賦金金三百拾

五錢、總計金千三百貳拾兩拾五錢七厘

戶 數 本籍百三拾八戸、戶數、社戶百、寺貳戶、埋葬地壹、真宗壹、總計百四拾貳

人 數 男貳百九拾八口、女貳百九拾口、男、總計五百八拾八口

牛 馬 牝牛三拾壹頭、牝牛貳拾壹頭、總計五拾貳頭、牡馬四拾七頭、牝馬拾五

頭、總計六拾貳頭

川 田深川二等船二隻、深廣五尺、流深五尺、止置拾間、焚拾五間、長拾町、流し磯夕水清夕流決夕

味決シ、瀬ノ成山山ニ登リ、村ノ北北原村界字善合ニテ橋手用ト合シ、本村ノ北界ト川原

村ノ間ヲ東流シテ字下ニテ安園寺村ニ入リ、錦川ノ田深川村界ヲ經テ海ニ入ル、三鹿川三

等河ニ流ス、深老尺、深老尺、止置二尺、焚老間、長拾五町、流し磯夕水清夕流決シ、瀬ノ

村南字道ニ屬シ、村ノ南方ヲ東流シテ字山中ニテ安園寺村ニ入リ、錦川村界ヲ經テ海ニ入ル

池 沼 ヘラ石池東西三拾八間、南北拾壹間、圍田町四拾八間、村南ニアリ、牛頭石池東西

三拾三間、南北六尺、南北東拾七間、圍田町三拾三間、村南ニアリ、蛇山池東西三拾九

明 壽寺 三ヶ池老圃 關原町四拾八間、村南ニアリ、以上三ヶ池村ノ用水トス
川原道三等邊路ニ屬ス、村ノ中央中野ヨリ南安國寺村界字山中ニ至ル、長三町、巾四尺、安
國寺道三等邊路ニ屬ス、村ノ中央中野ヨリ南安國寺村界字山中ニ至ル、長五町、巾五尺、
赤松道三等邊路ニ屬ス、村邊字有光ヨリ南ハ赤松村界字長三町ニ至ル、長五町、巾五尺、
天満社村社、北地東森拾四間、南地拾間、面積五畝拾七坪、村邊字有光ニアリ、昔公ノ
祭ル、祭日十月廿五日、初八坂社村社、社地東森拾拾八間、南北三拾六間、東西二反四畝
東森拾八、村邊字有光ニアリ、須江之男墓、備名田祭命、八王子村ノ祭ル、祭日十二月八日、
以上二社明治五十年村社ニ列ス

寺 平等寺 寺地東森、東森拾七間、南北拾四間、東西八畝九反、大分郡大分町方基寺、村
邊字中野ニアリ、僧風林開基創造ス、永和四年應林安ス、瀧際寺丸宗、東野拾六間、南北
拾間、西田土畝拾四畝、山城國足野郡本領寺、村ノ中央字中野ニアリ、天文年間僧徒
信國開基ス

物産 荏苳餅 荏苳餅 千三百石、大坂二畝六、鵜麻袋美、百五拾石
民業 男勝ヲ桑トスル者百三拾五間、西ノ桑トスル者百

○安國寺村
本村古ヨリ關前郡一郷ニ屬シ、古來分合ナシ
疆域 東ハ鶴川村ニ耕地ヲ接シ、西ハ原村ト山林ノ耕地ヲ以テ界トシ、南ハ小
原村ト三尾川ヲ界トシ、北ハ田深川ヲ限リ田深・北江ノ二村ニ対ス

橋員 東西拾六町四拾六間、南北拾三町貳拾間、面積
沿革 大恩寺村ニ出ス
里程 大分県庁ニ至ル程大分町由田中ニアリヨリ北方拾六里拾三町三拾老圃村ニ
村ノ西邊第七百餘間ニ邊路若大入野尾毛新開南方四拾六町四尺五寸ニ至リ、東方鶴川
村ハ拾四町三拾六間、出深村ハ九町七間、西方原村ハ拾四町貳拾六間四尺、
南方小原村ハ拾七町拾貳間、北方北江村ハ貳拾五町貳拾貳間四尺、川原村
ハ貳拾町四間四尺

地勢 原村二間シ
地味 同上

税地 田六拾六町五反邊路邊路、畑拾六町拾五畝、宅地三町六反六畝、
八歩、町邊拾九畝、内社地邊路邊路八歩、山林貳畝拾六町六反邊路邊路、
八歩、總計各拾五町貳反八畝四歩

無税地 埋葬地五反者畝貳拾九畝、溜池壹畝拾五畝、總計五反三畝拾五歩

官有地 山林老町六反五畝拾五畝、寺院地二反三畝拾五歩、溜池三町七反六畝拾五歩、總計五
町七反五畝拾四歩

實租 地租總計貳百五拾五町五拾七畝九反、瀧頭稅金三拾四町七拾七畝、賦金壹町、總計
金字貳百九拾壹町貳拾八畝八反

戸數 本籍九拾八戸半、寺貳百餘講徒、總計百戸

人數 男貳百口半、女貳百拾壹口半、總計四百拾壹口

牛馬 壯牛貳拾頭、牝牛貳拾七頭、總計四拾七頭、壯馬貳拾頭、總計貳拾頭

川 田深川一等河ニ屬ス、深尺五寸、總計五町、長拾六町、流レ磯夕水滑
夕味淡シ、源ノ成松山ニ發シ、原ノ川原ノ岡村字赤谷ニテ樓子川ヲ合シ、村西原村界字八
尾ヨリ南リ北川原村界字東流シ、字川原田ヨリ輪川村ニ入り田深村界字流レ海ニ入ル、三尾
川二等河ニ屬ス、深尺五寸、總計三町、長拾五町、流レ磯夕水滑夕味淡
シ、水源原村字源田ニ出テ、本村ノ邊字三尾ニ至リ村南ヲ東流シ字三尾ニ至リ輪川村ニ入り、
同村ヲ繞テ海ニ入ル

池沼 小谷上池東野老町邊路、南北三拾四間、東西町拾四間、村南ニアリ、小谷下池東西
東野老町、南北貳拾七間、東西町拾二間、村南ニアリ、新池東西拾九間、南北拾六間
東西三町貳拾間、村南ニアリ、寺下池東西五拾七間、東西町拾四間、東西町三拾間、村西
ニアリ、以上皆村ノ用水トナス

道路 安國寺道三等邊路ニ屬ス、村西原村界字大洞ヨリ東野川村界字宮ノドニ至ル、長拾町、巾五
尺、字原取ヨリ南北三折レ邊路アリ、南ハ小原村ニ至ル、北ハ田深村ニ至ス、小原道三等
邊路ニ屬ス、村ノ中央字尾邊路ヨリ南小原村界字三尾ニ至ル、長拾町、巾壹町三尺、田深道
三等邊路ニ屬ス、村ノ中央字尾邊路ヨリ北田深村界字百池ニ至ル、長拾町、巾壹町三尺、
赤松道社村社、社地東西九間、南北四間、面積五畝拾七坪、村南字平塚ニアリ、天壽中五ヶ羅
水、明治五年村社ニ列ス、祭日十二月二十日

寺 安國寺 釋迦淨土、東西貳拾九間、南北貳拾間、面積壹畝九畝拾五歩、山林田畝野邊心寺
末、村邊字山中ニアリ、聖恩二年佛地備南邊路邊路、定林院佛前新開、東西貳拾三間、南北

地味 同上

拾八町合、面積壹反九拾拾壹步、山邊四町野郎妙心寺云、村首字道口ニアリ、永祿二年田原親

古跡

層塚城墟村東ニアリ、東西五、南北五、海濱ノ跡合兩町云、村長其ノ跡ヲ著往ヤ三層
其ノ跡ル者アリ、昔于田原親雲之四ノル、後長其五年患田原軍ノ為メ攻メラレ城遺ニ廢スト曰
碑ニ傳フ、田原氏ノ墓ハ本村字シラニアリ
社笠原實興、千三百、大坂二橋ス
物産
男爵ヲ業トスル者九拾六戸

民業

○鶴川村

本村古ヨリ國前部ニ屬ス、
古時今在家・興道寺ノ二村タリ、明治八年三月合シテ本村ノ称ニ改ム

疆域

東ハ海ニ瀕シ、西ハ安國寺村ニ耕地ヲ接シ、南ハ小原村ト三尾川ヲ境ト
シ、北ハ田深川ヲ以テ田深村ト對ス

幅員

東西八町四拾老間、南北拾三町三拾老間、面積
大恩寺村ニ出ス

沿革

大分県庁遷都ニ當リ大分町區中中央ヨリ北方拾六里巷町拾五間理住村ヲ
合併シ自於大分縣田中第一郡新設鶴川村トシテ之ニアリ、西方安國寺村へ四町三拾六
間、南方小原村へ武拾四町四拾老間、北方田深村へ拾老町拾九間

地勢

東ハ海ニ瀕シ港アリ、今在家ト云、運輸便ナレトモ蕭條乏シ
地味
其質美ニシテ稲粟ニ宜シ、水利便ナリ

土地

田三拾五町六反四步、畑三拾八町貳反貳五畝、宅地八町七反九畝拾五步、内社地壹
反畝拾八步、畑田四町八反二畝五步、製造場區及池田畝、山林四町五反拾八步、原
野七反九畝拾五步、物干場壹町六反壹畝拾四步、總計九拾四町八反八畝六步

〔稅地〕町歩八九年一月舊檢改算ノ調査ニ仍ル、尤モ十年四月土寇ノ災ニ罹
リ燬燬燒失スルモノハ十一年八月ノ査額ヲ考テ云々、各部算數ニ係ルモノ
ハ皆全シ

無稅地

埋葬地八反四畝六步、溜池五畝拾五步、總計八反九畝貳拾五步

官有地

社地五反七畝拾七步、山林壹町三反壹畝拾六步、寺院地七畝六步、溜池六畝拾三歩、

總計貳町三畝貳步

實租

地租金八百五拾九兩四錢四厘、酒類稅金百兩四錢四厘、船稅金貳拾三兩四錢
賦金六兩七錢五錢、總計金千三百五兩六錢七錢四厘
本籍貳百拾八戸軍民、社三戸小社、寺壹戸无宗廟者、總計貳百貳拾貳戸
男四百五拾九口軍民、女四百四拾六口半良、總計九百五口

戸數

人數

牛馬

舟

川

日本形船

田深川二等河ニ屬ス、深貳尺至、淺至、広貳拾間、築拾五間、長三町、流レ水ヲ水宿
味淡シ、瀬ヲ成仏村山ニ發シ、原ノ川原ノ阿村界字澤合ニテ橋ヲ用テ合シ、原・安國寺・川原
ノ三村間ヲ經テ本村ノ西北ヲ經テ川ニ入リ、北方田原村界東流シ海ニ入ル、三尾川ニ屬河ニ
屬ス、深貳尺五寸、淺貳尺、廣壹町三反、長拾六尺、流レ暗ク水清ク味淡シ、瀬ヲ原
村字澤邊ニ經シ、安國寺村ヲ經テ本村ノ西南ヲ經テ、南小原村浦、南手三橋ニ來リ、
南小原村界東流シ字地嶺ニテ小原村浦邊、川ニ合シ海ニ入ル、滑橋大分往還ニ屬ス、村北
七町架シテ田深川ノ下流ヲ給川ニアリ、水深貳尺五寸、廣拾間、橋長貳拾三反、
巾壹間壹尺、水質、硬弱強有サルヲ稱シ十年前十一月新橋ヲ築ス、塩浜橋大分往還ニ屬ス、
村南八町四拾間架シテ尾川ノ下流ヲ給川ニアリ、水深壹尺五寸、廣壹間、橋長貳間、巾五尺

道路

大分往還ニ等路ニ屬ス、村北田原村界字給川ヨリ南小原村界字下ノ川ニ至ル、長拾七町
巾壹間二尺、字今在家上ノヨリ西ニ折レ安國寺村邊アリ、安國寺道ニ等路ニ屬ス、村東
字上ノ台ヨリ安國寺村界字宮ノ下ニ至ル、長四町、巾貳間
揭示場本村西ヨリ西門上ノ台ニアリ

港

今在家港ニ屬港ニ屬ス、東西町三拾間、南北町四拾間、深千兩九尺、東方ニ向フ、村東
ニアリ、船八五艘六口、廿一年四月、船數三艘、檢山山岸基澤四方、廣壹町、檢山
万斤、船八五艘六口、船五十五艘、檢山山岸基澤四方、廣壹町、檢山
拾老、檢山七拾老、檢山拾老、檢山拾老、檢山拾老

暗礁

檢山礁直直貳拾町、南北九町、深千兩壹丈貳尺、村北三町ニアリ、檢山二、壹丈八尺、今在
家地ヨリ北壹町ヲ經テ

製塩場

塩飯民有二箇ス、村南八町字塩飯ニアリ、昔時長州ノ人松本橋五郎ナル者著手開闢スト云

社

近年ニ並リ盛ニ社行余ヲ製造ス

桜八輪社 社地東海町六岡 南北町五岡 面積宅町五反九畝拾三歩 村北字宮山ニ
アリ、仲真天皇、神功皇后ヲ祭ル、昔シ大友氏及小原氏御敬拜メテ摩ク、松平氏
ニ及テ崇信實ニハス、關平社部ノ大社ナリ、明治五年集社ニ列ス、祭日十一月十三日、奉代主
社社社、社地東海町五岡、南北町五岡、面積宅町三歩、村北字上ノサテアリ、奉代主、大
園主ノ二ツヲ祭ル、祭日十一月十五日、地主社社社、社地東海町六岡、南北町五岡、面積宅
町五反八畝五歩、村南字アセニアリ、大園主、順勢應運命ノ二ツヲ祭ル、祭日十一月十五
日、以上二社明治五年村社ニ列ス

寺

眞蓮寺 天台宗、東百餘年御堂、南北折九間余、面積七畝六歩、近江國忍野郡忍野寺、村ノ
西北字西ノ坊ニアリ、天徳三年御堂也開基御堂ス、信者道ノ興ス、本村旧開基寺末申ナリシカ
同寺ハ後八代徳川ノ御ナルヲ以テ明治本新ノ臨住僧高橋師シテ神宮ナリ、佛堂寺建二棟ス、因テ
眞蓮寺ノ寺ヲ襲取シ延壽寺トナナル

校

公立小学校 校舎ケ所村ノ中央字アセニアリ、生徒男四拾八人、女武拾六人
用務所付東京ニ在東ニアリ

村会所

郵便局 村東字在東ニアリ

物産

洋庄産實美、千束、大板ニ輸ス、食塩、食中、三粒ニ至

民業

男農ヲ業トスル者百六拾九戸、内傳クエヲ業トスル者八戸、養蠶トスル者七戸、鹿ヲ業トス
ル者四拾八戸

○小原村

本村古ヨリ武藏郷ニ属ス、
古時小原ノ上小原ノ二村タリ、明治八年三月合シテ本村ノ稱ニ改ム

疆域

東ハ海ニ面シ、西ハ赤松、按間ノ二村ト隣ノ奥山嶺ヲ以テ界トシ、南ハ
治郎丸村ト山林・原野ヲ境トシ、北ハ鶴川・安國寺ノ二村ト三尾川ヲ以
テ界シ、蛇山ヲ以テ原村ト界ス

郷員

東百老里武拾三町三拾間、南北拾五町、面積

沿革

大原寺村ニ出ス

里程

大分県庁 五里 大分町 四里 田中 中央ニテリヨリ北方拾五里 武拾七町 武拾間 三尺
櫻井 本村字北紀ノ水尻 武拾間 豊地 加藤 林 神 延 高 西 兩 町 間 間 定ノ地ニアリ、西方 挾 間 村

地勢

東ハ海ニ面シ、余ノ三面ハ皆山林・原野ノ耕地相接シ、運輸便ナラス、
拾四町四拾零間、安國寺村ハ拾七町拾零間、

地味

其色赤、其實悪、雜穀ニ適テス甘薯ニ宜シ、田庄主ニ宜シ、(通ス、旱ニ
苦ム

稅地

田田五拾八町五反八畝五歩、畑田五拾七町零反八畝三歩、宅地拾三町零反八畝拾貳歩、内寺
田五畝零反三畝七歩、山林田拾貳町四反七畝零九歩、原野三拾七町四反八畝拾貳歩、塩田
零町二反五畝八歩、製塩場五畝五歩、寄附七反歩、物干場零町五反歩、總計三百貳
町零反九畝拾八歩

無稅地

荒地零町零反八畝拾八歩、埋葬地零町四反八畝六歩、溜池七反五畝拾五歩、總計四町
四反五畝九歩

官有地

社地零町三反八歩、山林五町零反八畝拾零歩、芝地三畝零拾七歩、寺境内地八町七
反八畝拾四歩、溜池八町七反八畝拾四歩、總計貳拾四町零反八畝拾四歩

賃租

地租金銀百九拾五圓拾七錢、船稅金銀四圓拾貳錢、酒類稅金六拾圓五錢、牛馬
売買稅金壹圓、統算稅金五圓、賦金七圓、總計金銀百九拾九圓八拾三錢七厘

戸數

本籍三百拾六戸七錢三厘、平民三百拾三戸、社四戸小社、寺三戸 雜種宗成半、實業
零半、總計三百貳拾三戸

人數

男六百九拾五口十錢六厘、平民六百八拾九口、女六百九拾九口十錢拾壹口、平民九百
八拾八口、總計千三百九拾四口

牛馬

牝牛百貳頭、牝牛百貳拾零頭、總計貳百貳拾三頭、牡馬六拾三頭、牝馬
拾三頭、總計七拾六頭

舟

日本形船貳拾零隻

山

鷹巢山 高七拾丈(餘ヨリ)、面積貳拾五町、村ノ西南ニアリ、巔上ヨリ三分シ、西ハ藤尾村ニ
接ス、南ハ按間村ニ接ス、東ハ本村ニ屬ス、山嶺西南間子山ニ連ル、地々松樹ヲ生ス、登路一
余村西字木野等ヨリ左折シテ南ノ果ヨリ登ル、高八町道崎ナラス

川

黒澤川 三畝河二畝ス、深四尺、流老尺、北邊三尺、流七八尺、五畝八町、流レ緩ク水質ク味
美シ、源ヲ村西字木山等ニ發シ、村南ヲ東流シテ南流シテ海ニ入ル、清流川 三畝河二畝ス、

2 無常講規約取極組合通員簿(抄) ○深江地区講組合員共有文書

(表紙)

「明治十七年申正月

無常講規約取極組合通員簿

大正拾老年旧八月訂正

一 組合中死亡ノ時夜トギニ酒其他ノ振舞ハ施主ヨリ出サヌ事

組合規約左ノ如シ

第壹条

一 死亡者アルトキハ何時ニ限ラス直チニ寄合合議ノ上注意シテ周旋スル事

第貳条

一 死後片付ノ齊米ハ白米壹升「宛」野行ハ白米五合金五錢宛其時順ノ周旋保ヨリ取立ル事

但焼旗「及」隣家ハ此限ニアラズ

〔昭和十五年正月十六日協賛會委員會ニ於テ修正〕

第参条

一 野行ハ四人ヲ限リトスル事、寺ノ道具ハ翌朝之ヲ寺ニ送ルモノトス

但シ一人ハ前日寺詣リ、残三人ハ翌朝寺詣リ

但酒壹升ヲ午飯ノトキニ給スル事

第四條

一 酒ハ旧来ノ習慣ニ依リ組合中ハ老人壹合宛「或回」家主ヨリ供スル事

〔但晩卜朝〕

第五條

一 初七日ノ寄合ハ決シテセザル事、金五錢宛取立ル事

但焼旗及隣家ハ此限リニアラズ

〔昭和十七年正月十六日協賛會委員會ニ於テ修正〕

第六條

一 流行病ハ特別合議シテ周旋スル事

第七條

若シ組合中不当ナル所謂又ハ他ヨリ不当ナル事アルトキハ何事ニ限ラス組合

ニ斗議スル事

第八條

一 組合員ハ一般ノ酒席ニ於テモ酒醉ニ乗ジ他人ヲ悪口シ又ハ他人ノ仕事ニ障ケ

ザル事

第九條

一 何事ニ限ラス暇ニ余ル事アルトキハ互ニ忠告仕合フ事

第十條

一 組合員ハ道德ヲ重シ美風ニナラヒ悪風ヲ除去シ互ニ相戒メ勸懲産ヲ治メ組合

ノ發達ヲ期スル事

右者組合ノ決議ニ違背スルトキハ直チニ組合員ヲ除ク事

右之条々違背セザル為メ左ノ通り違背仕候也

大正拾老年旧八月現在風數順

(十二名、署名捺印)

(三名、署名のみ、内一名は追記)

〆拾四「五」口

第十一條 追条

一 家主ノ意志ニ依リ片仏事トナシメルトキハ凡ヲ半額ヲ其ノ時順周旋係ヨリ取立ル事

(十九名、署名捺印)

3 年神社祭典元帳(抄出)(明治三八年) ○歳神社共有

当年神社ハ大年大神・御年大神・若年大神寄祭リ創立年月不詳ナラサレトモ、遠ク保元以前ナル事明カナリ、降テ后鳥羽天皇建久三年始メテ再建シ以后安政マテノ間再建詳ナラズ、統テ安政三年洋殿ヲ再建シ猶又文久三年神殿ヲ再建ス、令明治三拾六年申殿及拝殿ヲ再建シ又社務所ヲ建築シ資格大ニ備ハレリ、而シテ元禄元年丙子拾貳月領主松平侯ヨリ御供料トシテ田壹反貳畝廿五歩ヲ寄附セラレ后氏子私賣ヲ獻シテ一同祭典後直會ニ興ル頗ル盛大ナリ、祭日ハ正月初丑・拾壹月初丑ニ必ス白酒ノ福造蒸飯ノ饌川魚ヲ供ヘ又氏子等半二卯ノ木ヲ取リテ耕シノ真似ヲナス、終リテ神職・村役・社役ノモノ糶糶ノ上ニテ酒造神饌ヲ拜受スルヲ古例トス、今尚現存ス古老ノ口碑ニ依レハ往昔ハ字向田山ニ大石アリ、其ノ上ニテ鎮祭セシヲ当所ニ移転奉リト云フ、又宮ノ後ニ大松燈格アリテ此所ニ行幸セラレ居シト雖年代詳ナラズ、間所ニ鮮立神寶ノ聚馬繫石等ノ古跡今尚存セリ、右旧記ノ概略ヲ書記ス

村社祭典実行規約書

- 一 第一条 村社祭典期日ハ毎年左ニ回トス
旧拾壹月初丑ノ日 旧正月二番丑ノ日
- 一 第二条 祭リ坐座及順序左ノ通り定ム
上分二組 東組 西組
下分三組 日南組 東組 西組
- 一 第三条 祭リ坐座順序ハ七組ヲ以テ平等ニ順廻リニスルモノトシ各組内戸數ノ多少ニ依リ本坐ニ於テ務不足者ヲ生シタル時ハ各戸共不足ナキ様実行スルモノトス
但シ拾壹月祭リ及翌正月祭リ二回ヲ以テ坐座トス
- 一 第四条 祭典費ハ社田及寄附田小作米ノ内ヨリ世帯ニ玄米三石九斗ヲ相渡

シ、外ニ老祭老人ニ清酒貳合ツ、資本金利息ノ内ヨリ相渡スモノトス

- 一 第五条 氏子戸數ノ増加シタル時ハ其者ニ対シ座分ノ寄附ヲナサシムルモノトス
- 一 第六条 寄附者アル時ハ連記銘石記入スルモノトス
但シ田地ヲ寄附シタルモノハ旧例ニ依リ本坐ニ案内スルモノトス
- 一 第七条 祭リ坐ヲ分チテ本坐・村坐ノ二種トスルモノトス
- 一 第八条 本坐ニ案内スベキモノ左ノ如シ
苗組 拾六人
村長
社數代 三人
區長 二人
田地寄附者
次ノ祭リ坐当撰者 二人
但本座主人ヨリ直撥案内ノコト
- 一 第九条 村坐ニ案内スベキモノハ第八条各項ニ該当スルモノヲ除ク外一切是レハ使下ヲ以テ案内ノコト
- 一 第十条 祭典式ハ午前九時トシ全拾壹時ヨリ祭リ坐元ニ於テ造酒御供ヲ拜受スルモノトス
- 一 第十一条 第拾壹条 次ノ組ニ坐引渡ノ式ハ左ノ如シ
一 吸物 豆腐
二 皿 大豆
三 礎 但三盆 器具ハ吸物碗
細則
本膳ハ二ノ膳ヲ用ノコト
醴散盃並茶碗ヲ用ノコト
清酒ハ貳合入老本限リ各釜ノコト
神楽ノ舉行スル時ハ金三四五拾銭ヲ相渡ス

社憲代及区长夕祭式ニ参列ノコト

祭リ坐執行済ノ者ハ氏名ノ上ニ年月日及本坐村坐ノ区分ヲ明記スルコト

左ニ記載ノ祭坐組人名ハ明治三十八年旧拾卷月ノ現在戸主ナルヲ以テ増加及

変更アリタル時ハ認メ替ルベシ

此帳簿ノ整理ハ其ノ時区民ヲ以テ之ヲ担当ス

夕祭式献備物左ニ記

但小豆ヲ入ルコト

御造酒 清酒老德利 醴武德利

御供 昆布 二筋

海魚 二尾

川魚 二尾

蛸 二個

蜜柑 二個

芋 二個

大根 二個

水菜 少々

水鉢 一重

塩 一重

御供餅 一重

右以上

祭日献備物左ニ記

御榊 老木

御供 白米老升三合

御造酒 但シ清酒ニ德利 醴二桶

散米 白米老升三合

水鉢 一

塩 少々

燈 二個

蜜柑 二個

昆布 二筋

御造餅 三重

大根 二本

水菜 二株

芋 少々

三府鹽 老枚

牛ノシタイ箸 三膳

川魚 二尾

海魚 二尾

立串 豆腐二十五串、川魚二十五串

吸物 寸まし、但豆腐、人参、里芋、川魚、コンニヤク、五品、献備員ニテ取斗

菓子 少々

銀 拾六丁

以下附屬物

御造酒桶 七五三

御供桶 七五三

御供燈 七五三

門 七五三

津並紙 二丈

色紙 但五色紙 二拾枚

祭坐試立左ニ記ス

本膳 一

飯

右ハ苗坐ノ獻立ナルヲ以テ村坐ニ於テハ六項・七項ヲ略スモノトス

- | | | |
|---|-----------|--------------------------|
| 二 | 汁 | 但豆腐才ノ目川魚 |
| 三 | 平 | 但昆布、山芋、川魚、豆腐、牛房、五品 |
| 四 | 皿 | 但大根ナマス、イリ、ネギ、合櫻拌 |
| 五 | 盛付 | 但昆布、豆腐、目ザシ、魚、大根、牛房、人参、生草 |
| 六 | コシニヤクノ白アエ | 少々 |
| 七 | 大引 | 磨大根、橙 |
| 八 | 清酒 | 徳德利 |
| 九 | 醴 | 沢山 |

田地者附者氏名
社惣代及区長氏名

(二七名 場名のみ)

社惣代 小原忠光
 〃 岡本進滔太郎
 〃 友成善久太郎
 区長 古達孝八
 代理者 諸富秋太郎

苗組人名記

- | | |
|----|------|
| 小原 | 忠光 |
| 吉雄 | 孝八 |
| 長尾 | 軍六 |
| 助安 | 熊吉 |
| 嶋田 | 朝吉 |
| 小坪 | 源四郎 |
| 荳部 | 浅一 |
| 中野 | 慶太郎 |
| 上石 | 丸半二郎 |
| 中野 | 礼策 |
| 徳丸 | 安吉 |
| 末松 | 岩吉 |
| 綾森 | 伝吉 |
| 諸富 | 八郎 |
| 清里 | 瓊 |
| 鬼門 | 忠太郎 |

IV 寺社関係資料

ここに五つの記録額を収載した。

まず、1は国東市国東町大字大恩寺の文殊仙寺(天台宗)に伝わる日記群の一つである。同寺には歴代住職が記した日記が二四点あり、ここでは天明元年(一七八二)の日記を掲載した。これは、七月から二月までが残るのみで、一年を通しての記録ではないが、疫病退散の祈禱や雨乞、盛入りをめぐる字佐宮との交渉など、内容は豊富である。

2は国東市国東町大字大恩寺の大聖寺(天台宗)に伝わる記録である。寛延元年(一七四八)、大聖寺が祭礼を担った堂宇や小社の建物や由緒などを書き上げたものである。これら2つの記録は、江戸時代の寺社の様子を具体的に伝えるものとして重要である。

次に、3〜5は各々近代資料の「神社明細帳」、「寺院明細帳」、「境外仏堂明細帳」の関係分である。明治政府による神仏分離・廃仏毀釈のもと、各地の寺社や小社小堂の所在調査と整理が実施された。そうした政務の結果を示す記録が、「神社明細帳」や「寺院明細帳」といった明細帳額である。寺社については、明治初頭から台帳づくりが行われ、「県町村社別帳」や「境内外区別帳」といった記録も作成された。3の本文中に「区分帳」という文言があるが、これは右の区別帳を指すものとみられる。ただし、寺院・神社・仏堂・遙拜所などの各種宗教施設を一律に調査し台帳化した明細帳は、明治二年(一八七九)の「内務省達」に始まる。大分県では、明治五年・同二年・同四年の三種の明細帳が確認できるが、大分県全域に残るのは明治二三年以後であり、神社・寺院・仏堂の三種のみが残る。国東郷の故地を含む東国東郡も、明治五年のものではなく、ここでは明治二三年のものを収載した。

改めて明細帳をみると、各所に多くの訂正や追記がある。これらは、筆跡などから一度に記されたものではないことがわかる。明細帳は地元で作成し、県に差し出されたものであり、その後の「社寺検査」などで訂正が加えられた。さまざま

まな訂正は、こうした明細帳作成や調査の在り方に基づくものといえよう。

なお、最後にムラの宗教施設の一つである仏堂の明治時代における変遷を示した表を掲載した。国東郷域に関する堂については、既に国東町教育委員会によって「国東町の堂宇」(六冊・平成二二年一七七年)が刊行されている。現存する仏堂についても、右書に提つていただきたい。今回示した表は、明治時代の仏堂整理に関する公文書類(大分県公文書館所蔵)に記された仏堂を一覧にしたものである。近代初頭の仏堂の状況に関する参考資料としてここに収めた。

(櫻井 成昭)

凡例

- 1 体裁は原本に従ったが、改行などは逐一指摘していない。
- 2 抹消訂正箇所については、抹消された文言が判読不能の場合は訂正後の文言のみを記した。また、抹消部分が判読可能な場合は、抹消された文言の右側に「△」を付け、直後に訂正後の文言を「」でくくって文字を小さくして記した。
- 3 加後筆や修正・欄外の記入付紙などは、「」でくくって文字を小さくして記し、付紙については(付紙)と記したが、体裁上煩瑣になる場合もあり、それ以外は(後筆)と注記しない場合もある。
- 4 3の「神社明細帳」、「寺院明細帳」の建物寸法に関しては、抹消訂正が数處にわたるものがあり、もとの文言が確認できないものもあるため、訂正後の文言のみを記したところもある。
- 5 本文中の割注は、活字の大きさをとおして表現した。
- 6 旧字は、原則として新字に直したが、寺社名・人名については、そのままとした所もある。
- 7 虫損などで判読できない文字について、文字数のわかるものは□で示し、文字数が不明な場合は□□で表現した。

1 公用一切控(天明元年・一七八二)

○文殊仙寺藏

天明元歳

公用一切控

永代常夜燈料控有り

丑七月朔日

現住水道代

れも并当持參、右雨乞朔日と取懸四ヶ日護摩執行致、導師奈納五條二而相勸

衆僧

中之坊・観教房・六位

右願成就御初穂として手水と正錢貳拾目上右護摩衆僧江布施遣ス

老久

中之坊

老久

円了房

老久

観教房

老久

六位

庄屋中者盛敷二而吸物出ス、但取者二種出ス、護摩堂之間并指組頭是又取者式種出ス

一 三日五ツ半時、巻敷御城江納ル、御取次役人綱田兵右衛門殿

同日四ツ時御利生雨ふり出次第ニ強ク風雨終日終夜降続、各祝著致候

一 七日、来浦旧礼楽祭ニ弟子観教房ヲ遣ス、隠居所江うとん粉一袋持遣ス

同日雨乞願成就御礼として手代宇右衛門殿ノ礼状来ル、尚又右雨乞祈禱料として

米四斗、大庄屋本ノ書付到来即請取

一 九日朝、上成仏われ尾吉三小麦粉式升茄子三ツ持參見ル、一葉二而朝飯ふれ

もふ、右者明十日朝飯輪ケ榎無縁石塔之廻向願ニ来ル、是又先例有り

一 十二日、山百姓寺中共ニ觀在本堂之壽さらへ方境通り路道切致、是又先格

一 十三日、盆そふち施餼鬼取こしらへ

一 十四日、アサ例年水祭リ、墓不残寺中出勸

一 靈極観法勤夫ノ諸堂勸行

一 同日、聚来且中盆參詣五人程あり

一 十五日、アサ勸行寺中出仕

一 十八日、富来富旧例衆中之坊衆詣二遣ス

一 但留右衛門ノ以書状使来ル例有

一 十九日、赤標村衆罷越、其日帰寺

一 廿二日、来浦村隠居所ニ而老師の留主見舞として宇右衛門家内下方不残相招、大庄屋殿米浦村役人不残相招中食夕飯遣候事、院主逗留二而廿四日朝帰寺

六月廿九日、佐藤甚右衛門ノ来書

此度永日照ニ付雨乞被仰付候、依之即日ノ二夜三日御祈禱御執行、即二日使僧福

壽院ヲ以雨乞巻敷差出

巻敷

一 観宝神玉經 全部

一 普門品 三拾三巻 同敷

一 般若心経

一 右着雨乞御祈禱二夜三日御願成就候、如件

年号月日山寺 右之通巻敷認遣ス

衆僧

一 中之坊・福壽院・観教房・六位

朔日 朔日・二日、堂中江中飯出ス

朔日

来浦十五郎殿ノ来書、此度永日照ニ付手永中当山八大龍王堂前江雨乞立願申来、

早速其日ノ御祈禱取懸ル、三日終日大雨其夜大雨ふり候事

四日、手水雨乞漉汲願成就、十九ヶ村庄屋并并指組頭老人都合五拾七人相見いつ

一 廿五日、わらみの村中疫病祈禱として弁指勝庵定二而大般若転讀致申候、村中小門江戸口札巻杖ツ、老人二付守老つ、いづれも角大師也、外二組頭江八日録一枚つ、開札三枚庄屋本、弁指是ハ杉原目録落付中食酒出ル、御祈禱成就之上吸物二而酒出ル、夕飯冷麦出ル

法席次第

初尾銀札四枚、宝前初穂八匁、巻速歸子箱小麦壹升
導師院主素續五條、但大般若法則理趣分註讀

衆僧

回向

淨瀧寺

散花 中之坊

福寿院

布施三匁

同三匁

同貳匁

觀數房

六位

同貳匁

銀札ノ惣布施杖拾四匁

一 廿六日、前日折禱村惣代として弥右衛門札ニ見ル、まの口ハ先格御寺江ハ上

不申候由被物、語候而餅四つ持參被致候事、外酒老升札として持參

一 廿五日、本堂勸行寺中出仕

一 廿八日、本堂勸行寺中出仕

八月

一 朔日、本堂勸行寺中出仕

一 三日、彼岸入畫機法勤、夫々本堂始諸堂執行候、水祭墓所不残寺中惣出仕

同日、米浦金吉殿・平左衛門殿行儀行二立依候

同日、家来太平油燈油亮二高田江遣ス

同日、赤根村大工卯兵衛辰次郎二人見ル

右者当春巴来文殊本堂岩玉澤候而被損致候、右二付修理致候事此節者御普請後故公辺江ハ懸と不相届、拙寺内ニ而取繕申候、然共米浦十五郎殿江ハ内ニ而沙汰致相被之上さらいノ事表立ニハ不及との御差目二預候事

一 工敷 四工 但シ工料五匁式分 卯兵衛工工 辰次郎工工

一 飯米 三升 但シ貳匁七分也

一 釘代 貳匁九分 但シ釘百五拾七本

一 八寸板 八枚 四匁五分 是ハ赤根村ノ買寄文金平入用ノ拾五匁三分

一 六日、彼岸中日靈機法請堂勸行

一 七日、村庄屋本ノ書状来ル、郡奉行小申助右衛門殿内方廿二日死去之由申来

同日、陶子文平殿江梅状遣ス、郡手代二預遣ス、彼岸中日寺参り聖来ル十六人、

赤根ノ四人、岩戸寺ノ貳人、彼岸参り有ル成仏ノ長助老人參ル

一 九日朝、上成仏久助後岸参り見ル、朝飯遣ス

一 十一日、小申助右衛門殿方江梅之書状遣ス、飛脚加右衛門先元ニ而使ニ中食被下候事、尚又天神坊ノ書状到来

一 十一日ノ宇佐大乗院意岳と申候二夜三日木堂江参籠有

一 十三日晚、宇佐今永要人止宿す、朝夕酒出ス

一 十四日、講堂勸行

同日、米浦宅右衛門殿ノ石垣銘文頼米ル夫市蔵中食出ス

同日、中村久藏殿ノ書状到来、右者此節江戸觀音院智光房掃因之由申来ル、即刻智光房当山見ル、長野新之丞同道ニ而夕飯其上酒出ス、翌朝出立

一 十五日、文殊堂勸行候、其外諸堂勸行

一 同日晩、中之坊江夕飯二下參致ス

其夜靈壽村勝藏方江月見ニ罷懸、色々憂慮あり一宿致、翌日十六日飯後直ニ長野新之丞方江罷越即妙院智光房同權ニ而權ノ馳走あり、夫々大聖寺江罷越即日有増大聖寺後住江申渡致、終日万事相濟候上ニ而暮時頃ノ權大夫、智光房同道ニ而長野忠兵衛方見舞、其夜四ツ半時迄酒宴遊興致、夫々立致岩戸寺村伊吉方江止宿致候而、翌日未明ニ掃寺致候、尚又此節江戸伏本管房・正善房ノ到来致

一 十八日ノ屋根屋治助流し繕ひ并ニ土蔵之繕ひ、工工つかひ工料貳匁遣ス

一 同日、大聖寺權方ノ田ノ口兵部来ル、右者来ル七日大聖寺入院二付前日ノ罷下候録ニ惣且中ノ夫来ル即請合間也

十九日、金五郎殿梓篤行被立依候

廿日、成佐庄屋方儀見物罷越其場ニ而酒出ル、尚亦博かけニ幸助酒屋ニ立依、夫の政吉方へも見舞、式番鶏の頃佛寺致

十九日、赤根村殿次郎呼寄セ北之門暮替へ、行者堂其外湯殿講ひ三日致、廿一日ニ仕舞、工料三匁九分即時相渡申候

廿一日、桶屋源吉相見二日つかひ、右工料三匁即時相渡候

廿二日夜、当山和助方日待ニ觀教房遣ス
廿三日、寺社方の善状來ル、右者拙寺殿儀御日見之席往昔之控書付差出候様ニ申來得共、格別之役も無御座候間新住致、委數ハ不相分と返答致置候事

廿五日、文殊堂散銀百貳拾三匁五分也
同日、湯錢十三匁八分

同日、酒屋場錢九匁五分 三〇〇〇
ノ百四拾六匁三分

廿四日晚、本堂動行

廿五日朝、本堂動行
廿六日、來浦大聖寺江罷越、即廿七日入院相濟、廿八日ニ佛寺

九月朔日、年行事回状到來、西別當々満山寺院江書状の写

一 筆啓上仕候、然者当春御許山御參向被作可然由、旧儀申遣候二付当正月御返礼委細承可仕候、大行ニ付輕々數御出立被成難由御尤ニ奉存候、早速此段大官司表江御新申通候、大官司被申とも尤押詰申進、翌春入坐之儀相成かたき懸御尤存候、併右行者中も美之院參向無御座候而者拙僧取扱且又相濟申候邊談分り通申候、当

春ハ及延引候共來春有之候儀前廣申遣候様被申候、宜銷御相談之上來春是悲しく御參向可作奉存候、無左候而ハ愚僧聯合ニ而字佐表沢ク立不申候、甚迷惑仕候節推察も可有御座候、先進而御許御懸合候朝思僧乍不及貴院中相立大官司表申連無

役儀内済申候迄、只今大官司の再度參向之儀被申候ニ付各様方江申遣候而も拙僧御立ニ被下候越無御座候大官司へ申分ケ無御座、右之趣御推察被上機重も宜敷御

相談可被下候、恐惶謹言

七月三日

西別當

御寺院中様
御返礼早々奉口〇候字依表江申遣候間共愚僧相立候様被成候也、今來

〇の内御相談相決

同日、文殊堂散銀都合三匁貳分也
同日、聚來源七善相果候二付自身罷越、翌三日四ツ半朝ニ佛寺
同日、日出松屋寺弟子福龍、覺露寺弟子大樂七日之參籠
五日、寺社所江使備ニ而書状差出控
一 筆啓上仕候、然ハ殿様御儀様御懸越致遊幸恐悅矣、隨而右御祝若以使用

一 筆啓上仕候、然ハ殿様御儀様御懸越致遊幸恐悅矣、隨而右御祝若以使用中上候
一 先達而門中御目見之寺院罷在候様ニ大庄屋本迄被仰出候段粗承申候、併六ヶ寺遣之儀ハ御存被遊候通前、願寺社御奉行所の御礼同銀芳直之御書輪存見候上罷在、御面上ニ而御送之制限登城仕候、先格ニ而御座候間今以出府不仕候先御佛城之御悦右御席方如此御座候

九月五日
佐藤甚左衛門殿
田原次左衛門殿

六日朝、只右衛門來ル
同日、寺社所の来書、右五日届状返答也、外ニ當夏雨乞折禱御初禮金貳百足被下候

同日、天神坊の修禱料銀五拾目請取書付來ル
同日、寺社奉行所の當夏雨乞折禱料金貳百足被仰付候、但シ銀札ニ而四拾四匁也

一 雨乞象備料符之次第
七匁 中之坊 五匁 福壽院 四匁 壽福院 三匁 觀教房

三匁 隠居

ノ式拾貳文

天明元酉

三日、寺社所ノ書状来ル

九月

一筆啓上仕候、然ハ只今迄年、相渡候御燈明料米五石相渡御儉約ニ付五年之間式石五斗宛御渡被成候、此段申聞儀様被仰付候間御承知可成候、右爲申入如斯御座候、恐惶謹言

右書付竟之控

九月三日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門

神社

御狀拜見仕候、然者文殊燈明料年、相渡来候所、此節御儉約ニ付五年之間式石五斗ツ、御渡被成候段承知仕候、右爲御請如此御座候

九月十一日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門様

遺啓申上候、右常燈料之儀控御座候間口上書仕差上申候、以息召前之通被仰付候様奉願上候、いづれ思召次第□□尾□□様御取斗□□、尤五石之内半方ニ相成候ハ、前之通燈明者難相叶、但シ常夜と申ハ日中斗と申カ此儀も乍僅御座國被成候わんと返答致置候

右口上書控

申上口上竟

一 文殊常燈明料之事

右者御先代日向守様文殊御參詣之初於宝前ニ御自身ニ油を被爲悉此燈明水劫不消と被仰候而其年、現米五石ツ、御寄附被遊候由、即拙寺控享差上申候、尤宝曆八年寅四月十二日其時御郵奉行平井藤兵衛殿文殊參詣之節其代之院主江右藤兵衛殿ノ殿様此火万代不消と被仰候と御口上江御座候段控有之候間、書写差上申候、

御先祖日向守様ノ殿様致代押移り只今ニ至迄文殊常燈明料之儀ハ万代不朽と致御武運長久御祈念抽丹誠候間何卒前ノ之通被仰付候様ニ御取斗被申候、以上

天明元丑九月

佐藤甚右衛門殿

田原次右衛門殿

十四日、寺社所ノ書状来ル控

御狀致被見候、然ハ文殊燈明料之儀口節馴致御儉約被仰出候ニ付五年之間半貳式石五斗ツ、御渡被成候旨申入候処御承知有之候、然迄燈明料之儀者日向守様以來常燈明不消之御誓約も有之御當代迄押移り万代不朽と被存御武運長久御祈念日、被抽丹誠候由、然所只今ニ至而半方御渡候ハ、常燈者難相叶歎ケ數被存候ニ付只今迄之通ニ被仰付度旨猶又以前之控等御写被指出致一覽候控之御写相分りか九ク御座候間、御帳面外差出箇又右御寄附相初り候節之御書付等相誤り無之説、御書付有之候ハ、御差出被成候、何れ御口上書被差出候ハ、□□前後ニ相成候様委數御認被成口口差出候、右之段可得御意御報旁如此御座候、恐惶謹言

九月十四日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門

右返答控

御狀拜見、然ハ文殊常燈明料之事、控帳面并御書附等有之候ハ、差出候様被仰聞承知仕候、此燈明料之儀者御書付と申ハ一向無之候、尚亦控帳面之儀者公用并一切諸用一所ニ雜記之日並ニ有之候間差上候も御一覽斗ニ而分り兼候間帳面差上不申候、御燈明料并並御折拂之御札前ノ、△殿様、思光院様、御御座、御家中まで毎、武拾四年巳前迄ハ差上來候處、寺社奉行藏失藤兵衛殿、御尋有之候節右之通申上候、宝曆八年寅正月御書翰之趣文殊常燈明之事何之御時代何之年、御寄附有之候成内亦毎月御折拂差上候ハ、右燈明料五石上ノ被下候、其御脚札差上來候様ニ承及候、左候ハ、其儀可申上言被仰聞候得共、先、住惠院院其取承不伝、右燈明料之取違成控無之候毎月御札差上候者折拂守之役差上申候、何其燈明料ニハ相抱り不申取御答申上候処間子三月坂部ノ大夫殿、文殊ノ毎月御折拂御札差上來候取承知候、自今ハ正・五・九月斗ニ而相濟候段被仰聞候、然所ニ

同日四月十二日御郡方平井藤兵衛殿文殊參詣之節院主慈眼院ニ御咄有之候。貴僧御存知被成敷此燈明者先平日向守棟御參詣被遊候御節自身油を被為添此火水劫不消と御誓約被為立御燈被遊候。夫々年々米五石ツ御寄附被遊候旨藤兵衛殿承候而帳面ニ控被遊候を此節見出口上書仕差上申候。直致御取斗願候也。以上
九月十六日
佐藤甚右衛門殿
文殊仙寺

又ノ口上書控
佐藤甚右衛門殿

一 文殊堂燈明料之事

右者御先代松平日日向守棟文殊御參詣之節於空前御自身油を被為添此燈明水劫不消と被仰候而其年々米五石ツ御寄附被遊候。尤其時代之儀者先住代申伝ニ而何共御寄附等者無御座候。御先祖日向守棟殿縁數代押移り只今ニ至迄文殊堂燈明料之儀者万代不朽と存御武運長久御祈念油丹誠候間。何事申之通被仰付候様備ニ御取成願候也。以上
天明元五年九月
文殊仙寺

佐藤甚右衛門殿

田原次右衛門殿

口上書控

一 文殊燈明料之事

右者堂曆口年子ノ四月十二日其節之御郡奉行平井藤兵衛殿文殊參詣之節其時之院主慈眼院江日向守棟此常燈明ハ万代不消と御誓約を被遊候儀藤兵衛殿御物語を控被遊候ニ付。右之訳口上書仕差上候由直致御取成。□□也。以上
天明元五年九月
文殊仙寺

佐藤甚右衛門殿

田原次右衛門殿

右之通口上書式通調差出

廿五日、寺社所々來書

御致致披見候。秋冷候得共御堅固御禮珍重存候。然ハ文殊定燈明之儀ニ付先日口上書被差出候処相分り兼候付。控帳面□□又御書付等以前相違有之候ハ、被□□差出候様ニ申入候是右燈明料之訳ニ付御書付と申候而一向無之尚又控帳面之儀者一切諸用一緒ニ備記之日並ニ而有之候ニ付致一覽候而も相分り兼候ニ付帳面不被差出候旨致承知候。且亦堂曆八年四月十二日御郡奉行平井藤兵衛殿文殊參詣之節院主慈眼院相咄儀者文殊御燈明料者先平日日向守棟御參詣被遊候御自身油を被為添此火水劫不消と御誓約被為立御燈被遊候。夫々年々米五石ツ御寄附有之候旨藤兵衛殿御咄候儀を帳面ニ被控遊候。此節御見出口上書被差出何卒只今迄之通被仰付候様被相願候段致承知候。尤此間も被仰越候半減之御儀候得共定燈之儀者雖相叶晝夜之中いつれニも被仰付候様御書面之儀得其意。委補上棟江も申上候是文殊御燈明料之儀者此口時節之儀候得共控別を以唯今迄之通五石ツ被下置候様被仰付候間左様可被相心得。右之段可申入御覽考知此御燈候。恐盡謹言
九月廿五日
佐藤甚右衛門
文殊仙寺

筑後守棟御代

文殊仙寺

廿五日、長野村檢見奉行寄申候。使儀親致致明ヲ以十五郎殿江当年之稻山田地地皆無之當申上候

廿六日、御祈禱上使僧天神坊取次小川義廣

廿三日、墨山長安寺ニ向。入奉行者御許與之院參向之評議有之付。満山來會申來候即使僧六位遣ス。拙寺風前致不參

十月

二日、此節文殊燈明料額之通被仰付候付。右為佛乳寺社所江使僧申之切差出ス。土座佐藤甚右衛門殿江山も武進。酒卷才五合。田原次右衛門殿江半切密對連上。同席御燈明料請取も差出候。使僧三日二冊等

五日、岡子小野惣右衛門相見。当寺隨居噂委敷。□□

六日、東叡山回覽到來成仏寺江渡候

一 公儀御仕奉之享

徳川豊千代様御事、今日御養君被仰出候

閏五月十八日

御養君様御事

若君様江可称候 御殿西九二被仰出候

閏五月十八日

豊後國天台寺院中

別紙御仕奉之通於寺社御奉行所被仰渡候間、各承知可有之候

一 安永五年申申相候候各地分限之儀未候間口難出寺院有之候間、不難出寺院ハ

来ル十月まで真覚院方江可差出候、此題文相見加印口口上仏頂院方江可返届

候

五月十八日

仏頂院
真覚院

五日、来浦大正寺後任願書拙寺印形遣候事

三日、中之坊寺社所佐藤甚右衛門殿ニ而唱承候処、此間文殊仙寺江年始御札之願

席尊遣候儀、遣成控無之由御答之趣承知致候、先年元禄十六癸酉八月九日之御札

迄十八年之間ハ文殊仙寺護保寺と順席組候由寺社吉田助右衛門相勤候節之記録相

見候、其後文殊仙寺同十七年戌之正月御札之節ハ文殊仙寺末席ニ相成候儀者如何

成訳ニ而上ノ御極メ有之事哉、若其節之取違リ書状存有之候ハ内分ニ而存見致

度應保寺江ハ御成儀仰ヲ承リ有之由ニ候得者定而文殊仙寺口も其訳少しハ相分リ

可申事ニ被致御届御咄有之候

右使館中之坊即答申入候儀者

追ノ上之御達被仰出候、無左候ハ奈氣御見舞ノ節院主出府可仕候間其中記録吟

味致覺御覽可申上極端リ候

一 此度上御候約二付御家老衆已下六代官町家至迄明寅之年メ五ヶ年之間年始御

札上候儀無用之事被仰出候、乍然御札町家ニ遣候儀ハ勝手次第と猶亦自今来

石金儀二限らず家、共江御建物の儀御無用口口内水草草之外不受致候、左
縁院王へ御申達可有之由被申候

十五日朝、当山百姓長吉四拾九日相当付白米老升造ス猶又前院院主回向施越、尤

此者疫病故取置候節ハ諸人出入無四拾九日仏事取行也

十三日、松平右兵衛大夫縁御覺言二付三日忌申来ル

廿日、観松房以米武升大庄屋許江秋初尾として進ス

廿八日夜、寺社所ノ規札米ル右名来ル朔日上御札被仰出候事、廿九日出府致、朔

日五ツ揃、四ツ時御目見相済候事、即其日帰寺致

廿七日、成仏庄屋許江罷越候事、右者此節高野山觀照房入定被致候二付、素米一

袋、香典白銀弔六分持參、回向致候事

廿八日、兩子寺惣寺又、庄屋許參成仏寺後任評議致候而其夜帰寺

十一月

十一日晚ノ天台師会揃寺相勤、但シ淨満寺不參

同日、本智房江戸ノ佛國致、先任歌順法印關東ニ向御遷化被成候二付白骨等持參

候而富菜浦手ニ着船申来候事

十二日ノ葬送用立取懸り、大江浦屋等五六人打賣、十八日迄ニ野道具口口申也、

七日ふりニ葬送相勤、満山寺院江書狀認思且申江申付飛脚等、差立六郷山寺院方

不渡御出有之候

一 霜月十日村役入ル米賣、右者此節御用二付八田安左衛門殿御山郷来ル、十四

日当寺ニ而御休之夢申来候、然此二十一日之夜右院院開東ニ而病死被成候由

到来有之候二付、十二日二村役入江当而右不幸ニ候間御休引受之儀者御断申

上候由申進ス、依之役入申立合許願之上十四日御昼休中ノ坊江引受候様二口

夜九ツ時大庄屋本ノ頼来ル、右二付委種中ノ坊江申付殊ニ拙寺儀者中候致引

箆始終對面も不致、万幸中ノ坊并村役人年代履入込迄話致候事

十四日、中ノ坊ニ而御昼休之次第人致之事

御判人 江戸御とい風代官

八田安左衛門殿、藤井庄兵衛殿、御官者竹本六兵衛殿、石川宅助殿、溝部順康

地方 来届

殿、御家来三人、竹田津浦足輕老人、大庄屋殿、宅右衛門殿、村役人、右之人
 款一廿三業後二御吸物取看式種御酒出候、尤賄給仕人・雑ば・薪等村方之世話
 致候由、米・酒・油・豆腐者村役人、味噌・醤油・諸道具方端中之坊引受二而
 間合セ「」御休八ツ時ニ御著、七ツ時御立、其夜者阿子寺江御止宿候由承リ
 申候事

当山先在大阿闍梨普明院法印敬順葬送差定控写シ

法印敬順葬送之役

差定

藤頭	実相院
箸庭	靈仙寺
鏡	富貴寺
欽	丸小野寺
導師	岩脇寺
錫杖	門修院
逆酒水	阿子寺
糞湯	理教院
糞茶	長安寺
起籠	西之坊
鎮籠	岩戸寺
始経	天念寺
	靈仙寺
伽陀	十八日塗夜
導師	常行三昧之役
回向	

十五日当日
法葬三昧之役

惣礼
 導師
 回向
 長安寺
 阿子寺
 修善院

具在前

千燈寺
 大聖寺
 行人寺
 壽正院
 下弘坊
 觀林房
 惠觀房
 台禪房
 常泉房
 右中介
 新三位
 空相
 天明元年五月十一日
 右差定筆者
 長安寺書之
 知事

普明院敬順嫡弟

文殊仙寺現住水願當之

十三日寺社方江飛脚貞助ヲ遣入、右之訊ハ先住此度遷化ニ付當時中陰相撰候段御
 届申上置候事

一敬順法印葬送十八日取行候事、六郷清山御寺院方江以飛脚申懸置、御出仕被成
 候、引導 師阿子寺先格之通

十二月

一 四日到來回堂字

當室灌具一式再興以來云傳神用來候所、殊外及大破是迄相応ニ加修禮儀得共、元來
元龜兵亂之再興之節愈ニ取集出來候事故共集束ニ而法流寺院方開禮受口稱相勤
儀物從來亂之毒ニ存候故何卒此度右灌頂具致新調度ニ付、種々思惟候所此節無兼
帶之當院故御再興之志願も「」難及自力候、當時一統困難之節佛法之事ニ者兼
得共銘々難淡之不顧旨趣、殊更遠院常ニ見聞も無之事ニ候へハ如何敷被存候得共
亦々末代弘法客乘繁榮之被励源心西山流根本道場再建之志ヲ以右灌具為新調之其
國中西山流諸寺院方以前稱之上志寺格之分限施入有之、都合銀拾枚奉納希候、右
依助力ニ事成就候得者亦々以永代不朽之重宝ニ候間何分伏願掌候設偏願入存候、
尤此方兩代ニ而も随分出請候而當室再興之志願而己心懸勿論此節西山流正統四度
行記改帳も大方成就候事候間追々被請弘法所希候、尚引統灌頂具吟味新古用否相改
可申付治定候事ハ何卒明後年大伝灌頂之砌再建灌頂具相用執行申度候間、口奉納之
儀來ル寅年八月申迄相調候様打合存候、右大僧正并兩院深厚之志願ニ候、宜賢察
之所希候、恐惶謹言

丑九月

口命院

習禪院

右岡山融申ニ都合五枚ツ

一 六日、寺社方奏見駕飛脚文七遣ス

一筆啓上仕候、寒氣之砌御座候得共亦各様御勇健ニ被成候御凍凌重ニ奉存候、然
ハ先住先達而遷化被致候ニ付引込中陰相模候段御届申上置候、然所甚失礼之至候
得共以善輪塞中御見舞申上候、右後日立度如此御座候、以上

十二月六日

文殊仙寺

佐藤甚右衛門様

田原次右衛門様

迫而申上候、先達而以使僧文殊常盤明料請取手形差上置申候、早速御差紙被仰付
候様奉存候

一筆啓上仕候、然ハ略儀御座候得共寒氣御見舞として中陰拙寺ハ免略飛札差上候
失礼御免致候、且亦文殊常盤料御差紙早退出候様御取斗奉存候、尤先達而請取手
形申社方江差出置候ニ而此節も右之段以書状委細申上候、いつれニも拙寺迄ニ而
も大庄屋許迄ニ而も急々御渡被下候様奉願上候、以上

十二月六日

文殊仙寺

渡辺藤右衛門様

堅來村中

深江村中

一 鬼会金剛鈴老対

右書院土淨満寺へ觀越候節聖米庄屋番助殿相勤候向、右当村へ普通相頼申候事

五十二月

十二月、文殊御當当秋御頼申上候口口々米七石文殊分ニ被仰付候

御礼物

渡辺藤右衛門殿へ 銀札式笏上ル

米浦十五郎殿へ 山いも上ル

天明元年分

ノ終リ

2 当院支配堂社記(寛延元年・一七四八) ○大聖寺藏

当院支配堂社記
治地山
大聖寺

当所 薬師

若宮八幡社 本地 阿弥陀

当社者二階遠六丸公・御母儀・御影益之三靈魂祭

観音

来清村

放光院 社 僧 能盛代堂立ツ

右本尊地藏菩薩毎年正月十四日修正会アリ、二季祭アリ

鑑預主 喜平

清介 権平 金右衛門

藤右衛門 治兵衛 作兵衛

修正会氏子

由兵衛 園藏 守介

元介 幸七 権太夫

加兵衛 七平 金四郎

貞平 長右衛門

宝藏庵

本尊 弥陀如来 堂二間 三間

延享三丙寅歳、十王安置願口当寺先住日喜院法印十王建立之願主者村之長竹内

惣右衛門耐宗久、寛保三寅年本堂立ツ、右ハ九間・二尺

一 山歌御朱印アリ、長十四間 横三間

一 修正会正月十五日、夏秋祭アリ

鑑預主 長兵衛 氏子 与吉 小左衛門

貞七 佐七

忠兵衛 赤右衛門

平八 喜平

右ノ九人

来清村

後庵

本尊十一面觀世音菩薩

本尊者当寺江奉移候、鑿堂石寸ハ事、氏子等も遠転候事

来清村

永照庵 本尊總世音菩薩 堂九尺 一間

鑑預主 権太郎 太助

氏子 徳右衛門 安右衛門

徳三郎 三太郎

新右衛門 新六

彦吉 権介

右ノ十人 能盛法印代本堂立ツ

下中村山上

四十九林阿弥陀如来

發堂岩間安庫、いつき色弥陀如来

氏子

下中村 入江山大日寺

本尊大日如来 本堂 武間 三間

行台菩薩御作

鎮守 四所大明神 有石社

古仏大日一鉢、小仏地藏尊・毘沙門天アリ

修正会 正月六日 夏・秋氏子廻り祭ル

山林アリ 鑑預主 彦六・助六

本堂日音院茶館四ヶ村動化、立口者能盛法印代

氏子

山瀬地蔵菩薩

堂 九尺 九尺

修正会并二季祭

地藏堂大師祭堂者天明元五年新地ニ建立、同五巳年四月日当山現住純広代

鑑預主

八平 平右衛門

金之介

新藏

政七

源太郎

太兵衛

勘左衛門

口之助

勘之介

惣之介

徳三郎

氏子

庄屋

喜曾右衛門

吉右衛門

伴助

伊左衛門

半蔵

同所

延命山自在寺

本尊地藏菩薩、寛保二寅年本堂立ツ

修正会、夏・秋祭氏子廻り座勤

鑑預主

童嶋權右衛門

氏子

彦六 亦八

勘二郎 伝吉

万六 儀平

清介 清七

貞七 佐兵衛

文平 八郎

卯年ノ入長 六

定平

新衛門

彦助卯年ノ入

勘平

新衛門

小倉御預所深江村

堂 九尺 武間

尾崎

観音堂

正月八日修正会、夏・秋共祭ル

鑑預主

氏子

藤介

末平

三六

久介

亦七

惣助

惣六

善兵衛

惣六

氏子

善兵衛

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

惣六

堂 九尺 九尺

堂 九尺 九尺

堂 九尺 九尺

堂 九尺 九尺

堂 九尺 九尺

堂 九尺 九尺

地藏立像一統 同座像一統

正月八日修正会、夏・秋祭ル

鑑預主 勘左衛門 貞右衛門

勘四郎

氏子 藤平

徳平

長野村平原

阿弥陀堂

夏・秋祭ル

本尊石仏弥陀如来

鑑預主 権介

堂 九尺 九尺

善四郎

弥七

同所

荒神 二ヶ所

屋敷主 権介

弥七

式季まつる

紫雲山長橋寺

本尊石仏觀世音菩薩 外小石仏一統、案スルニ是者申坊ノ本尊也

鑑預主

権介

本堂 九尺 武間

夏・秋祭ル

修正会有正月九日

氏子谷門より岩戸寺村境目迄堂門除

安永二年正月ヨリハシマル、往古ハアリ

寺山

山神宮

氏子 大聖寺永専

寛文三永専祭り 孫 六

蓋ノ上

庚申

講中

五兵衛 伊介

伝兵衛 新藏

弥太夫 弥介

八助

内ノ山台

庚申

講中

次右衛門 長右衛門

九右衛門 太左衛門

久右衛門 伊左衛門

喜助

桑浦村タ、ラノ上觀音堂ニヶ所

庚申

講中

想右衛門 源四郎

藤平 徳右衛門

貞七 半五郎

寺山

庚申

祭之水専

同村ヨリナク

地藏菩薩

夏・秋祭ル

奉守護喜四郎

ツバタケ

觀世音菩薩

奉守護権太郎

深江村 祭日夏六月十四日

秋十月十四日

秋葉宮

右此神靈曆十年

甲戌年に新立ル

一切諸願村中氏子向前ニ

仕ル者也

卯之しニ入

貞右衛門

伊兵衛

庄屋

源兵衛

善左衛門

徳右衛門

半七

ノ七人

天明元寅年 願主

当村吉武半介

編村

大願堂 建立

別当治地山大聖寺現住

權大僧都法印純心代

寛政三辛亥十一月六祭

一本尊地藏

初祭有

現住純心代

伊七

善兵衛

作平

おくま

(後筆)

〔若宮四五十年

若宮四百五十年〕

右、支配堂社并氏子人数等、寛文四年甲辰仲冬下旬相改、現住永善法印代、其已後兼純法印代、能賢、能盛法印三代無改之儀ニ付以古儀尊縁之上、相改者也

現住松純法印代

于時寛延元年

戊辰閏十月廿三日

3 東國東郡神社明細録 (明治二三年)

○大分県公文書館蔵

大分県管下豊後国東國東郡岩戸寺村字竹ノ追
村社 六柱社

一 祭神 底津綿津見神 底筒之男神 中津綿津見神 中筒之男神

上津綿津見神 上筒之男神

由緒 不詳、明治六豊後国村社ニ列セラル

一 神殿 縦式間三尺六寸 横式間三尺六寸 (神 四尺 五尺)

一 押殿 縦式間四尺八寸 横式間一尺二寸 (神 一四四尺五寸 三兩六寸)

一 境内 五拾老坪 富有地 第一地

一 氏子 百十一戸

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 神殿 縦式間一尺二寸 横式間三尺六寸 (社殿 二間 一四三尺)

一 敷地 拾九坪 民有地 (二種) (神主 吉武仲太神地ノ内)

一 信徒 五十四人

大分県管下豊後国東國東郡岩戸寺村字宮司田
無格社 山神社

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字山口

無格社 金毘羅社

祭神 大物主鬚瓊玉神

由緒 不詳

拜殿 縦七間三尺六寸 横貳間六寸 二間三尺 二面

境内 六坪 官有地 第一種

信徒 六拾六人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字ヒシヤモン

無格社 山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳

神殿 縦貳間四尺八寸 横貳間 柱段 二間三尺 二間

境内 八拾七坪 官有地 第一種

信徒 百拾七人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字山口

無格社 六柱社

祭神 底津綿津見神

上津綿津見神 中間之男神

由緒 不詳

神殿 縦七間四尺二寸 横貳間六寸 一神 三尺 四尺

境内 貳拾八坪 官有地 第一種

信徒 六拾六人

大分県管下豊后国東国東郡岩戸寺村字高原

無格社 山神社

祭神 大山津見神

由緒 不詳

石祠 縦三尺二寸 横三尺五寸 第一間三尺 二間

境内 六拾坪 官有地 第一種

信徒 貳拾三人

大分県管下豊后国東国東郡来浦村字宮ノ本

村社 八坂社

祭神 武速須佐之男尊

由緒 往昔疫疾流行、臣民斃死、モノ頗ル多シ、依テ為鎮疫出雲因從日ノ御

禱ヨリ、貞觀十八年丙申四月勸請シ、其後長徳元年該所流行ノ時モ亦

前斎ノ神ヲ尊敬シテ之ヲ防テ、爾來怠慢ナク歳々祭祀執行ス、尤本郡

岩戸寺村、向田村、大熊毛村從前ハ附屬タリシガ正保二乙四年旧村築

分知トナリタルヨリ該村々離退ス、而シテ元禄二己巳年月日非旧社地

字宮園ヨリ当社地へ移転ス、右ハ旧記録等無之伝説ニ依ル、明治六年村

社ニ列セラル

神殿 縦四間六寸 横四間

拜殿 縦二間六寸 横七間

門 縦二間四尺二寸 横二間四尺二寸

社務所 縦二間 横五間三尺

境内 千百六拾八坪 官有地 第一種

境内神社 拾貳社

若宮八幡社

祭神 大雀尊

無格社 山神社

由緒 延文三戊戌年肥後國菊地某ヲ征討トシテ相模國鎌倉ノ「ヨリ」諸侯

「君」下向ノ中ニ「君」一階堂左京進筑後國江山陣、亦康安元辛丑年
同人嫡男六丸ト云人当浦ニ着岸、滞在中同年八月九日自害仕「君」
其重且つ、同人所神ノ鶴ヶ岡八幡社ノ守札当里ニ遺ル、崇リニ「ヲナス」
依テ頼主田原常陸守新願ニ付前願ノ神貞治元壬寅年月日不詳勸請シ、
而シテ元禄二己巳年旧社地宇宮園ヨリ移転シテ今相統ス「スト云
ヘリ」、雜録ナキヲ以テ伝説ニ依ル

社殿 縦三間四尺二寸 横三間三尺 「神 一間一尺一寸 一間四尺」
「竪 三間四尺九寸 三間五尺」

神明社

祭神 天照皇大神 豊受比売神

由緒 神明宮人皇百八代後陽成院御宇慶長六年丑年、来浦ノ里ニ蟻虫有
テ稲ヲ啖フ種類多ク集リ、一日ニ喰フ事甚町歩ニモ及遠ニ潰穂ナ
キニ至リ、是ニ由テ勢州ヨリ内外両皇太神宮ヲ勧請スト伝説ノミ
アリ

社殿 縦二間三尺 横三間 「社 二間四尺六寸 二間一尺一寸」

天満社

祭神 菅原通実公 「菅原神」

由緒 不詳

社殿 縦三間 横三間 「尺 二尺九寸」

稲荷社

祭神 倉稻魂命

由緒 不詳

石祠 二尺二寸 一尺三寸

五條天神社

祭神 大國主神 少彦名神

由緒 不詳

石祠 一尺 一尺四寸

荒神社

祭神 久部斗神

由緒 不詳

石祠 一尺 一尺五寸

惠美須社

祭神 事代主神

由緒 不詳

石祠 二尺六寸 二尺

山神社

祭神 大山祇神

由緒 不詳

石祠 一尺一寸 一尺

龍田社

祭神 志那津比古神 志那津比売神

由緒 不詳

石祠 一尺六寸 二尺一寸

庚申社

祭神 猿田彦神 三柱

由緒 不詳

石祠 一尺

稲荷社

祭神 倉稻魂命

由緒 不詳

石祠 一尺五寸 七寸

市岐島社

祭神 市岐島姫命

由緒 不詳

石祠 一尺五寸 七寸

氏子 四百五十八戸

大分県管下豊後国東国東郡来漕村字上園

無格社 市杵(一) 島社

〔一八八一年九月日移転并ニ社名改許可〕

祭神 市杵島姫神 天御中主神 加具土神

由緒 往古ヨリ鎮座ノモトニ、寛延三庚午年ヨリ長野村現今来漕村ノ内崇

敬ノ社トシ、ナリキ。至今、迄、永続ス。〔自著タリ、天御中主神ハ本村字大平ニ加

具土神ハ本村并戸畑ニ鎮座ノ儀、明治十八年一月廿四日

神殿 竪老間二尺四寸 横貳間二尺四寸

押取 竪貳間一尺二寸 横三間四尺八寸

境内 貳ノ拾四ノ七坪 民有地 〔神主〕矢谷幸平持

境内神社 三社

志美須社

祭神 事代主神

由緒 不詳

石鞆

社 〔内〕社

祭神 境内宿禰靈 〔武内宿禰〕

由緒 不詳

石鞆

稲荷社

祭神 倉稻魂命

由緒 不詳

石鞆

〔春日〕社

祭神 天照瓊瓊杵命

由緒 往古鎮倉區二階堂五宮迄ノ婦乃公允ト云人當地ニ夢死シ、今人ノ守神ヲ家臣諸臣致則

ナルモノ建立スト信認アリ、本村字飯庄鎮座ノ儀、明治十八年一月此地ニ移ス
社殿 竪二間 横二間一尺二寸

一 信徒 四百五拾三人

大分県管下豊后国東国東郡来漕村字貴船

無格社 貴船社

一 祭神 高靈神

一 由緒 往古ヨリ鎮座ノ處、文祿三年午年六月水日旱魃ニヨリ里民祈雨ノタメ

之ヲ崇敬ス

一 神殿 竪老間三尺 横老間三尺 〔社殿 一間五尺二寸 一間三尺六寸〕

一 境内 貳拾坪 民有地 〔神主〕伊勢川新平外拾一人持

一 信徒 五拾三人

大分県管下豊后国東国東郡来漕村字踏石

無格社 秋葉社

一 祭神 迦具土神

一 由緒 不詳

一 石鞆 一尺一尺四寸

一 神殿 竪貳間 横老間三尺

一 境内 五拾五坪 民有地 〔神主〕坂本善藏外八十三人持

一 信徒 三百三拾三人

大分県管下豊後国東国東郡来漕村字大平

無格社 産靈社

〔明治十八年一月本村并戸畑平鎮座神社(倉船)〕

一 祭神 天御中主神

一 由緒 不詳

一 石鞆 一尺一寸 一尺三寸

- 一 敷地 百八十二坪 民有地（第一種） 一 地主 猪俣和口外一人持
 - 一 信徒 四百五拾三人
- 二十八年三月四日合併奉出

大分県管下豊後国東郡来浦村字并戸畑

無格社 秋葉社

〔明治十八年一月本村字古國原鎮野島社へ合併〕

- 一 祭神 迦具土神
 - 一 由緒 不詳
 - 一 石祠 一尺 一尺
 - 一 敷地 三拾八坪 民有地 一 地主 猪俣里吉外一人持
 - 一 信徒 四百五拾三人
- 二十八年三月四日合併奉出

大分県管下豊後国東郡来浦村字安近

無格社 春日社

〔明治十八年一月本村字上國原鎮島社屋内へ移転〕

- 一 祭神 天兒唐根命
- 一 由緒 往古鎌倉（二）臣二階堂左京達ノ嫡男六丸ト云人当地ニテ死シ、同人ノ守神ヲ同人ノ家臣猪俣政則ナル者建立スト伝説アリ
- 一 神（三）殿 竪二間 横二間一尺二寸
- 一 敷地 三拾坪 民有地二種 一 地主 大廻寺持
- 一 信徒 五拾四人

大分県管下豊後国東郡浜村字松原

村社 惠美須社

- 一 祭神 事代主神 表筒男神 中筒男神 底筒男神
- 一 由緒 本村住給木集大祖給木大蔵ト云人、元摂津ノ國人ナリシ由、故者テ当

園ニ下ル渡海ノ際、大嵐波ニテ其艇亦々厄キ起給中ニテ祈願ヲ込メ依テ難無ク本地ニ着シ、居住後慶長六年六月日不詳創立致シ、其後ヨリ村人氏神ト奉崇タル由古老ノ云伝ヘテリ、爾時六年村社ト列セラレ

- 一 神殿 長九尺 横二間 二間三尺 二間
- 一 押殿 長二間 横四間 二間 四間三尺
- 一 境内 三百三坪 官（民有地）第一種
- 一 信徒 八百五拾六人

一 原尊社

祭神 高御産日神 天之神宇主神 神産日神

由緒 不詳、本村字妙見鎮野ノ處、明治十八年一月廿二日移ス

石祠 竪二尺 横二尺五寸

境内

小一郎社 二尺五寸五節 一尺七寸五節

山神 一尺八寸 二尺

貨道 一尺六寸 一尺九寸

大分県管下豊後国東郡浜村字妙見

無格社 産靈社

- 一 祭神 高神産日神 天之神宇主神 神産日神
 - 一 由緒 不詳
 - 一 石祠 竪一横貳尺角 一 石 二尺 二尺五寸
 - 一 境内 拾貳坪 民有地二種 一 地主 山本久平持地ノ内
 - 一 信徒 百五人
- 〔境内甚タ狭シ〕

大分県管下豊後国東郡浜村字政丸

無格社 天瀧社

〔自祭 十七年十月九日自祭許可〕

一 祭神 菅原道真公

一 由緒 不詳

一 石祠 長二尺 横二尺五寸 二尺四寸五分 一尺八寸

一 境内拜敷七坪 民有地二畝 〔丹志 政丸庄平地ノ内〕

一 信徒 百貳拾人

〔十八年四月九日自宅内へ引移居届出〕

大分県管下豊後国東郡浜村字摩ノ上

無格社 山神社

〔自祭 十七年十月九日自祭許可〕

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 石祠 竪・横老尺三寸角 二尺二寸 一尺二寸

一 境内 老坪 民有地二畝 〔丹志 山本杜平地ノ内〕

一 信徒 八拾三人

大分県管下豊後国東郡浜村道

無格社 齋靈社

〔自祭 十七年十月九日自祭許可〕

一 祭神 大山祇神

一 由緒 不詳

一 石祠 竪・横老尺貳寸角 二尺五寸 二尺

一 境内 四坪 民有地二畝 〔丹志 今永文菅持山ノ内〕

一 信徒 三拾三人

大分県管下豊後国東郡浜村字年ノ神

無格社 年神社

〔十八年一月九日自祭許可〕

一 祭神 大歳神

一 由緒 不詳

一 石祠 長三尺貳寸 横三尺 三尺 三尺三寸

一 境内 貳拾坪 民有地二畝 〔丹志 藤井秋太郎外拾六人共有地ノ内〕

一 信徒 八拾九人

大分県管下豊後国東郡浜村字奈良原

無格社 惠美須社

一 祭神 事代主神

一 由緒 不詳

一 石祠 二尺五寸四分 一尺八寸

一 押殿 長二間 横九尺 志前三尺 二間二尺 一間五尺

一 境内 拾六坪 民有地二畝 〔丹志 山本新平私有宅地ノ内〕

一 信徒 百四人

大分県管下豊後国東郡深江村字中村

村社 八坂神社

一 祭神 素戔嗚尊 天照皇大神 月夜見尊

一 由緒 応永年間(享和)に加賀藩役流行熾ニシテ慘状ヲ極メ神明ノ加護ヲ祈ニ付、

当郡富来村神社素戔嗚尊分靈鎮座村社ト云々(ノ)古老ノ口碑ニ依リ、

〔天照皇大神・月夜見尊ノ二社ハ本村字兼原鎮座ノ嶋、明治十八年一月合祀〕

一 神殿 竪三間 横貳間 一神 四尺五寸 五尺

一 一室 三間 三間四尺

一 一坪 二間 五間三尺

一 境内 百三拾三坪 富有地一畝

一 信徒 三百三拾五人

大分県管下豊後國東郡深江村字出口(電岸)

無格社 神明社

明治十八年一月本村字小野嶺米天社(合併)

祭神 天照皇太神 月夜見ノ尊

由緒 文久三癸亥年正月癸卯シテ祠堂造當シ樂座參拜(創立ス)

石祠

拝殿 竪二間三尺 横老間三尺

敷地 四拾貳(四)坪 民有地 (地主 松本久吉私有山林ノ内)

信徒 七拾三人 (區分第二四十五區坪トアリ)

大分県管下豊後國東郡深江村字馬ノ脊

無格社 秋葉社

祭神 不詳

由緒 創立年月不詳、当村曾テ出火度々ニ(災多ク)及村民因却神明ノ加護

ヲ祈ル、俗ニ火鎮ノ神ト稱シ信仰云々古老ノ口碑

石祠 一尺八寸 二尺

拝殿 (竪)老間五分方(二間四尺)(間四尺)

敷地 (貳)拾貳(九)坪 民有山林(地主 福持 富松音松所有地)

信徒 七拾三人

大分県管下豊後國東郡東郷栗米村字日向

村社 稲田姫神社

祭神 稲田姫命

由緒 不詳、明治六癸卯年村社ニ列セラレ

神殿 竪老間三尺 横老間三尺 (五尺 一尺)

拝殿 竪五間三尺 横二間 (拜二間 六間)

(竪一間 二間三尺)

(竪三尺 一尺 二間)

(間一四尺 一尺三尺)

境内 八百拾五坪 官有地(第一種)

境内神社三社

金刀比羅社

祭神 金山毘古神

由緒 不詳

石祠 (古石)

神明社

祭神 天照太神

由緒 不詳

石祠 二尺 一尺四寸

天満社

祭神 菅原道美公

由緒 不詳

石祠 二尺五寸 一尺六寸

信徒 百七拾貳人

大分県管下豊後國東郡大恩寺村字大山神

村社 大山神社

明治十八年二月三日字牌中ニ修葺許可

祭神 大山祇命(二柱)

由緒 開基創立不詳、宝曆六年再建、(大山姫命一柱)本村字中嶺原ノ嶋、明治十八年

二月念日迄

神殿 長四尺五寸 八四尺五寸 (神厨 三尺 四尺二寸)

拝殿 長二間三尺・八二間 (竪殿 一四四尺 一四四尺)

境内 六百六拾三坪 官有地(第一種)

二 境内神社三社

天照社

祭神 菅原神

由緒 不詳、当村字天神原藤ノ峯、明治十三年十二月此處ニ移ス

石祠 長一尺四寸・横一尺六寸

稲荷社

祭神 倉稻魂神

由緒 不詳、当村字天神原藤ノ峯、明治十三年十二月此處ニ移ス

石祠 長一尺二寸・横一尺

金刀比羅社

祭神 大物主命

由緒 不詳、当村字天神原藤ノ峯、明治十三年十二月此處ニ移ス

石祠 長一尺一寸・横一尺三寸

一 信徒 四百四拾人

大分県管下豊後国東郡大恩寺村字保久租

無格社 神明(王子神)社

一 一八八一年月社号改修許可

一 祭神 天照大御神 伊弉册尊

一 由緒 (創立年月不詳)下藤トキ正徳五年社堂再建、元王子権現宮勧請、明治七年御改

正、同年年〇〇〇〇更ニ勸請仕候、創立沿革不詳、(神明社トモニシテ明

治十八年一月王子神社ト改修ス)

一 神殿 長七間、寬九尺九寸、入七間、老尺六寸

一 拝殿 長五間、寬四尺三寸、入七間、九寸

一 境内 六百四拾拾坪 官有地(第一種)

一 境内神社志社

一 山神社

祭神 大山祇命

由緒 往古ニ本村内數ヶ所ニ勧請有之処、天保八年十一月四日、右

社地ニ合祀、勸請仕候(本社境内ニ移ス)

社殿 長七間、寬四尺三寸、入四尺三寸

一 信徒 三百七拾二人

大分県管下豊後国東郡大恩寺村字畑中

無格社 山神社

一 明治十八年一月本村字大山祇原大山神社(合併)

一 祭神 大山祇命

一 由緒 開基創立不詳、元禄三年再建

一 神殿 長四尺六寸、入三尺七寸、(神 三尺六寸 三尺三寸)

一 拝殿 長四間三尺、入七間、(神 一間二尺六寸 一間四尺)

一 境内 三百拾二坪 官有地(第一種)

一 境内神社志社

一 信徒 四百四拾人

(付添)

一 祭神 菅原神

一 由緒 不詳、当村字宮位原藤ノ峯、明治十三年十二月此處内ニ移ス

一 石祠 長八寸五分 横一尺五寸

一 金刀比羅社

一 祭神 大物主命

一 由緒 不詳、当村字本戸原藤ノ峯、明治十三年十二月此處内ニ移ス

一 石祠 長八寸五分 横一尺五寸

一 信徒 四百四拾人

一 境内神社志社

一 境内神社志社

大分県管下豊後国東郡富来村字中村

郷社 八坂社

一 祭神 素戔鳴命

由緒 当社牛頭天皇ハ播磨ノ國飾磨郡広嶺ノ神社ノ分靈ナリ、村上天皇天德

三年己未正月常陸ノ国石井村ノ称宜嗣仁兵衛政弘而發弘ハ常陸石井村ノ同宮

内大穴安ノ子リ、後改テ鎌田式部大夫ト云フ、同姓ヲハ傳子ニ譲ル、此神社ニ折願

ノ事アリテ一七日折念ス、満願ノ曉神託アリテ曰ク朕分身シテ西海ニ

遊ハント欲ス、故遣ニ小船ヲ造リ朕トヲ載セテ海上ニ供奉スヘシ、其

船ノ止マル所ニテ庶民守護ノ地ヲトサン、而シテ汝ノ本願朕カ言ノ虚

妄ナラサルヲ饒ラシバ、政弘夢ノ如ク覺メテ希過ノ心ヲ生ス神勅ノ尋

常ナラサルヲ覺ル、則饒テ神像ヲ彫刻シ以テ敬示ノ如クス、海波穏靜

微風モ起ラス御船西ヲ指テ馳ス、其疾事飛カ如クニシテ富來三ツ石ニ

止マル、其石ヲ名ケテ影向石ト云フ、此ニ正弘纒ヲ繫テ村里ニ告ク、

人民悉ク奉迎ス、而シテ此ノ磯邊ニ於テ神饗ヲ供ス、里人此所ニ小祠ヲ建テ

崇敬シ饒ノ神トモ稱ノ舞辭一節トモ云フ、本社遺宮ノ間富來丸山ニ遷シ奉ル、

同年十月社殿成ル、十一月朔日新宮ノ社ニ遷宮ス、神徳日新ニシテ人

民華ヲ敬畏ス矣、行幸六月十五日九月廿九日、行宮ノ社頭ヨリ二拾町東櫻本

ニアリ、依テ昔ヨリ六ヶ村富來・大皇寺・編崎・富來浦・聖家・櫻江ノ氏神ト稱

ス、明治四年辛未年郷社ニ列ス

祭神 事代主命

由緒 不詳

日神社

祭神 天照太御神 月夜見命

由緒 文久二壬戌年正月勧請、全年八月擇殿新宮ス

石祠 一尺二寸 一尺四寸

拜殿 長二間 入老間三尺

由緒 文久二壬戌年

金刀比羅社

祭神 大物主命

由緒 不詳

石祠 一尺三寸 一尺六寸

稱荷社

祭神 豐受姫命

由緒 不詳

石祠 一尺一寸 一尺四寸

鯨島社

祭神 市杵嶋姫命

由緒 不詳

石祠 一尺一寸 一尺

五十鈴社

祭神 大日靈光命

由緒 不詳

石祠 一尺方

天満社

祭神 菅原(道安)ノ墓

由緒 宝曆八年戊寅十一月勧請

一 祭神 素戔鳴命

境内 千貳百七拾九坪 富實地「第一種」

境内神社九社

山神社

祭神 大山姫命

由緒 不詳

社殿 長三尺 入二尺五寸 二尺 二尺七寸

惠美須社

社殿 長三尺 入二尺五寸 二尺 二尺七寸

一 神殿 長貳間貳尺四寸 入老間三尺

一 拜殿 長六間 入貳間

一 神殿 長貳間貳尺四寸 入老間三尺

一 拜殿 長六間 入貳間

一 神殿 長貳間貳尺四寸 入老間三尺

一 拜殿 長六間 入貳間

一 神殿 長貳間貳尺四寸 入老間三尺

一 拜殿 長六間 入貳間

一 神殿 長貳間貳尺四寸 入老間三尺

石祠 二尺一尺二寸

生百八幡社

祭神 景清ノ靈

由緒 弘化二己巳年三月日向ノ國ヨリ勧請

石祠 二尺二寸 一尺六寸

一 氏子 九百五拾三戸

〔境内社拜殿 一間五尺二間一尺〕

大分県管下豊後国東郡浜崎村字不動院

村社 直日社

一 祭神 神直日神 大直日神

一 由緒 創立年月不詳、再建延宝八〔再建、明治六年村社ニ明セラル〕

一 神殿 長四尺五寸 横三尺三寸 〔神 三尺三寸 四尺五寸〕

〔殿 一間二尺 一間〕

〔扉 二間二尺 二間〕

〔扉 一間三尺 六間〕

〔扉 一間四尺 三間〕

一 拜殿 長六間 横卷間三尺

一 神楽殿 長三間 横卷間三尺

一 境内 二百九拾八坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社三社

一 神明社

一 祭神 天照太神 月夜見尊

一 由緒 創立万延二〔創立、辛酉年三月、町村字西山へ勧請ノ地、明治年月此境内へ移転ス〕

一 石祠 二尺二寸 一尺八寸

一 若宮社

一 祭神 仁徳天皇

一 由緒 創立年月不詳

一 社殿 長四尺 横一尺五寸 〔神 一尺八寸 三尺〕

稲荷社

祭神 倉稲魂神

由緒 創立安永五丙申年〔町村字西山へ勧請ノ地、明治年月此境内へ移転ス〕

一 石祠 二尺五寸 一尺五寸

〔秋葉社 石 一尺二寸 一尺二寸〕

一 大日社 石 一尺一寸五分

一 信徒 八拾貳人

一 祭神 高麗神 關瀨神 關瀨津羽神

一 由緒 創立年月不詳、明治六年村社ニ明セラル

一 神殿 長四尺 横二尺九寸 〔神 二尺五寸 四尺〕

〔殿 一間二尺 二尺七寸〕

一 拜殿 長五間 横卷間三尺

一 境内 百九拾五坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社卷〔五〕社

一 恵美須社

一 祭神 事代主命

一 由緒 創立年月不詳

一 石祠

〔稲荷社〕

一 祭神 倉稲魂神

一 由緒 不詳

一 石祠 八寸五分 一尺四寸五分

〔符懸〕

〔天神社〕

〔符懸〕

〔天神社〕

〔天神社〕

〔天神社〕

〔天神社〕

〔天神社〕

〔天神社〕

〔天神社〕

祭神 菅原神

由緒 創立正永二乙酉年、元本村字松葉松葉ノ堤、明治十八年、月本社安所

(移転)

石祠 杉老尺五寸 横老尺七寸

神明社

祭神 天照大神

由緒 創立安政四丁巳年、以下略

石祠 杉九寸 横老尺二寸五分

月天社

祭神 月讀命

由緒 神明社三間シ

石祠 杉九寸 横一尺二寸五分

一 信徒 六拾人

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字山ノ神

[区分別字五番トアリ]

村社 山神社

一 祭神 大山祇命

一 由緒 創立年月不詳、再建寛文六丙午年

一 神殿 長二尺五寸 横二尺 [神 一尺九寸 二尺五寸]

[扉 一箇三尺五寸 一箇一尺五寸]

[庫 一箇一五尺]

一 拝殿 長四間 横老間三尺 [神 一尺三尺 三間三尺]

一 境内 百五拾五坪 官有地 [第一巻]

一 境内神社老社

天満社

祭神 菅公靈神

由緒 創立寛文三辛亥年十一月[寛政三辛亥十一月廿九日]

石祠 一尺八寸 二尺二寸

一 拜殿 長二間三尺 横老間三尺

[金部帳 文政十三年正月三日 念尺 石九寸一尺一寸]

一 信徒 四拾五人

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村字松葉

[区分別字五番トアリ]

無格社 天神社

一 明治十八年、月本村字西崎田讀靈神社境内(移転)

一 祭神 菅原靈神

一 由緒 不詳、創立正永二乙酉年(創立)

一 石祠 一尺一寸 一尺五寸

一 敷地 百三拾七坪 共有宅地(民有地第一巻) 名受(地主)安松幾太郎

一 境内神社二社

神明社

祭神 天照大神

由緒 創立安政四丁亥(三)年

石祠 一尺 一尺

月天社

祭神 月讀命

一 信徒 六拾人

大分県管下豊後国東国東郡津来浦字下町

村社 御祖社

一 祭神 伊弉那美命

一 由緒 不詳、明治六癸酉年村社三間セラル

一 神殿 横老間 入四尺

[神 五尺 六尺五寸]

[扉 一箇四尺五寸 一箇三尺五寸]

一 拜殿 長七間 入貳間

〔拜二間、間五寸 八間二尺〕

一 門 横老間三尺 入老間貳尺

〔門一間、尺八寸 一間二尺八寸〕

一 土藏（神庫） 横老間老尺 入六間

一 境内 貳百六坪 官有地〔第一種〕

一 境内神社三社

一 天満社

一 祭神 菅原道實（實盛）

一 由緒 不詳

一 社殿 横老間三尺 入五尺 〔神一間五寸 一間五尺八寸〕

一 月天社

一 祭神 月読命

一 由緒 不詳

一 石社 一尺七寸 一尺七寸

一 恵美壽社

一 祭神 事代主命

一 由緒 不詳

一 石社 二尺七寸 二尺三寸

一 信徒 千五拾七人

大分県管下豊後国東國東郡富来浦字門常

村社 大年神社

一 祭神 稲田姫命 御年神 大年神

一 由緒 寛弘二年勸請余八不詳〔創立、明治六年村社三州セラル〕

一 神殿 長五尺 横四尺 〔神三尺八寸五分 四尺六寸〕

〔庫二間一尺 二間四寸〕

〔儀一棟二尺 一四〕

一 拜殿 長三間 横老間三尺 〔拜一間三尺 三間三尺〕

一 境内 九拾六坪 官有地〔第一種〕

〔境内 大神 一尺五寸 一尺一寸五分 廣野四年戊申正月〕

一 信徒 二百廿八人

大分県管下豊後国東國東郡富来浦字松原

無格社 日天社

一 祭神 天照大御神

一 由緒 廣忠元年勸請

一 石社〔祠〕 〔神一尺九寸二尺 一四〕

一 拜殿 長二間 入老間三尺 〔拜一間四尺 二間二尺〕

一 境内 六拾二坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 五百四拾人

大分県管下豊後国東國東郡富来浦字磯ノ神

無格社 磯神社

一 祭神 素盞鳴命

一 由緒 不詳

一 石社〔祠〕 〔石一尺二寸 一尺六寸五分〕

一 拜殿 横二間 入老間三尺 〔拜一間四尺 二間五寸〕

一 境内 三百拾貳坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 貳百五十六人

大分県管下豊後国東國東郡富来浦字鉄炮町

無格社 龍神社

一 祭神 豊玉彦神

一 由緒 不詳

一 石社〔祠〕 〔石八寸 一尺一寸〕

一 境内 三拾六坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 五拾八人

大分県管下豊後国東国東郡成仏村字金脇

村社 山神社

一 祭神 正鹿山津見神 於藤山津見神 美山津見神 閉山津見神

志芸山津見神 羽山津見神 原山津見神 戸山津見神

一 由緒 不詳、（前掲大分県管下村社三列ニシテ）

一 神殿 東西老間六寸 南北老間

一 拝殿 東西貳間 南北六間

一 境内 貳百八拾四坪 官有地（第一種）

一 境内神社 三社

天満社

祭神 世原道実（二）

由緒 不詳

石祠

若宮社

祭神 仁徳天皇

由緒 不詳

石祠

稲荷社

祭神 豊受姫命

由緒 不詳

石祠

一 信徒 五百七拾人

大分県管下豊後国東国東郡下成仏村字平

村社 天満社

一 祭神 菅原道實（二）

（前掲天皇） 天御中主命 大槌神二柱 野槌神二柱 天鏡神二柱

別扶神二柱 天狹野神二柱 深草神二柱 天開戸神二柱 四間

戸神二柱 応神天皇 大日御女神 豊受比売命 伊弉諾岐命 兼清

（前掲）

一 由緒 不詳

（付註）（前掲毎月不詳、（前掲天皇外十四）二柱八間村各所、（前掲）天照神九千七百餘

一 神殿 東西貳尺 南北老尺三寸 （石祠 一尺九寸 二尺四寸）

一 拝殿 東西三間 南北老間三尺 （扉 二間 八間）

一 龍屋 東西四間三尺 南北五間三尺 （扉 二間 四間）

一 境内 九百老坪 官有地（第一種）

（外 二五坪 民有地ノ舊口ニシテノ備明治十八年二月廿三日許可）

一 境内神社 七社

天照皇太御神

祭神 天照皇太御神

由緒 不詳

石祠 二尺廣寸 一尺八寸

一 信徒 四百貳拾三人

（境内 稲荷社 石祠 一尺一寸 一尺三寸）

一 祭神

健甕（二） 櫛田（二） 短命 櫛田（二） 短命 飯津比売命

大原津比売命 五十猛神 多紀理比売命 多岐那比売命

大國主神 須勢理比売命 足名椎神 午名椎神

八幡士奴美神 正哉吾勝々速日天之忍穗耳命 天之穗日神

天津日子根命 天運岐志國運岐志天津日高日子彥能遠々雲命

大分県管下豊後国東国東郡見地村字横山

村社 八坂社

【村社御座社ヲ合併スルヲ以テ村社ニ列ス】

大分県管下豊後国東郡岩屋村字イシホトケ

無格社 熊野社

祭神 伊邪那美命

由緒 不詳

社殿 長九間 横卷間

〔神 一間五寸 一間五尺三寸〕

〔棟 三間 三間二尺三寸〕

押殿 長四間三尺 横二間三尺

〔神 二間三尺 二間五尺〕

境内拜敷 二百廿坪

官有地〔第一種〕

信徒 四百九人

大分県管下豊後国東郡赤松村字チマ

村社 巖島社

祭神 市岐島比売命

天照皇太神 大山津見命 久那斗神

菅原道実公

由緒 不詳、明治大分縣年村社ニ列セラル、

神殿 竪老間三尺 横老間三尺

押殿 竪老間 横五間三尺

境内 百四拾四坪 官有地〔第一種〕

信徒 五百四拾七人

大分県管下豊後国東郡川原村字櫻本宮

村社 櫻本宮社

祭神 仲哀天皇 成神天皇 神功皇后

由緒 元禄十五年創立、縁由沿革不詳

神殿 長二間 入二間

〔神 二間三尺 二間〕

〔棟 二間三尺 二間〕

〔神 二間一尺 九間一尺〕

〔棟 二間三尺 四間三尺〕

大分県管下豊後国東郡北江村字明見

境内 三百三拾五坪 官有地〔第一種〕

境内神社 岩社

祭神 巖島姫命

由緒 不詳

神殿 竪五尺 横五尺

信徒 五百五人

大分県管下豊後国東郡北江村字明見

村社 八坂社

祭神 兼茂助命 稲田姫命 天之御中主命

由緒 不詳、明治大分縣年村社ニ列セラル、天之神主命ハ本村字明見巖屋ノ處、明治十八年一月合併

神殿 長老間 横三間

〔神 一箇四尺 二間三尺〕

〔棟 二間 七間〕

〔神 二間 四間〕

〔棟 二間 四間〕

〔神 二間二尺 一間五尺五寸〕

境内 貳百八拾八坪 官有地〔第一種〕

境内 天鏡社社殿 一尺 五尺 金毘羅殿 八寸 一尺一寸

信徒 貳百五拾人

大分県管下豊後国東郡北江村字上り立

村社 巖島社

祭神 市岐島姫命

由緒 不詳、明治大分縣年村社ニ列セラル

神殿 長老間三尺 横老間三尺

境内 五百廿四坪 官有地〔第一種〕

信徒 五百貳拾人

大分県管下豊後国東郡北江村字妙見

村社 蓮壽社

〔明治十八年一月本村字明見延八坂社へ合併〕

一 祭神 天之御中主命

一 山緒 不詳、〔明治八、癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 長老間 横老間

一 境内 六拾坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 五拾人

大分県管下豊後国東郡田深村字鶴

村社 敷島社

一 祭神 市杵島姫命

一 山緒 不詳、〔明治八、癸酉年村社ニ列セラル〕

一 神殿 竪三尺五寸 横三尺五寸

〔坪 一間 二間 一尺〕

一 境内 八拾坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 三人

大分県管下豊後国東郡田深村字安ヶ浜

無格社 天満社

一 祭神 菅原道美公

一 山緒 不詳

一 神殿 竪五尺六寸 横九尺〔老間三尺〕

〔坪 一間 一尺 二間 四尺〕

〔奠家 二間 二間三尺〕

〔敷所 一間三尺 三間〕

一 境内 四百三坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 八百五十人

大分県管下豊後国東郡田深村字丹邊

無格社 善神社

一 祭神 武内宿禰

一 山緒 不詳

一 石祠 一尺二寸 一尺五寸

〔坪 一間三尺 二間〕

一 敷地 拾貳坪 民有地〔第一種 持主 寺木俊口〕〔敷〕

一 境内神社 社

無格社

一 祭神 事代主命

山緒 不詳、本村字丹邊敷地ノ境、明治十八年一月本社境内へ合併

石祠 一尺 一尺二寸

一 信徒 百五十人

大分県管下豊後国東郡田深村字丹邊

無格社 湊夷社

〔明治十八年一月本村字丹邊敷地神社境内へ合併〕

一 祭神 事代主ノ大神

一 山緒 不詳

一 石祠 一尺 一尺二寸

一 境内 貳坪 民有地〔第一種 持主 田澤七〕

一 信徒 拾人

大分県管下豊後国東郡田深村字北フチ

無格社 事代主社

一 祭神 事代主ノ大神

一 山緒 不詳

一 石祠 二尺五寸 一尺七寸

境内 拾貳(二)卷五坪 民有地(第一種) 地主 長谷部三三
信徒 〇七十八人

大分県管下豊後国東国東郡原村字宮

村社 初八坂社

祭神 須佐ノ男神

多岐理姫命 市寸島姫命 多岐都姫命
楠名毘光命 天ノ磐昇命 天ノ穗耳命 天津日子根命

熊野久壽毘命 活津日子根命

由緒 不詳(一)明治六年豊後原村社三列セラル

神殿 竪三間 横三間

〔神一 一四四尺 二四四尺〕
〔棟一 五三二尺 五四二尺〕

拜殿 竪拾間 横二間

〔棟一 二四三尺 二四三尺〕
〔棟二 二四三尺 二四三尺〕

神楽殿 竪三間 横五間三尺

神饌殿 竪三間 横四尺 横二間三尺 横一間三尺
土蔵(神庫) 竪三間 横五尺 三間五寸

境内 六百五拾八坪 官有地(第一種)

境内神社老社

山王宮(社)

祭神 不詳

由緒 不詳

石祠 二尺一尺三寸

信徒 三千三百人

大分県管下豊後国東国東郡原村字剱山

無格社 天満社

祭神 菅原道実公

由緒 不詳

神殿 竪二間 横二間 〔神一 三八 四尺〕

拜殿 竪二間 横五間 〔棟一 二四三 二四三〕
境内 百六拾五坪 官有地(第一種)

境内神社老社

翠平社

祭神 大物主神

由緒 不詳

石祠 一尺二寸 一尺二寸

信徒 三百四拾人

大分県管下豊後国東国東郡絲川村字奥満

郷社 櫻八幡社

祭神 仲哀天皇 応神天皇 神功皇后

由緒 往昔大友家ノ郷社ニシテ修理祭典ノ料貳拾町余ノ地外ニ社價坊料毛所
有セシカ、同家没落シテ田原家ノ折願所トナス、中古領主小笠原家ヨ
リ若干ノ地ヲ寄附シテ折願所トナス、同家封ヲ移シテ松平家ニ代リ折
願所タル旧ノ如シ、近今マテ三拾三ヶ村凡ソ戸數三千六百戸ノ氏神タ
リシカ、明治四年郷社ニ定メラレ拾八ヶ村ノ惣額トシテ祭日六月廿九
日・十月十三日ナリ(コソナル也)

神殿 南北一 竪三間三尺 東西一 竪四間 二四二尺 三四

申殿 南北一 竪二間三尺 東西一 竪二間 二四二尺 三四

拜殿 南北一 竪二間三尺 東西一 竪三間 二四二尺 三四

御供所 神饌殿(住持所) 南北一 竪二間三尺 東西一 竪五間

御道具庫(神庫) 東西一 竪二間 南北一 竪四間

門 南北一 竪九尺 東西一 竪三間 二四二尺 三四

境内 九百三拾七坪 官有地(第一種)

境内神社貳社

若宮社

祭神 仁德天皇

由緒 不詳

神殿 南北二間 東西二間 老間

住吉社

祭神 底筒男命 中筒男命 表筒男命

由緒 不詳

神殿 東西二間 南北二間 廣五尺

境内祖靈社

由緒 從來瀨八幡社奉仕神官御供所勸近村氏子ノ者御一新後神葬祭

二相成候ヲル者ノノモリ祖靈鎮座ス

神殿 東西二間 南北二間 九尺

共有人員一區 貳拾六人共有

氏子 貳千百六拾九戶

大分県管下豊後國東郡鶴川村字アセツ

村社 地主社

祭神 大國主命 須勢理姫命

由緒 不詳、(明治六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)

本^二神^一殿 東西二間 南北二間 老間三尺 廣二間 廣一間三尺

申殿 東西二間 南北二間 老間

押殿 東西二間 南北二間 六間

境内 五百四拾五坪 官有地(第一種)

信徒 五百八十二人

大分県管下豊後國東郡鶴川村字上ノ登

無格社 事代主社

(明治十八年一月廿一日本村字上ノ登ニ修葺許可)

祭神 事代主命 大國主命

由緒 不詳

神殿 東西七尺一老間三尺 南北七尺一老間三尺

押殿 東西二間 南北五間

境内 百貳拾七坪 官有地(第一種)

信徒 四百二十三人

大分県管下豊後國東郡鶴川(小原)村字平床(原)

無格社 歳鳥社

祭神 市杵島姫命

由緒 不詳

石祠 一尺 横一尺

押殿 東西二間 南北二間 南北老間三尺 三間

境内 三百拾貳坪 官有地(第一種)

信徒 二百六拾人

大分県管下豊後國東郡小原村字原(下)庵

村社 天満社

祭神 菅原道実

由緒 不詳、(明治六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)

神殿 長四尺五寸 横三尺 (神殿 長三尺 横四尺五寸)

押殿 長四間 横貳間 (神殿 長二間 横一間四尺)

境内 四百六拾貳坪 官有地(第一種)

(境内神社)社

貫石社

祭神 高麗神

由緒 不詳、本村字貫石鎮座ノ暇、明治十八年一月本社境内へ移転

石祠 一尺 一尺二寸

一 信徒 〇〇人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字牛頭ノ谷ノ庄
村社 八坂社

〔明治十五年五月本村字立（移転可）〕

一 祭神 素盞之男神 伊弉諾尊 稲田比咩命

一 由緒 天正元年十月創立、沿革不詳

〔村誌〕

〔天正元年一月ノ創立ニシテ當時牛頭ノ谷ニ鎮座ノ鳩ノ地村ノ西北隅ニ鎮シ不便不少ニ因リ、當時古丸路七間・市丸路三八・他邊郡本・清水忠次殿ノ四人、所有地九尺廿五歩ヲ寄附シ、内二百九十二坪ヲ境内トシテ明治十三年五月移転新所、同年七月五日当地へ遷座ス〕

一 神殿 長四尺五寸 横四尺卷寸

〔神 四尺卷寸 四尺五寸〕

〔築 二間 三間三尺〕

〔梁 二間 一尺 一間〕

一 拝殿 長貳間四寸 横老間三尺九寸

〔神 二間三尺 七間〕

一 境内 千坪 二百九十二歩 民有地八坂社名受、〔第一區〕

〔祭神神社二社〕

大年社

祭神 大年神 御年神 若年神

由緒 天和元年八月創立、本村字森田鎮座ノ處ヲ、明治十八年、月本社殿内へ

〔合併〕

神殿 長三尺二寸 横二尺一寸

小原社

祭神 高麗神

由緒 文祿二年四月創立、本村字森田鎮座ノ處、明治十八年一月本社殿内へ

〔合併〕

神殿 長二尺 横一尺四寸五歩

一 信徒 百四拾七人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字下ノ原
無格社 金刀比羅社

一 祭神 大物主命
一 由緒 文化八年六月創立、沿革不詳

一 石祠 長卷尺五寸 横卷尺貳寸

一 神殿 長貳間卷尺 横老間三尺 〔神 入金間三尺 横卷間〕

一 境内 五拾壹坪 民有地金刀比羅社名受、〔民有地第一區〕

一 信徒 八十四人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字森田
無格社 小原社

〔明治十八年一月本村字辻鎮座八坂五境内へ合併〕

一 祭神 高麗ノ神

一 由緒 文祿二年四月創立、沿革不詳

一 神殿 長貳尺 横一尺四寸五歩

一 境内 百拾坪 民有地小原社名受、〔比羅二民有地第二區〕

一 信徒 百四拾七人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字森田
無格社 大年社

〔明治十八年一月本村字辻鎮座八坂社境内へ合併〕

一 祭神 大年神 御年神 若年神

一 由緒 天和元年八月創立、沿革不詳

一 神殿 長三尺一寸 横貳尺卷寸

一 境内 三拾壹坪 民有地大年社名受、〔第一民有地第一區〕

一 信徒 百四拾七人

大分県管下豊後国東国東郡小原村字八郎

一 祭神 素戔之男神 速玉之男神 大加年豆美命 伊弉册尊
小(無格)社 御笠社

一 由緒 天正一年三月創立、沿革不詳
神殿 長五尺四寸九步 横三尺七寸五分
〔第二間 二間〕
〔甲段 一間三尺 一間〕
〔坪 一丈四 横六間〕

一 神殿 長老間四尺七寸 横貳間五寸
境内 六百貳拾四坪 官有地〔第一種〕
境内神社卷(二)社

一 貴船社
祭神 高魂神
由緒 不詳
社殿 〔甲段 二尺 二尺五寸〕
〔乙段 一間四尺 一間四尺〕

一 祭神 火産靈命 奥津彥命 奥津姫命
由緒 天正元年八月創立、本村九田基興ノ處、影神十八年一月本社境内へ
合併
石祠 長三尺五寸 横二尺

一 信徒 七拾三人
大分県管下豊後國東郡小原村字山神
無格社 山神社

一 祭神 大山祇命
由緒 天正一年二月創立、沿革不詳
神殿 長三尺貳寸 横貳尺四寸
〔神道 入三尺 横四尺〕
〔甲段 二間方〕

一 境内 百四拾七坪 民有地山神社名受(附)〔民有地第一種〕
〔甲 入二間 横四三尺〕
信徒 七拾三人

一 祭神 高皇產靈尊 天御中主尊 神皇產靈尊
由緒 天正一年九月創立、沿革不詳
神殿 長三尺六寸五步 横三尺一寸五步
〔神 入二尺六寸 横三尺五寸〕
〔甲 八一間四尺 二間〕

一 神殿 長老間三尺三寸 横老間三尺三寸
境内 五百七拾貳坪 民有地靈巖社名受(附)〔民有地第一種〕
信徒 七拾三人

一 祭神 火産靈命 奥津彥命 奥津姫命
由緒 天正一年八月創立、沿革不詳
神殿 長貳尺五寸 横貳尺
境内 百八拾六坪 民有地國東荒神社名受(附)〔民有地第一種〕
信徒 七拾三人
大分県管下豊後國東郡小原村字戸崎
無格社 國東荒神社

一 祭神 大山祇命
由緒 不詳
神殿 長四尺五寸 横三尺
〔神 入三尺 横四尺五寸〕

一 祭神 大山祇命
由緒 天正一年二月創立、沿革不詳
神殿 長三尺貳寸 横貳尺四寸
〔神道 入三尺 横四尺〕
〔甲段 二間方〕

二 竈 入一四四尺 横一間三尺

一 押殿 長三間半 横貳間

一 境内 貳百拾三坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 拾八人

大分県管下豊後國東郡小原村字石原

小社 大年社

一 祭神 御年神 大年神 若年神

一 由緒 不詳

一 神殿 長三尺 横貳尺 〔社殿 一四三尺方〕

一 境内 貳拾叁坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 拾叁人

大分県管下豊後國東郡小原村字尾崎〔第一種〕

小社 貴船社

〔明治十八年一月本村字十郎殿地天滿社境内へ合併〕

一 祭神 高魂神

一 由緒 不詳

一 石祠 長壹尺二寸 横壹尺

一 境内 百八坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 三人

大分県管下豊後國東郡小原村字力堂

小社 貴船社

一 祭神 高魂神

一 由緒 不詳

一 石祠 長壹尺五寸 横壹尺二寸

一 境内 三拾三坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 六人

大分県管下豊後國東郡小原村字石生

小社 巖鷲社

一 祭神 巖鷲姫命

一 由緒 不詳

一 神殿 長三尺 横貳尺

〔神 入二尺 横二尺五寸〕

〔竈 入二四一尺 横二間〕

一 押殿 長壹間三尺 横貳間

〔神 入二間 横二間三尺〕

一 境内 百貳拾坪 官有地〔第一種〕

一 信徒 三拾四人

大分県管下豊後國東郡小原村字橘ノ本

小社 小巖社

一 祭神 巖鷲姫命

一 由緒 不詳

一 石祠 長壹尺二寸 横壹尺

〔社殿 長二間 横一間〕

〔神殿 長三間 横二間三尺〕

一 境内 八二六坪 民有地〔第一種 持主 村上源六名受一巖殿〕

一 信徒 九人

4 東園東郡寺院明細陳 (明治二三年)

○大分縣公文書館藏

大分県管下豊後國東園東郡岩戸寺村字寺迫

本山延暦寺末 岩戸寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 養老年中仁開菩薩ノ開基ト言伝アリト雖トモ記録ナシ、其他縁由詳ナ

ラス

一 堂宇 横十貳間 縦^ノ五間 口口^ノ五間^ノ三尺 十二間^ノ三尺

一 境内 貳百三拾四坪 官有地^{〔第四區〕}

〔庫裏〕五間^ノ一尺方

境内 觀音堂、二間、一明老^{尺、五寸}

一 檀徒 四百人

大分県管下豊後國東園東郡来浦村字岡園

本山延暦寺末 大福寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 正月^{〔壬午〕}二十四年己酉年九月十二日開山宗恵和尚ノ建立今ニ永就ス、

其他ハ不詳^{〔明暦十四年十二月當時在職吉武僧位始起、本堂及七所雖共改築ス〕}

一 本堂 縦^ノ四間^ノ三尺 横七間^ノ三尺

一 庫裏 縦^ノ四間 横六間

一 門^{〔口口〕} 縦^ノ老間^ノ三尺 横老間^ノ三尺

一 長屋

一 境内 貳百九拾八坪 ^{〔民有地一區〕} 檀徒 大聖寺持

一 檀徒人員二百拾貳人

大分県管下豊後國東園東郡来浦村字岡園

本山妙心寺末 金剛寺

禪宗臨濟宗

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 往昔養老年中僧仁開菩薩ノ開基創建ス、予^リト申伝ニ候得^ノアレ共、

雷火ニア記録等^口及焼失先規不詳、其後水徳三年東屋昌隆大禪師中興

シテ昨^{〔明治〕}十二年迄四百九十六年間相續ス

一 本堂 縦^ノ四間 横六間^ノ三尺 口口^ノ四間^ノ一尺 八間^ノ三尺

一 門 縦^ノ老間^ノ三尺 横老間^ノ三尺

一 庫裏 縦^ノ六間 横四間 六間^ノ三尺 四間

一 境内 貳百七拾坪 官有地^{〔第四區〕}

一 境内 仏堂老宇

観音堂

一 本尊 観世音菩薩三拾三体

一 由緒 不詳

一 堂宇 縦^ノ老間^ノ三尺 横老間^ノ三尺

一 檀徒 三百六拾七人

大分県管下豊後國東園東郡来浦村字長野前

本山本願寺末 光明寺

真宗

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 明応八年乙未三月長野新左エ門光明ノ長男和泉介ト申^{ナル}者亡父為

追福制斐シ備トナリ法名法雲ト称シ私有ノ宅地ニ区内ニ堂宇ヲ創建シ

新左エ門^ニ光明ノ名称ヲ以テ^テ取^リ光明寺ト号ス、昨^{〔明治〕}十二年迄

三百八十一年運^テ納^ル相續仕候^ニ

一 本堂 長^ノ七間 横七間

- 門 長一丈二寸 横一丈三寸
- 總堂 長一丈一尺八寸 横一丈一尺八寸
- 庫裏 長一丈六寸三分 横四間 (四間 六間三分)
- 境内 二百九十七坪 民有地二區 (地主 長野泰藏私)
- 檀徒 二百六十七人

〔區分兼寺中ノ上トアリ〕
大分県管下豊後国東郡浜村字岡

本願寺末 正覺寺

- 真宗本願寺派
- 本尊 阿弥陀如来
- 由緒 安靜覺十郎ナルモノ亡父為追福ノ刺髮シテ法名「シテ佛トナリ」敬伝ト称シ、寛永十三丙子年二月朔基一当山啓基
- 本堂 長一丈七間 横七間 (口 六間三分 七間三分)
- 経堂 長一丈二間三分 横二間 (扉 三間 三間)
- 庫裏 長一丈九間 横五間 (東 三間三分 六間三分)
- 鐘堂 長一丈二間 横二間 (鐘 一間二分 一間二分)
- 門 長一丈三間 横三間 (河 一間三分 一間三分)
- 土蔵 長三間 横二間
- 長屋 長四間 横九尺
- 境内坪數四百四拾九坪 民有地二區 (地主 安靜謙練)
- 檀徒 千三百七拾三人

大分県管下豊後国東郡東堅來村字白砂

延暦寺末 明徳寺

- 天台宗
- 本尊 阿弥陀如来
- 由緒 明治十三年十一月十日公許新築

- 本堂 長三間半 横五間 (二間六尺 三間三分)
- 庫裏 長六間 横五間 (行形一政榮寺)
- 境内 百九拾四坪 民有地 (澤孝藏)
- 組徒 二拾人

大分県管下豊後国東郡東堅來村字正友
東国東郡大恩寺村文殊仙寺末 光照庵

天台宗

本尊 釈迦如来

- 由緒 不詳、(明治十四年三月建立)
- 堂宇 長三間三分 横二間 (二間三分 三間)
- 境内 四拾五坪 官有地 (野田園)
- 信徒 三拾老人 (明治十四年三月再建)

大分県管下豊後国東郡大恩寺村字文殊
本山西京延暦寺末 文殊仙寺

天台宗

本尊 文殊菩薩

- 由緒 養老二年役行者天笠ノ五蓋山ニ入約ヒ、(文殊菩薩)供奉シ櫻朝ス、然ルニ六郷山ニ二十八谷ノ内当山形五蓋山ニ似タリ、因テ修禱ヲ加フ、所謂大日本三文殊ト勸請ス、当山開基役行者也、(前ナリ)也
- 本堂 入一丈三間 長一丈五間
- 庫裡 入一丈四間 長一丈七間
- 土蔵
- 長家
- 本門 入一丈二間 長一丈二間三分
- 裏門 入一丈二間三分 長一丈二間三分

境内 千拾六坪 官有地〔第四種〕
境内仏堂老宇

行者堂

本尊 役行者仏

由緒 不詳

堂宇 入_レ之_二老間三尺 長_一横_一老間三尺

檀徒 百五人

〔付註〕區分標手山限トアリ

大分県管下豊後国東国東郡大恩寺村宇尾仏

本山西京妙心寺末 大恩寺

臨濟宗妙心寺派

本尊 釈迦如来

由緒 応永元年豊山正藏禪師開基創立、其余不詳

堂宇 長_一八間四尺 入_レ之_二五間 〔兼座 五間三尺 七間一尺六寸〕

長家 長_一之_二五間 入_レ之_二貳間

門 長_一之_二貳間三尺 入_レ之_二老間三尺 〔門 間一尺 一間一尺五寸〕

境内 貳百八拾六坪 官有地〔第四種〕

境内仏堂老宇

地藏堂

本尊 地藏菩薩

由緒 不詳

堂宇 長_一之_二老間三尺五寸 入_レ之_二貳間老尺七寸 二間三尺之

檀徒 貳拾老人

大分県管下豊後国東国東郡富来村宇藤重

西京西本願寺末 泉慶寺

真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 元龜二年辛未年開基、其基沿革不詳

堂宇 長_一之_二五間三尺 入_レ之_二五間 〔本 六間 六間三尺〕

〔庫 四間三尺 六間三尺〕

〔講堂 一間三尺 二間三尺〕

〔門 一間三尺 二間三尺〕

境内 三百貳拾坪 民有地〔二種〕 〔持主 徳丸豊私有〕

檀徒 四百人

大分県管下豊後国東国東郡浜崎村宇萬重

同郡富来浦高弘寺末 吉祥寺

臨濟宗妙心寺派

本尊 千手観音

由緒 不詳ト雖トモ養老年中僧仁四開基ト申伝候ト

堂宇 長_一之_二三間 横貳間 〔本 二間四尺 二間〕

境内 貳百七拾壹坪 官有地〔第四種〕

境内仏堂老宇

十王堂

本尊 十五仏

由緒 不詳

堂 長_一之_二五間 横三間 〔庫 四間三尺 六間三尺〕

檀徒 七拾老人

大分県管下豊後国東国東郡富来浦宇前迫

西京府下花園村福臨濟妙心寺末 萬弘寺

臨濟宗妙心寺派

本尊 観音菩薩

由緒 往昔応安四辛亥年創立西京東山東福寺開山教諭聖一因循法嗣大分県豊

後園大分郡内萬壽寺開山教益佛師印國師之法嗣請於叢山正義海師大和尚當寺開山トス、尤善衣地ナリ、開山ヨリ、以善十世迄ハ東福寺末也、ニシテ十三世ヨリ妙心寺末ナリ、ナル也、慶應三年十二月五日口明濟六年ヨリ二年ニ至本堂再建

本堂 長一横一九間、入一懸一六間、一正堂一六間、九間、

鐘樓 一懸一横一老間老尺四方、一佛堂一四一尺方

門 横老間三尺、入一懸一老間貳尺

庫裡 横四間、入一懸一六間、一懸一六間、四間

土藏

浴室

長屋

境内 千百五拾八坪 官有地一四區

境内仏堂貳宇

仏殿

本尊 釈迦如来

由緒 不詳

堂宇 横貳間、入一懸一老間三尺、二間、三間

地藏堂

本尊 地藏菩薩

由緒 不詳

堂宇 横老間三尺、入一懸一老間貳尺、一兩間、二間、二尺五寸

檀徒 千拾貳人

大分県管下豊後國東國東郡富来浦字下町 同県西國東郡玉津村光円寺末 光水寺

真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 慶長十一年丙子僧明順開基、当住迄十一世

本堂 一懸一横一七間四方、一正明一七間三尺

樓門 横老間三尺、懸老間貳尺、一四間三尺、一四間、八寸

庫裡 横六間、懸貳間、一四間三尺、五間

境内 百七拾老坪 官有地一四區

檀徒 七百貳拾人

大分県管下豊後國東國東郡成仏村字グイマ 比叡山延福寺末 成佛寺

天台宗

本尊 不動明王

由緒 不詳

本堂 東西一タテ一六間、南北一タテ一五間、一佛堂一五間、十二間

庫裡 東西一タテ一六間、南北一タテ一五間

本門 東西一タテ一貳間、南北一タテ一貳間、一兩一尺五寸、一四一尺

長屋

境内 貳百拾六坪 官有地一四區

檀徒 百二拾老人

境内三社

彌勒社

生月社 除吉

瑞傳社

大分県管下豊後國東國東郡下成仏村字小野 妙徳山泉福寺末 福林寺

曹洞宗

本尊 釈迦如来

由緒 嘉慶元卯年三月南陽融派和尚創立故二開山下稱ス

本堂 東西一タテ一六間三尺、南北一タテ一五間、一正堂一五間、十三間

本堂 東西一タテ一六間三尺、南北一タテ一五間、一正堂一五間、十三間

庫裡 東西「アテ」五間 南北「ヨコ」七間
 本門 東西「アテ」貳間 南北「ヨコ」老間三尺「内」間一尺五寸「間」三尺五寸
 長屋 四間
 境内 四百七坪 官有地「官地」
 檀徒 四百九拾九人

大分県管下豊後國東國東郡下成仏村字松ノ下「妙見」
 本願寺末 淨園寺

真宗東派
 本尊 阿弥陀如来
 由緒 不詳
 本堂 東西「アテ」五間 南北「ヨコ」六間 「本」五間三尺「間」四間三尺
 庫裡 東西「アテ」八間三尺 南北「ヨコ」五間 「庫」四間 八間
 土蔵 長屋
 境内 貳百四拾老坪 民有地「第一豊」
 檀徒 百七拾貳人

大分県管下豊後國東國東郡見地村字横山
 妙徳山泉福寺末 玉林寺

曹洞宗
 本尊 観世音菩薩
 由緒 嘉慶元卯年三月南陽融薫和尚創立故二開山ト称ス
 本堂 東西「ヨコ」五間 南北「ヨコ」四間三尺 「本」四間三尺 五間二尺
 庫裡 東西「ヨコ」六間 南北「ヨコ」四間三尺 「庫」二間三尺 五間
 長屋
 境内 貳百六拾老坪 官有地「第四豊」
 境内仏堂老宇

地藏堂
 本尊 地藏菩薩 阿弥陀如来
 由緒 不詳
 堂宇 東西「ヨコ」老間三尺 南北「ヨコ」貳間 「間」一四二尺
 檀徒 八拾六人

大分県管下豊後國東國東郡中田村字内畑
 三寶院末 松月寺

真言宗
 本尊 不動明王
 由緒 不詳
 本堂 竪二間三尺 横二間三尺 「本」二間 二間
 庫裡 竪五間 横三間 「庫」二間三尺 四間三尺
 境内 百三拾坪 官有地「第四豊」
 信徒 百拾三人

大分県管下豊後國東國東郡中田村字大ノ内
 妙徳山泉福寺末 東光寺

曹洞宗
 本尊 薬師仏
 由緒 不詳
 本堂 竪六間三尺 横五間 「本」五間 六間三尺
 庫裡 竪一間 横四間三尺 「庫」四間 七間
 門 竪一間 横二間 「門」四間三尺 〇間三尺
 女関 土蔵 長屋
 浴室

一 境内 三百貳拾六坪 官有地「四區」
檀徒 貳百七人

大分県管下豊後國東郡中田村字山下

西本願寺末 浄専寺

真宗本願寺派

一 本尊 阿弥陀如来

一 由緒 不詳

一 本堂 竪五間 横四間三尺

一 庫裡 竪六間 横四間

一 門 竪二間 横二間

一 物置 竪二間 横二間

一 長廡 竪三間 横二間

一 浴室 竪二間 横一間

一 境内 貳百七拾老坪 官有地「前四區」

一 檀徒 百四拾八人

大分県管下豊後國東郡横手村字堂ノ迫
比叡山延暦寺末 行入寺

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 養老二戊午年五月仁聞菩薩開基創建 其他不詳

一 堂宇 東西一四間 南北一四間半

一 長廡 東西一四間 南北一四間半

一 境内 百四拾六坪 官有地「前四區」

一 檀徒 百三拾人

大分県管下豊後國東郡横手村字馬場

總持寺末 泉福寺

曹洞宗

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 永和元年三月人王九十六代光嚴帝ノ皇女後光嚴院宮無着和尚ニ佛依アラセテ淨財ヲ喜捨シ堂地ニ七堂伽藍ノ形ヲ創立シ無着和尚ヲ開山トス、加之所領百餘貫ノ地ヲ賜ル、安國寺城主田原下野守藤原氏能此寺ヲ看護ス、人王一百代円融院天皇ノ御宇教アリ無着和尚ニ真空禪師ト給シ紫衣ノ倫旨ヲ賜フ、其後天正九年八月廿日大友親頼カ為ニ兵火ニ罹リ悉ク焼亡シ寺領廃止セラル、廿五年ヲ経テ慶長十年三月領主細川忠興公七堂伽藍ヲ再営シ寺領拾三石余ノ地ヲ給ハル、正保二四年七月松平市正英親來禪師ヨリ村廢城ハ移転ノ后又寺領若干ヲ給ル、從來未派五百餘寺有之曹洞宗一派ノ中本寺ト相稱ヘ来ル処仰一新以來小本寺ト唱ヘ未派合併廃寺等ニテ現今三百余ノ末寺ヲ存ス、寺領上知堂宇而已從前ノ形姿ナリ

一 本堂 竪九間三尺 横七間

一 庫裡 竪五間 横拾間

二 七間 九間三尺

三 五間 十間

四 七間 十間

天台宗

一 本尊 不動明王

一 由緒 養老元丁己年二月仁聞菩薩開基創建、真徳中絶弘治二年八月養謙中興

一 堂宇 東西一五間 南北一拾三間

一 土庫 東西一五間 南北一拾三間

一 収納屋 東西一五間 南北一拾三間

一 境内 二百五拾四坪 官有地「前四區」

一 檀徒 貳百三拾八人

大分県管下豊後國東郡横手村字大竹

比叡山延暦寺末 神富寺

一 方丈 堅四間三尺 橫七間

〔四間三尺 七間〕

一 衆寮 堅五間 橫七間

〔五間 七間〕

一 禪堂 堅四間 橫五間

〔三間 五間〕

一 鐘樓 堅老間三尺 橫老間三尺

〔老間三尺 老間三尺〕

一 仏殿 堅三間 橫三間

〔四間 四間〕

一 山門 堅三間 橫三間

〔三間 三間〕

一 惣門 堅貳間 橫老間三尺

〔貳間 貳間〕

一 裏門 堅老間三尺 橫三間

〔老間 老間三尺〕

一 文庫 堅三間 橫貳間

〔三間 貳間〕

一 五院寮 堅三間三尺 橫五間

〔三間三尺 五間〕

一 朗山堂 堅三間 橫七間

〔七間 三間〕

一 檀徒 三百八拾五人

大分県管下豊後國東郡横手村字御座

衆福寺末

永照寺

曹洞宗

一 本尊 地藏菩薩

一 由緒 永和元年八月谷和尚開基創建、其他不詳

一 堂宇 堅七間 橫五間三尺

〔堂宇五間三尺 七間〕

一 境内 貳百八拾貳坪 官有地第四種

一 檀徒 三百五人

大分県管下豊後國東郡横手村字延命寺

本護寺末

延命寺

曹洞宗

一 本尊 地藏菩薩

一 由緒 元禄元年三月幼堂和尚開基創建、其他不詳

一 堂宇 堅四間 橫貳間

〔本尊 貳間 四間三尺〕

一 境内 七拾七坪 官有地第四種

〔本堂棟樑八月十五日焼
瓦ノ為崩ル〕

一 檀徒 四拾老人

大分県管下豊後國東郡横手村字小畑

衆福寺末

曹洞宗

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 応永元年明谷和尚開基創建、其他不詳

一 本堂 堅老間老尺 橫五間

〔老間 七間〕

一 庫裡 堅五間 橫老間三尺

〔五間 九間〕

一 禪堂 堅貳間三尺 橫三間三尺

〔貳間三尺 三間三尺〕

一 本門 堅貳間 橫貳間三尺

〔老間三尺 老間四尺五寸〕

一 境内 五百四拾六坪 官有地第四種

一 檀徒 五百廿老人

大分県管下豊後國東郡横手村字小畑

衆福寺末

帝釋寺

曹洞宗

一 本尊 釈迦如来

一 由緒 応永十年二月誠紙和尚開基創建、其他不詳

一 本堂 堅拾老間 橫四間

〔本堂敷 四間貳尺 拾老間三尺〕

一 本門 堅貳間 橫老間三尺

〔老間貳尺五寸 老間五尺〕

一 境内 百七拾五坪 官有地第四種

一 檀徒 八拾五人

大分県管下豊後國東郡岩屋村字ウシノロハ夕

衆福寺末

浄土寺

曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

由緒 白鳳六年三月國朝ノ郡領日名子県守物麻呂ナルモノ創立熊野山浄土寺ト称ス、天台宗ナルニ終ニ中絶、然ルニ曹洞宗長福寺開山無著和尚ノ法孫巖山和尚応永七庚辰正月再興シテ傳宗ニ転ス、中興開山和尚ハ黒衣教許ノ資格タリシ

本堂 堅老間二尺 横五間

〔本 五間 六間〕
〔庫 四間三尺 七間三尺〕

門 堅老間三尺 横老間三尺

〔境内墓守 福壽社 大日蓮〕
〔門 老南敷尺五寸 老西三尺五寸〕

境内 三百三拾九坪 貳百六拾坪

檀徒 四百拾貳人 官有地第四種

檀徒 四百拾貳人

大分県管下豊後國東國東郡赤松村字中村 ヤシキ

泉福寺末 利生寺

曹洞宗

本尊 釈迦牟尼如来

由緒 養老二年仁聞菩薩ノ開基ニテ天台宗南子寺末ノ処中徹タルヲ以テ泉福寺開山無著和尚ノ法孫開山住職巖山和尚再興ニシテ応永五年戊寅六月黒衣教許以降當十九世ニ至ル迄法孫連續ナリ

本堂 堅六間三尺 横五間

〔五間 六間三尺〕
〔庫 四間三尺 横四間八尺〕

本門 堅老間三尺 横老間三尺

〔老間四尺 老南四尺〕
〔老間四尺 老南四尺〕

境内 三百貳拾四坪 官有地第四種

境内 大日堂

本尊 大日如来

由緒 応永六年開山住職巖山和尚創建ニテ村内戸數三戸迄ニ滅却シタルヲ悲歎シ人民ト謀リ天下泰平村内繁栄ヲ祈願シ黒年秋季一晝夜ノ参籠ヲナセシニ即今ニ至テハ一百余戸ノ多キニ及フ

堂 堅貳間 横貳間

〔開基尺 開間尺〕

檀徒 三百八拾七人

大分県管下豊後國東國東郡赤松村字岩竹 ヤシキ
東本願寺末 眞照寺

眞宗東派

本尊 阿彌陀如来

由緒 大同元年空海上人ノ開基ニテ眞言宗ノ処、處長元年住職了專法師東本願寺ニ転宗シ當十五世ニ至ル迄住職相続ナリ

本堂 東西一丈五間三尺 南北一丈五間

〔五間 五間二尺〕
〔庫 東西一丈五間 南北一丈三間三尺〕

本門 東西一丈五間 南北一丈三間三尺

〔三間三尺 五間〕
〔東西一丈五間 南北一丈三間三尺〕

境内 百九拾七坪 民有地〔第一種〕

檀徒 四百六拾五人 〔持主 佐藤那然〕

大分県管下豊後國東國東郡川原村字笹ヶ尾
泉福寺末 常聚院

曹洞宗

本尊 聖観音

由緒 応永十一年年融禪和尚創立、縁由沿革不詳
堂宇 長一丈八間 堅一丈四間 老尺〔本堂 四間 七間三尺〕

境内 九百六拾六坪 官有地〔四種〕

境内仏堂老宇

鎮守堂

本尊 弁財天

由緒 不詳

堂宇 長一丈老間二尺 一丈老間二尺 二間二尺 一間

檀徒 四拾貳人

大分県管下豊後國東郡北江村字芥木

本願寺末 發心寺

真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 不詳 三徳二年傳奉(長徳)

本堂 長一丈三間三尺 横五間 〔本堂 四間二尺 五間 〕

境内 百六拾六坪 民有地 〔第一版 〕 〔持主 谷山雲隠 〕

檀徒 三百八拾人

大分県管下豊後國東郡田深村字前川

本山知恩院末 西林寺

浄土宗

本尊 阿弥陀如来

由緒 慶長三年僧空道開基創建ス、延享年間無住ニシテ殆ント廃絶ニ及シテ

同慶七年僧地阿之ヲ中興ス

堂宇 長一丈五間三尺 横四間三尺 〔本 五間 六間三尺 〕

境内 四百貳拾坪 三百八拾七坪 官有地 〔第四版 〕 〔第一版 二間三尺 〕

境内仏堂老宇

大師堂

本尊 弘法大師

由緒 不詳

堂宇 長一丈三間 横貳間四尺尺寸 〔第一間三尺 二間 〕

〔觀音堂 貳四間 横三間三尺 〕

檀徒 三百人

大分県管下豊後國東郡田深村字下町北側

本山萬壽寺末 千光寺

臨濟宗

本尊 阿弥陀如来

由緒 応永年中僧日峯開基創建ス、寛永九年僧牧庵之ヲ中興ス

本堂 長一丈五間 横四間 〔本堂兼庫 四間 五間三尺 〕

境内 貳百八拾五坪 民有地 〔一區 〕 〔持主 鏡大元 〕

境内仏堂老宇

地藏堂

本尊 地藏菩薩

由緒 不詳

堂宇 長一丈三間 横二間 〔第一間 一丈三尺 〕

檀徒 百五拾人

大分県管下豊後國東郡田深村字古田深

本山西本願寺末 浄念寺

真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 往昔武州戸塚城主福田伊予守藤ノ述レテ此地ニ住ス、其子僧浄念ノ開

基創建スル所ナリ、寛永十五年二月廿三日寺院火災ニ罹リ伝来ノ書類

尽ク焼失シ創建ノ時代殆卒不詳

— 本堂 竪七間 横七間

（東三間 七間）

— 境内 貳百六拾貳坪

（門一四二尺 一間二尺 民有地二種）

— 檀徒 八百九十八人

大分県管下豊後国東国東郡原村字平等寺

中本寺 満壽寺末 平等寺

臨濟宗妙心寺派

— 本尊 観世音菩薩

— 由緒 開山ハ、恩林大和尚ノ創立其他沿革不詳（開山創立）

— 堂宇 竪八間三尺 横四間 （本堂竪 四間 八間三尺）

— 門 竪老間老尺 横老間老尺 （門一間 一間二尺）

— 境内 二百四十九坪 官有地（第四種）

— 境内仏堂老宇

— 虚空藏

— 本尊 虚空藏

— 由緒 不詳

— 堂宇 老間三尺 老間老尺 （二間二尺 一間三尺）

— 檀徒 百六十四人

大分県管下豊後国東国東郡原村字盛

惣本山 山東本願寺末 満壽寺

— 真宗東派

— 本尊 阿弥陀如来

— 由緒 創立ハ天文十九年庚戌年十月俗名森入道法名法信浄土真宗ノ教ヲ受ケ

当寺ヲ開山シ誓現山ト称ス、本願寺住職願如大僧正ノ勅命ヲ受ケ觀シ

ク宗旨ヲ全フシ一寺開山ノ住職ニ適フヲ賞シ手跡ノ如來尊号御義並ニ

法号宗和ト賜フ、開寺以來移動ナシ

— 本堂 長五間 横四間三尺 （四間三尺 五間）

— 庫裏 長四間三尺 横四間 （三間三尺 四間二尺）

— 境内 百七拾四坪 民有地（第一種）（持主 森清流私有）

— 檀徒 百八拾貳人

大分県管下豊後国東国東郡安国寺村字山中

京都妙心寺末 安国寺

臨濟宗妙心寺派

— 本尊 釈迦如来 阿立 東文殊菩薩 西普賢菩薩

— 由緒 開山ニ己知年創立、開山ハ京都嵯峨天龍寺夢窓国師法嗣絶海和尚教賜

佛智廣照浄印親聖国師大和尚尤崇衣着、開山ヨリ三百五十年後妙心寺

末トナリ夫ヨリ年経ル事百九十年

— 本堂 長八間 横五間六合 （本堂竪三尺六寸 八間）

— 山門 長三間 横二間 （門一四三尺 二間）

— 庫裏 長八間 横六間

— 納屋

— 境内 五百八拾老坪 官有地（第四種）

— 檀徒 八百人

大分県管下豊後国東国東郡安国寺村字追

京都妙心寺末 定林院

臨濟宗妙心寺派

— 本尊 正観音菩薩

— 由緒 大友左近将監從四位左衛門^口西^口對統直公末葉出原前治部少輔親宗之關

基ナリ、永和二年ヨリ相統セリ

— 本堂 長七間 横六間 （本堂六間 七間）

山門 長五間 横二間 〔庫 七間 六間〕

庫裏 長七間 横六間 〔庭 一間三尺 一間三尺〕

鐘堂 長二間 横二間 〔山門 一南三尺 二間〕

納廬 〔納廬〕

境内 四百式拾六坪 〔官有地四坪〕

境内仏堂 卷二二宇

釈迦堂

本尊 釈迦如来 今上皇帝聖壽万安障 文殊菩薩 普賢菩薩

速磨大師

由緒 不詳

堂宇 二二間三尺 二二間三尺

〔釈迦堂〕

本尊 釈迦如来 由緒 不詳 堂宇 二間 横一間

檀徒 百三拾九人

大分県管下豊後國東郡東郡鶴川村字西ノ坊

總本山延暦寺末 眞導寺

天台宗

本尊 不動明王

由緒 天徳三年僧空也上人開基創立ニシテ往古ハ大精舎タリ、大友所領ノト

キ殆ント衰微セシヲ僧宥導之ヲ再興ス、明治三年迄西ノ坊ト称シ旧興

導寺末寺ナリシカ、同寺從來樓八幡社備ニシテ同年神仏分離ノ命ヲ奉

シ神職ニ転任ス、依テ興導寺号断滅ニ及フヲ同四年上願シテ寺号興称

官九ヲ蒙リ延暦寺直末トナル、義ニ数字ノ坊中アリシモ漸次類廃シテ

即今一坊ノ存スルナシ

堂宇

東西 二拾間三尺 南北 三間五尺 〔本堂 東西二尺 六間三尺〕

門 東西卷間二尺 南北卷間二尺

〔庫 三間 四間〕

土蔵

境内 貳百拾六坪 官有地 四畝

境内仏堂 卷宇

地藏堂

本尊 火然地藏尊

由緒 右地藏堂ハ旧興導寺中ニ從來在リシ所前兼神仏分離ノ折柄上

願シテ明治六年ニ今興導寺中内ヘ移転ヲナス

堂宇 東西 二間三尺 南北 二間三尺

檀徒 四百六拾八人

大分県管下豊後國東郡小原村字人長

妙心寺末 清水寺

臨濟宗妙心寺派

本尊 觀音菩薩

由緒 往古ト小原ニ在リシカ衰微セシ旭世代ニ次發起ニテ宝永五戊子年丸

忠兵衛一宇ヲ創建シ清水寺ヲ本村ノ中央ニ移転ス、開祖ハ南村繁村兼

徳寺第三世卓宗大和尚也

本堂 長八間 横五間三尺 〔口堂 西間三尺 七間三尺〕

〔口堂 西間三尺 九〕

境内 六百六坪 官有地 一四畝

境内仏堂 卷宇

地藏堂

本尊 地藏菩薩

由緒 不詳

堂宇 長二間 横二間

檀徒 六拾四人

大分県管下豊後國東郡小原村字石生

臨濟宗妙心寺派

安國寺末 保福寺

大師堂

一 本尊 彌師如來

一 由緒 不詳

一 本堂 長六間 横四間三尺 〔本 入三間三尺 横五間三尺〕

一 境内 百四拾五坪 官有地 〔五畝〕

一 境内 仏堂老宇

觀音堂

本尊 觀音菩薩

一 由緒 不詳

一 堂宇 長二間 横老間三尺 〔堂 聖二間三尺 横二間〕

一 信徒 百六拾人

大分県管下豊後國東國東郡小原村字ヒワノキ

本願寺末 教順寺

真宗本願寺派

一 本尊 阿彌陀仏

一 由緒 慶長五庚戌年二月了書開基タリ、〔元龜拾五本詳〕

一 本堂 長九間 横七間三尺 〔本 聖六間 横七間〕

一 庫裡 長六間三尺 横五間三尺 〔庫 四間五〕

〔門 一間三尺方〕

一 境内 三百九拾七坪 民有地 〔二畝〕 持主 加藤林浄名受

一 信徒 六百八

5 境外仏堂明細帳 (明治二三年) ○大分県公文書館蔵

大分県管下豊後國東國東郡岩戸寺村字向嶺治 〔三ノ木林〕

一 本尊 弘法大師

一 由緒 岩戸寺村猪俣追三郎兼父亡伊六ナリ者四国八十八ヶ所巡礼ノ后境内ニ

安設シ、明治十二年十二月廿二日公称

一 堂宇 縱二間 横二間

一 敷地 拾坪 民有地一種 持主 猪俣追三郎

一 信徒 三人

大分県管下豊後國東國東郡岩戸寺村字三七仏

〔明治十八年一月廿一日、金所字百廿八番ノ内一百式拾坪ノ地へ移転許可〕

一 本尊 阿彌陀如來 三拾仏

一 由緒 不詳

一 堂宇 縱二間三尺 横五間

一 敷地 三拾坪 民有地一種 持主 朝位藤平外三人

一 境外所有地 耕地貳畝歩 岩戸寺村字竹ノ西 地価金七円四拾三銭

一 信徒 六拾六人

大分県管下豊後國東國東郡深江村字寺司

泉慶寺末

仏 堂

真宗本願寺派

一 本尊 阿彌陀如來

一 由緒 創立年月日不詳、従前弘興寺ト称シ奉リト雖トモ、明治九年一月御取

調書在任無禮ニテ寺号廃棄シ仏堂ト可称旨同年二月八日御指令

一 堂宇 長三間 横三間

一 敷地 六拾四坪 民有地一種

一 信徒 七拾四人

表3 明治期の行政記録にみる仏堂

村名	小字名	堂名	A	B	C	D	E	F	G	H	村名	小字名	堂名	A	B	C	D	E	F	G	H				
吉野寺	阿部治	大輝堂		○		○				○	吉野寺	松ノ内	高師堂								○				
	三セ仏	三徳仏				○						谷	地蔵堂									○			
	豊沙門	豊沙門堂								○		豊満寺	観音堂										○		
	竹ノ迫	高師堂								○		口早	観音堂											○	
	中ノ坊	観音可仏										春帆寺	観音堂										○		
	竹ノ迫	観音堂											横道	地蔵堂										○	
高原	行者草										愛宕	十三堂										○			
古水戸	石仏										尊厳寺	地蔵堂										○			
東洲	平原	阿弥陀堂								○	東洲	瓜舟	阿弥陀堂										○		
	上寺	文殊堂										向口	観音堂										○		
	丁寺	観音堂										道	地蔵堂										○		
	宮ノ木	観音堂											平	三阿弥										○	
	ユ寺	十三堂											焼田	観音堂										○	
	下ノ	地蔵堂								○			盛俊	高師堂											○
御坊	観音堂										田成	阿弥陀堂											○		
成	大口	大日堂									成	下ケブ	地蔵堂												
	田丘	阿弥陀堂										高尾	観音堂												
	大浜	阿弥陀堂										水ケ尾	宗師堂												
		阿弥陀堂										中尾												○	
	下山	地蔵堂										見継	セシキ	阿弥陀堂			○								○
	松原	観音堂											小野	高師堂											○
松原	行者堂仏										八乙	宗師堂			○								○		
下成仏	寺司	仏堂	○			○						登ノ上	観音堂											○	
	ヤナガ谷	高師堂										阿弥陀堂	阿弥陀堂											○	
瀬江	池邊	観音堂										地蔵山	地蔵堂			○								○	
	番庭	阿弥陀堂										内畑	観音堂											○	
大恩寺	堂寺	観音堂										堂後	堂後堂											○	
	文在	文殊堂	○									堂ノ下	観音堂											○	
東空東	山海	大経寺	○									山重	観音堂											○	
	政友	光照堂			○						横下	長水	宗師堂											○	
	畑	観音堂										深谷	六井堂				○							○	
	堂ノ上	地蔵堂										平塚	観音堂											○	
	狭間	大経堂											堂ノ浦	阿弥陀堂											○
	原	地蔵堂											前山	高師堂											○
堂山	足沙門堂											六平	豊沙門堂											○	
富宗	聖堂	宗師寺	○								富宗	カジキ	阿弥陀堂											○	
	下町	光寺寺	○									横道	地蔵堂											○	
浜崎	瀬道	万弘寺	○									東田	観音堂											○	
	宮成	吉祥寺	○									川ツテ	地蔵堂											○	
山崎	平ノ下	阿弥陀堂							○		赤松	金剛寺	観音堂											○	
	不焼院	高師堂							○			京一	阿弥陀堂				○							○	
鏡川	安ヶ岳	大輝堂										京一	観音堂											○	
	下ノ台	神法寺										千	観音堂											○	
富田	アヤツ	大観堂									小原	イワケ堂	庫堂観音											○	
	神ノ木	宗師堂										平石	大井堂	○(清水)										○	
安閑寺	高次	大観堂										力堂	地蔵堂	○(清水)									○		
	下ノ台	宗師堂										浦へ	地蔵堂	○(保良寺)									○		
	田平	地蔵堂																					○		

※表中のアルファベットは、次の史料を示す。また、○印はその史料に仏堂の名前が見えることを示す。

- A : 明治8年『仏堂集會録』(明治17年『社寺検査記録 東国東部』所収)
 B : 明治11年『社寺管内外次第修験職位之社寺』
 C : 『中興判官諸藩長官之仏堂』(奉天録)
 D : 『豊後国境外仏堂明細録』(奉天録)
 E : 『仏堂系図録』(明治17年『社寺検査記録 東国東部』所収)
 F : 『仏堂目録録』(明治17年『社寺検査記録 東国東部』所収)
 G : 『仏堂系図録』(明治17年『社寺検査記録 東国東部』所収)
 H : 明治23年『豊後国境外仏堂明細録 東国東部』
 ※Aの()内の寺名などは合記された先を示す。
 ※小字名は、史料に記されたものを載せている。

V 石造文化財実測図

ここには国東市国東町に所在する一六世紀までに製作された石造物のうち、指定文化財を中心とする以下の三四点について、種類ごとにわけ写真と実測図を掲載した。

- 1 岩戸寺国東塔(弘安六年八一二八三)、国重要文化財
大字岩戸寺
立地条件などから実測は難しく、実測は当館所蔵の複製を用いた。
- 2 長木家国東塔(元亨元年八一三二一)、国重要文化財
大字東堅来
後掲の鳴1号、3号板碑(8・9・15)、五輪塔二基、石祠一基とともに所在する。
- 3 神宮寺国東塔(建武三年八一三三六)、大分県指定文化財
大字横手
神宮寺の鎮守六所権現前にある。国東塔二基、層塔一基、板碑三基、石祠二基、石礎残欠一基、五輪塔残欠一基分とともにある。
- 4 猪俣家国東塔(南北朝時代、国東市指定文化財)
大字鶴川
古くは、国東市国東町大字大恩寺と伝える。現在、旧国東町歴史民俗資料館前庭にある。相輪は別材。
- 5 高良阿弥陀堂国東塔(室町時代)
大字横手
相輪上部は別材。塔身首部に「十月」の墨書がある。阿弥陀堂境内に、庚申塔二基、石造弘法大師像一基、石造観音菩薩像一基、西四三三ヶ所巡礼供養碑一基、四圍八八ヶ所巡礼供養碑二基とともに並ぶ。
- 6 川原1号板碑(文保三年八一三一九)、大分県指定文化財
大字川原
川原2号板碑(元応二年八一三二〇)、大分県指定文化財
- 7 川原2号板碑(元応二年八一三二〇)、大分県指定文化財
大字川原
これらの板碑は、後掲の川原五輪塔(32)、他五輪塔四基、五輪塔残欠二基分、板碑残欠二基分とともにある。
- 8 鳴1号板碑(元亨元年八一三二一)、国東市指定文化財
大字東堅来
鳴2号板碑(元亨二年八一三二二)、大分県指定文化財
大字東堅来
- 9 鳴2号板碑(元亨二年八一三二二)、大分県指定文化財
大字東堅来
- 10 堀部板碑(正中二年八一三二五)、大分県指定文化財
大字見地
以前は、現所在地の裏山にあった。
- 11 左荘板碑(正中三年八一三二六)、大分県指定文化財
大字赤松
現在は折損。掲載写真は折損前のものである。
- 12 野長谷1号板碑(兼暦二年八一三三七)、大分県指定文化財
大字深江
葉師堂跡とされる所にある。もとは現所在地脇にあったといひ、これを移して現況のように自然石上たてたという。後掲の野長谷2号板碑(18)、その他板碑一基、五輪塔一基、五輪塔残欠二基分とともにある。
- 13 竹ノ上板碑(元弘三年八一三三三)、大分県指定文化財
大字下成仏
異道並縁に伴って現所在地に移動。自然石上に修繕されている。
- 14 圓板碑(建武元年八一三三四)、大分県指定文化財
大字見地
鳴3号板碑(延文三年八一三五八)
- 15 鳴3号板碑(延文三年八一三五八)
大字東堅来
申坊長福寺跡板碑(南北朝時代)
大字来浦
碑身に「真治」の墨書があったというが、現在は判読不能。周囲に五輪塔一〇基、五輪塔残欠四基分がある。
- 16 申坊長福寺跡板碑(南北朝時代)
大字来浦
一〇基、五輪塔残欠四基分がある。
- 17 東堅来板碑(南北朝時代、国東市指定文化財)
大字東堅来
野長谷2号板碑(南北朝時代)
大字深江
- 18 野長谷2号板碑(南北朝時代)
大字深江
岩戸寺板碑(南北朝・室町時代)
大字岩戸寺
- 19 岩戸寺板碑(南北朝・室町時代)
大字岩戸寺
岩戸寺国東塔が建つ自然石にたてかけられたような状況にある。
- 20 来浦宝篋印塔(鎌倉末・南北朝時代、大分県指定文化財)
大字来浦
追家宝篋印塔(南北朝時代、国東市指定文化財)
大字岩戸寺
- 21 追家宝篋印塔(南北朝時代、国東市指定文化財)
大字岩戸寺
岩戸寺の末坊の一つである追家の故地とされる地に所在する。追家には、この他に五輪塔三基、板碑二基、折損板碑一基分がある。
- 22 岩戸寺宝篋印塔(南北朝時代)
大字岩戸寺
大日堂宝篋印塔(南北朝時代)
大字浜
- 23 大日堂宝篋印塔(南北朝時代)
大字浜
五輪塔残欠六基分、庚申塔一基、石祠二基、百万遍供養塔一基、石礎残欠一基分とともにある。
- 24 申坊観音堂宝篋印塔(室町時代)
大字来浦

25 五仏寺玉置印塔（南北朝時代、国東市指定文化財）

26 朝日観音堂跡玉置印塔（南北朝・室町時代）

27 成仏山神社玉置印塔（室町時代）

古くは内畑観音堂に所在したと伝える。右の25・26は、当博物館の六郷山寺院遺構確認調査の結果を用いた。

28 向畑角塔婆（大分県指定文化財）

以前は、現所在地近くの山頂部にあったという。

29 岩戸寺石幢（文明一〇年八一四七八、大分県指定文化財）

30 岩戸寺坊中五輪塔（鎌倉末〜南北朝時代）

31 大日五輪塔（南北朝時代）

空・風輪は別材。五輪塔残欠四基分ともにある。もとは、現所在地近くの「ツカ」と呼ばれる所であった。五輪塔の種子が本来の配列と異なるが、これは移転時に地輪が本来の配列と異なる構え方をしたためである。実測図は現況のままとした。

32 川原五輪塔（南北朝時代）

かつて倒伏したことがあるという。復原時に各部位が本来の配列で揃えられなかったため、種子の配列も異なっている。実測図は現況のままとした。

33 高良阿弥陀堂1号五輪塔（室町時代）

34 高良阿弥陀堂2号五輪塔（室町時代）

右二点は、高良阿弥陀堂境内の岩窟内に所在する。岩窟内には、五輪塔二八基、五輪塔残欠一〇基分、石仏二五基などがある。

とところで、以上の石造文化財のうち、宝篋印塔と五輪塔については現段階で紀

年銘があるものを確認できていない。そのため、詳細な年代比定は難しく、今回は資料の提示を第一義とした。ここに示した、宝篋印塔と五輪塔の年代は現段階

での試案であることをお祈りしておきたい。なお、宝篋印塔については八点の実

測図を掲載したが、うち五点は赤浦川流域（六手浜、赤浦、岩戸寺）に所在、三

点は田深川上流域（大字見地・成仏）に所在する。今回は、地域史や石工集団の

相違などが想定されるため、流域ごとに資料をまとめ（赤浦川流域20・24、田深

川上流域25・27）、各々で編年案を提示した。

ここで簡単に、石造物調査を通して得られた現状での知見を一、二点述べて

おきたい。

まず板碑については、国東郷域には一四世紀初から半ばの紀年銘のある板碑が

多く分布することが挙げられる。その中で注目すべきものとして、元年二年銘の

鳴板碑（鳴2号板碑）がある。この板碑は総高三五〇cmをこえる。大分県内でも

最大の板碑である。同板碑は次のような特徴を有する。

①頂部にむかう縦線が弧を描く。

②頸部両端に面取部がある。

③頸部と碑身は前面にむかつてふくらみをもつ。

④側面からみると、猫背のような形状をとり、反りをみせる。

⑤側面後面には割付線が残り、割付線外側（背面）は未成形のままである。

⑥背面と左右側面には鬘瓶がのこる。

⑦側面に割付線とみられる条線がのこる。

上記の特徴のうち、まず注目すべきものは①④である。国東郷域で鳴2号板

碑に先行する川原板碑2点や鳴1号板碑、あるいは大分県内最古級の板碑である

護聖寺（国東市安岐町）所在の板碑（正元元年八一二九一）をみると、鳴1号

板碑で②が確認できる以外、①④をみることはできない。特に、④のような測

面からみた時反りがある形状は国東半島域の板碑に多いが、このような側面観は

鳴2号板碑を初見とする。

また、上記の特徴のうち、①は堀部板碑・竹ノ上板碑・野長谷1号板碑に、②

は右の3つと岡板碑に、③は右の4つの板碑、④は堀部板碑・野長谷1号板碑・

岡板碑にみることができ、これらの板碑が鳴2号板碑と同一工人の手になるも

のかについては厳密に言えば不明だが、複数の特徴を兼ね備えるという事実は興

味深く、これらがきわめて近い関係、すなわち同一工場の作になる可能性は否定

できない。こうした観点から、鳴2号板碑は国東半島に分布する板碑の「最重要標識資料」として位置づけられるよう。ちなみに、板碑の製作過程については、上述したように鳴2号板碑には設計線とおぼしき条線が残り、一つの石材を加工してゆく様子を知ることができる。加えて、板碑の製作過程などを通る上で重要な資料としては他に東堅来板碑がある。これは後掲の実測図にある通り、大きな石材の一面に連碑を刻んでいるが、背面にも製作途中とみられる板碑があり、両側面に割付線とも推測される条線がある。こうした痕跡の検討解明は今後の課題としたいが、石造物研究にとって興味深い資料である。

次に、五輪塔について、国東半島域には総高一〇〇cmをこえる五輪塔が所在することである。国東半島域に五輪塔は多いが、例えば壺戸幸坊中五輪塔(30)のような総高一五〇cm近くをはかるものは少ない。実測図には、大型五輪塔を三点掲載した。前述したが、こうした五輪塔については資料の蓄積および他地域の五輪塔の比較検討によって詳細な年代比定が課題である。また、高良阿弥陀堂所在の二基の五輪塔は一石造で、古くは石田茂作氏が指摘され、近年狭川真一氏が検討を加えられた「唯合式五輪塔」である。ここでは、資料の提示に留め、高良阿弥陀堂所在の「唯合式五輪塔」の系譜を追究することは今後の課題としたい。

なお、最後に一点付言すると、前で触れたように宝篋印塔は来清川流域に多く残されていることが注目される。同川流域は、国東半島における宝篋印塔の密集地といえる。この他、同川流域の申坊観音堂(24)が所在。には、康安二年(一三六二)銘の宝篋印塔が所在した。これは望月友房氏の著書「大分の石造美術」(本耳社 一九七五年)に写真などが掲載されているが、今回実測図を提示した同川流域の宝篋印塔とは異なり、隅飾が小さく、相輪下部には銘盤がないという。こうした点を含めて、宝篋印塔の細年は国東半島の石造文化財の大きな課題である。

(櫻井 成昭)

注

(1) なかでも、野長谷1号板碑は側面からみた時、前面から頂部に向かう様

線が大きくカーブする。これと同様の形状をとるものが、間板碑と同一地に所在する。野長谷2号板碑がそれである。ここから、両板碑は同一工房の製作になることが予想できる。

(2) 狭川真一「唯合式五輪塔考」(『日引』第六号 二〇〇五年)。

凡例

- 1 以下では、石造物の種類)とに分け、各種類において年代順に配列した。
- 1 石造物の名称については、例えば各種指定文化財でも異なる「板碑」と「板碑」、あるいは「宝塔」と「国東塔」というように名称の表現に齟齬がある。そこで、以下では指定名称を基本としたが、指定名称のみで所在地を特定できない場合は慣用的に使われている名称を用いた。また、いわゆる国東塔については、「国東塔」で名称を統一した。
- 1 無指定文化財については、石造物種類名の前に「神社堂宇名」や「所在兼番名」や「小字名」といった場所を特定できる名称を冠した。
- 1 掲載図面の縮尺は原則二〇分の一であるが、30以下の五輪塔については一〇分の一である。
- 1 同一地点に単一の石造物が複数ある場合、指定の有無にかかわらず、以下では年代順に1号、2号と各付けた。
- 1 図版の順序は、紙幅の都合から必ずしも番号順になっていない。
- 1 現状で明らかに別材が組み合わされている場合、別材部分は図化していない。板碑の線盤や梵字の裏面影の線など、実測にあたって現状で観察できなかった箇所は表現しなかった。

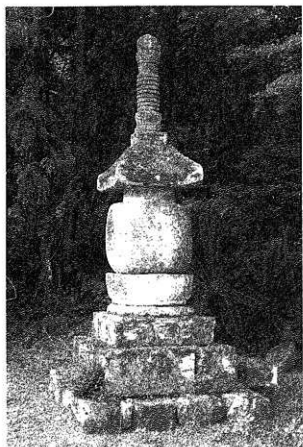


写真4 長木家園東塔

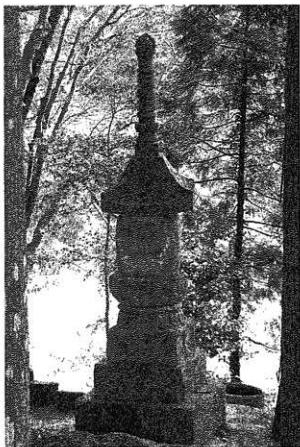


写真3 岩戸寺園東塔

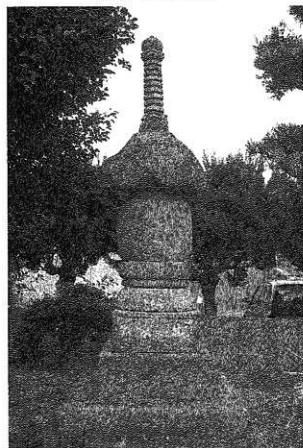


写真6 猪俣家園東塔



写真5 神宮寺園東塔



写真8 川原板碑（右1号、左2号）



写真7 高良阿弥陀堂園東塔



写真10 鴨2号板碑



写真9 鴨1号板碑



写真12 左狂板碑



写真11 堀部板碑



写真14 竹ノ上板碑

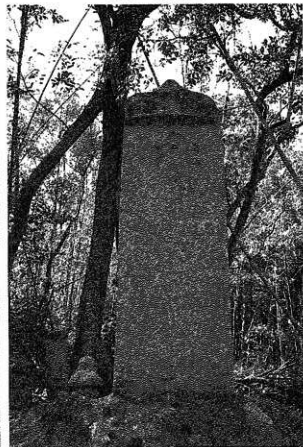


写真13 野長谷1号板碑

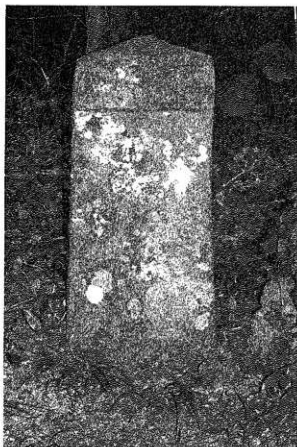


写真 16 嶋3号板碑

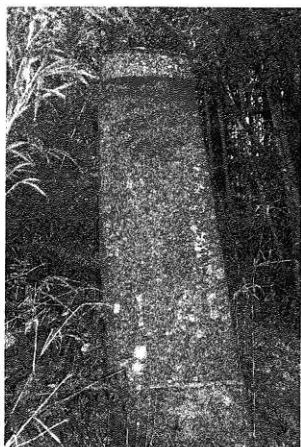


写真 15 岡板碑

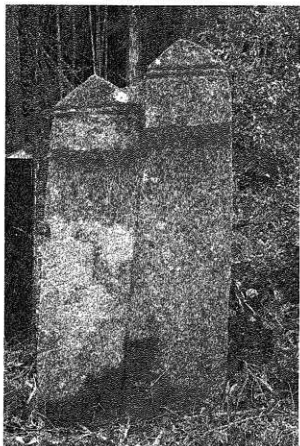


写真 18 東壘来板碑 (正面)



写真 17 申坊長福寺跡板碑



写真 20 野長谷板碑 2号



写真 19 東堅来板碑 (左側面)

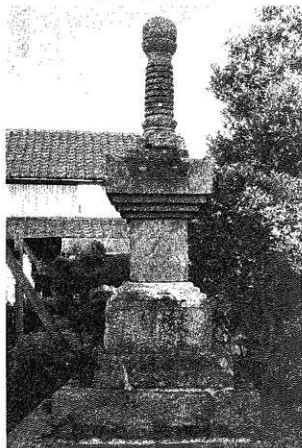


写真 22 来浦宝篋印塔



写真 21 岩戸寺板碑



写真 24 岩戸寺宝篋印塔

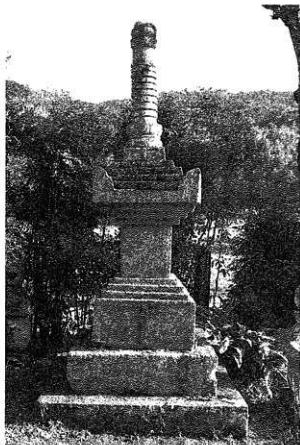


写真 23 追家宝篋印塔



写真 26 申坊観音堂宝篋印塔



写真 25 浜大日堂宝篋印塔

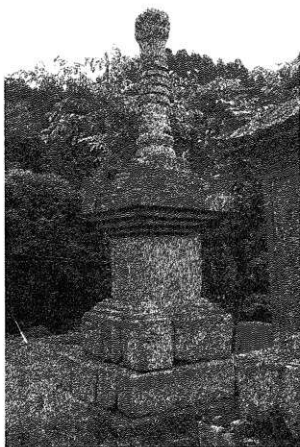


写真 28 朝日観音堂跡宝篋印塔



写真 27 五林寺宝篋印塔



写真 30 向畑角塔婆



写真 29 成仏山神社宝篋印塔



写真 32 岩戸寺坊中五輪塔

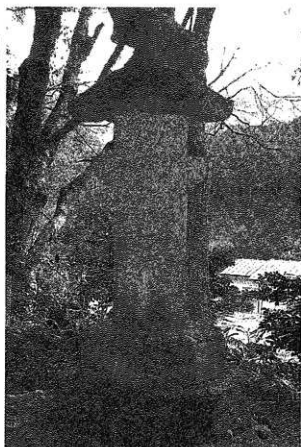


写真 31 岩戸寺石幢



写真 34 川原五輪塔



写真 33 大日五輪塔



写真 35 高良阿弥陀堂 1号五輪塔

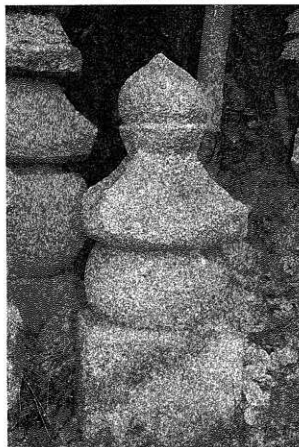
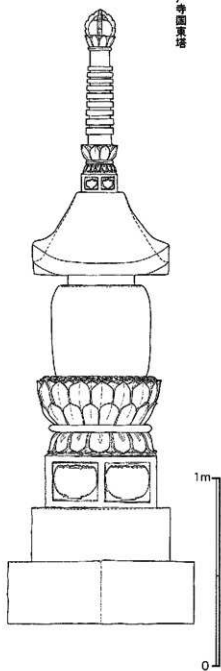


写真 36 高良阿弥陀堂 2号五輪塔

圖1 岩戸寺圓東塔



△塔身陰刻銘▽

如法疑奉納石塔一基

右志者為南山平安

仏法興隆弘作修善

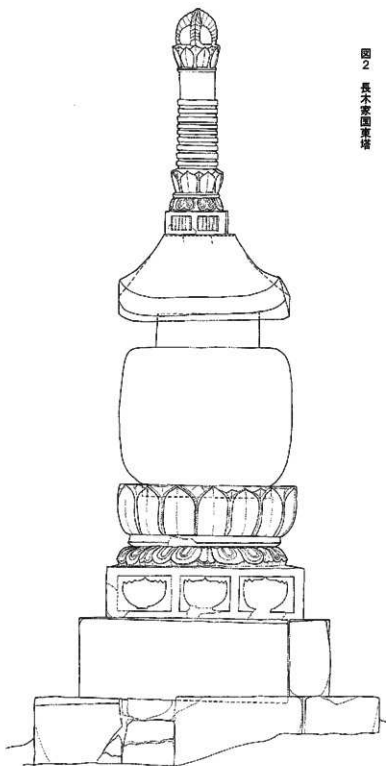
乃至法界平等利益

弘安六年大觀口未九月日

大勸進金剛仏子尊忍

造立者專日坊

圖2 長木家園東塔



△塔身陰刻銘▽

去生生死本

無跡七十余

即歸夢中

麗口是誰

真面目口成

地水火風空

千壽

元亨元年歲次辛酉

小春十八日

右策門樹

紀 水貞

起立之

大工齋

華口

圖3 神宮寺圓東塔



△塔身陰刻銘▽

右志越者為天

下太平万民安

東当山繁昌所

顯成就乃垂法

界平等利益也

建武三年八月一日

造立者良法

敬白

圖4 猪俣家圓東塔

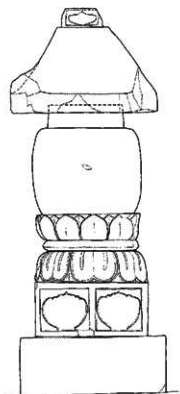


圖5 高良阿弥陀堂圓真塔

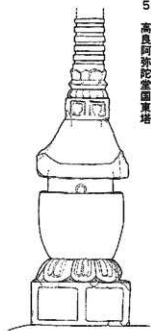
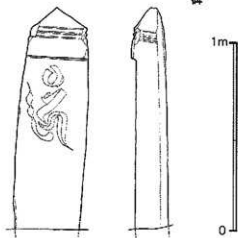
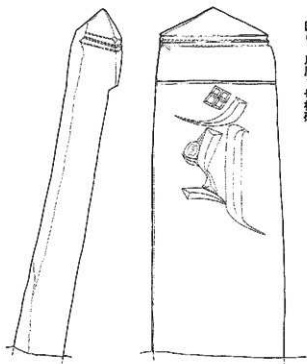


圖7 川原2号板碑



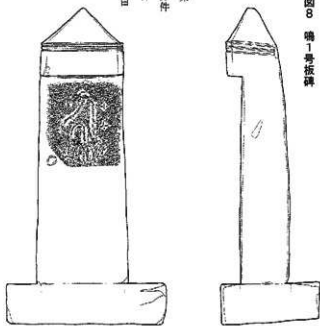
△碑身彫刻銘
 為沙弥心蓮一師忌追善
 (ウ) 元応二年庚申初夏六日
 大願主孝子等敬白

圖6 川原1号板碑



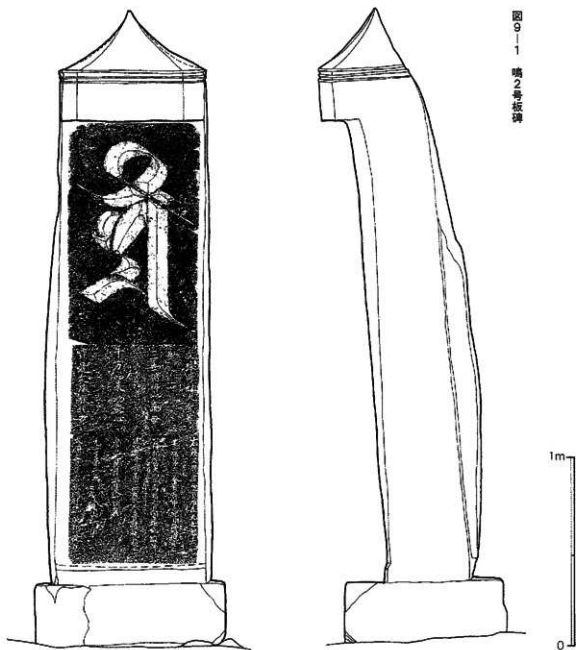
△碑身彫刻銘
 右為忍匠尼相常期
 三願之慈誠建立如件
 (マ) 文保三年二月廿七日
 大願主孝子敬白

圖8 崎1号板碑



△碑身彫刻銘
 石有星葉障
 無生淨土國
 (キ) 元応第三閏卯月四日大願主
 兼沙弥心力 沙弥西真
 必生安樂國

圖9-1 晴2号墓碑



△碑身陰刻銘▽

文殊師利大覺尊 右慈父覺慈西貢進生死之習念以
 (マシ) 三世諸佛以為母 元亨第三天皇年中之九日忽得四版也
 十方如來始發心 以降相與大聖御罪之日開道立石佛
 皆是文殊教化力 述覺母蓮子之供養慈發彼菩提之
 庶口良口善及一切矣

元亨第二天龍次壬戌八月六日

大願主長水右衛門尉紀木實敬白

図9-2 喰板碑2号完成予想図

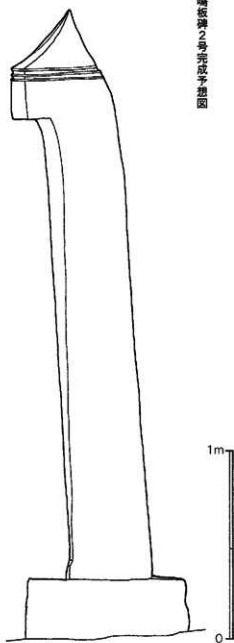
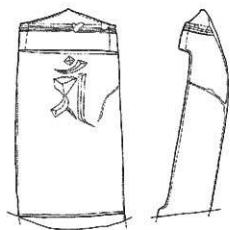


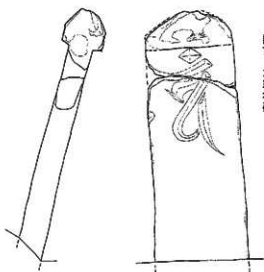
図10 廻部板碑



△碑身陸奥銘▽

(マ) 正徳二年十一月下旬
 孝子大法師真然 大法師然和

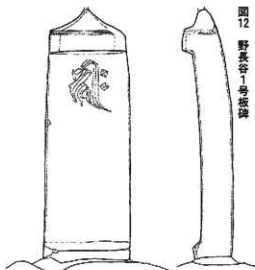
図11 左柱板碑



△碑身陸奥銘▽

(バ) 正伸三〇年 七月
 十五日

图12 野長谷1号板碑



△碑身陰刻銘

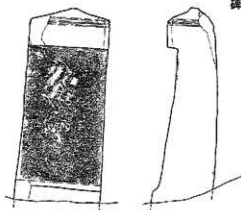
一念弥陀仏
(キリー乙) 即滅無量罪
理受無此業
後生南浄土

遠立者紀之子□□

嘉曆二年□□二月廿九日

右忠者□□□□地成虎□□

图15 鳴3号板碑



△碑身陰刻銘

沙弥西口
(キリー乙) 延文三年二月被葬

图13 竹ノ上板碑

△碑身陰刻銘

(キリー乙) 元弘三年十月□□

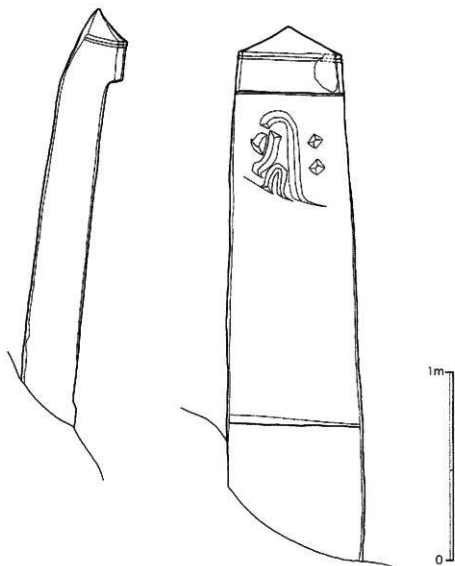
图16 申坊長福寺跡板碑

△碑身陰刻銘

十方諸仏
(キリー乙) 一切積善願
普瓦阿弥陀

貞□

- 191 -



△碑身彫刻銘▽

右志者亡父建十三年之

清息所四八和之妙泉所享

(キリーク) 昔八輪妙文所稱奉大日

滿聖形殊竹園得運運並不陳

建武元年四月七日 然秀敬白

圖17 東壑木板碑

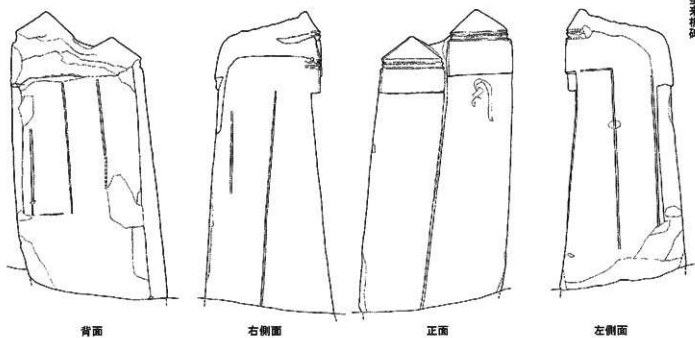


圖19 岩戸寺板碑

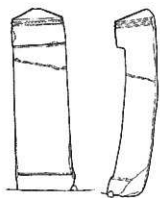


圖18 野良谷2号板碑

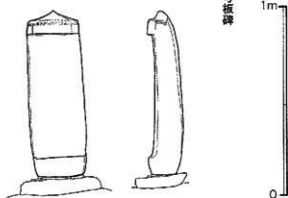


图20 来涌宝篋印塔

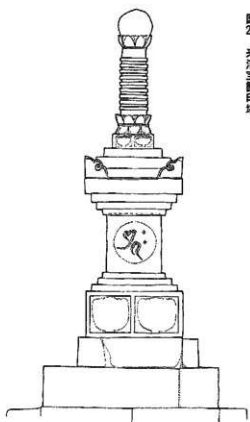


图22 岩戸寺宝篋印塔

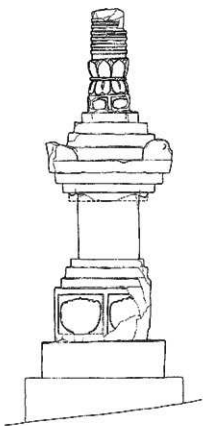


图21 迫家宝篋印塔

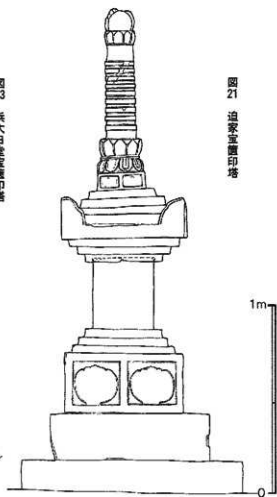


图23 浜大日堂宝篋印塔

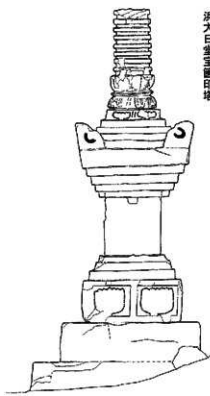


图24 申坊観音堂宝篋印塔

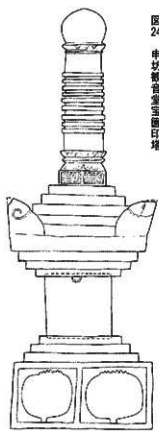


圖 25 玉林寺寶圓印塔

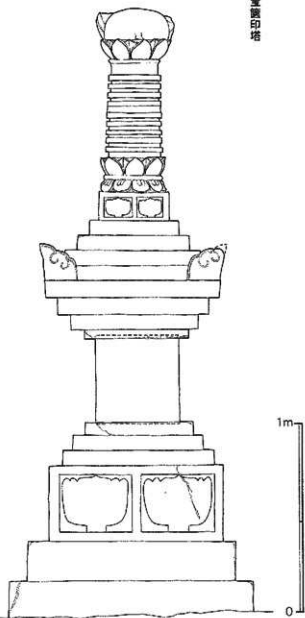


圖 26 朝日觀音堂寶圓印塔

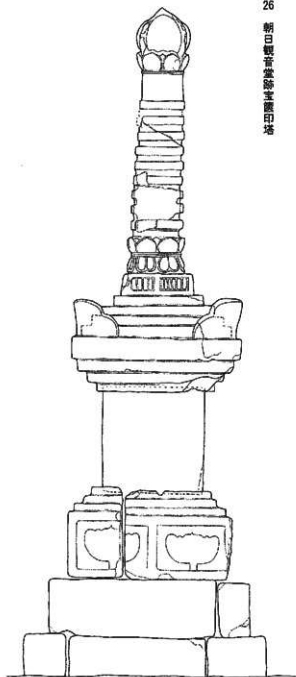


圖27 成仏山神社宝篋印塔

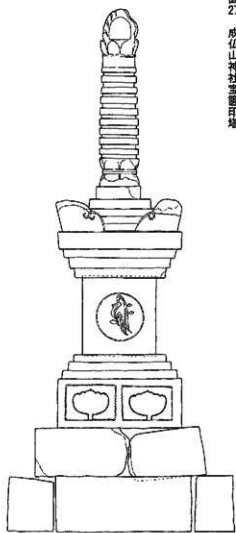


圖28 向燈角塔婆

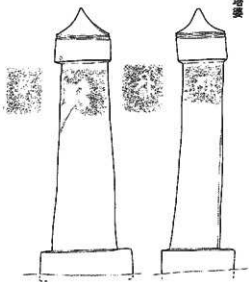
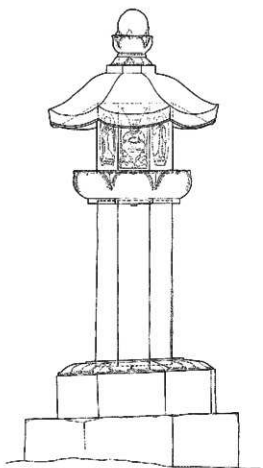


圖29 岩戸寺石燈



△字部除無銘▽

權少僧部家院為明証言佛弟子敬白

文明十年戊戌十月九日

蓋範為現北宮院後生寄處

图30 岩戸寺坊中五輪塔

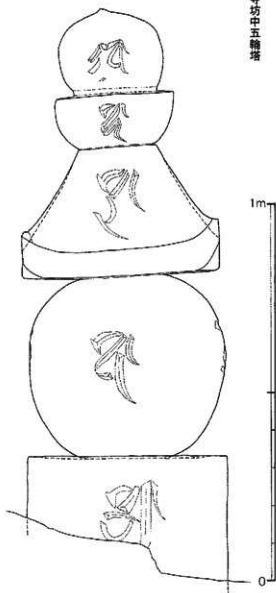


图31 大日五輪塔

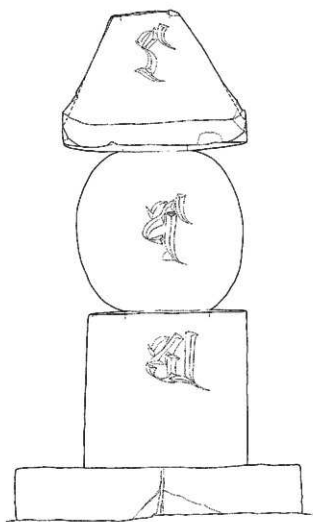


图 34 高良阿弥陀堂 2号五輪塔

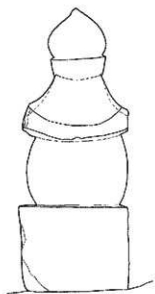


图 33 高良阿弥陀堂 1号五輪塔

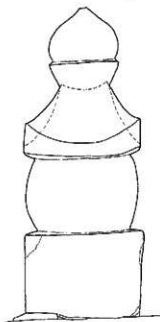
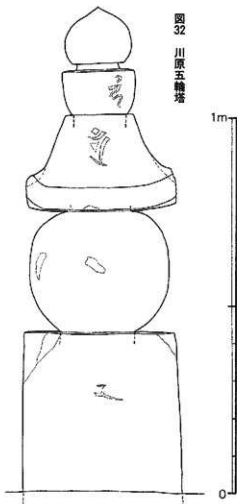


图 32 川原五輪塔



報 告 書 抄 録

ふりがな	ぶんごのくにくにさきごうのちょうさ しりょうへん							
書名	豊後国国東郷の調査 資料編							
シリーズ名	大分県立歴史博物館報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	櫻井成昭							
編集機関	大分県立歴史博物館							
所在地	〒872-0101 大分県宇佐市大字高森字京塚							
発行年月日	2008年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
安岐郷	大分県	44214				040401		遺跡詳細 分布調査
	国東市					5		
	国東町					090331		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項			
安岐郷	荘園村落	中世～近代						

大分県立歴史博物館

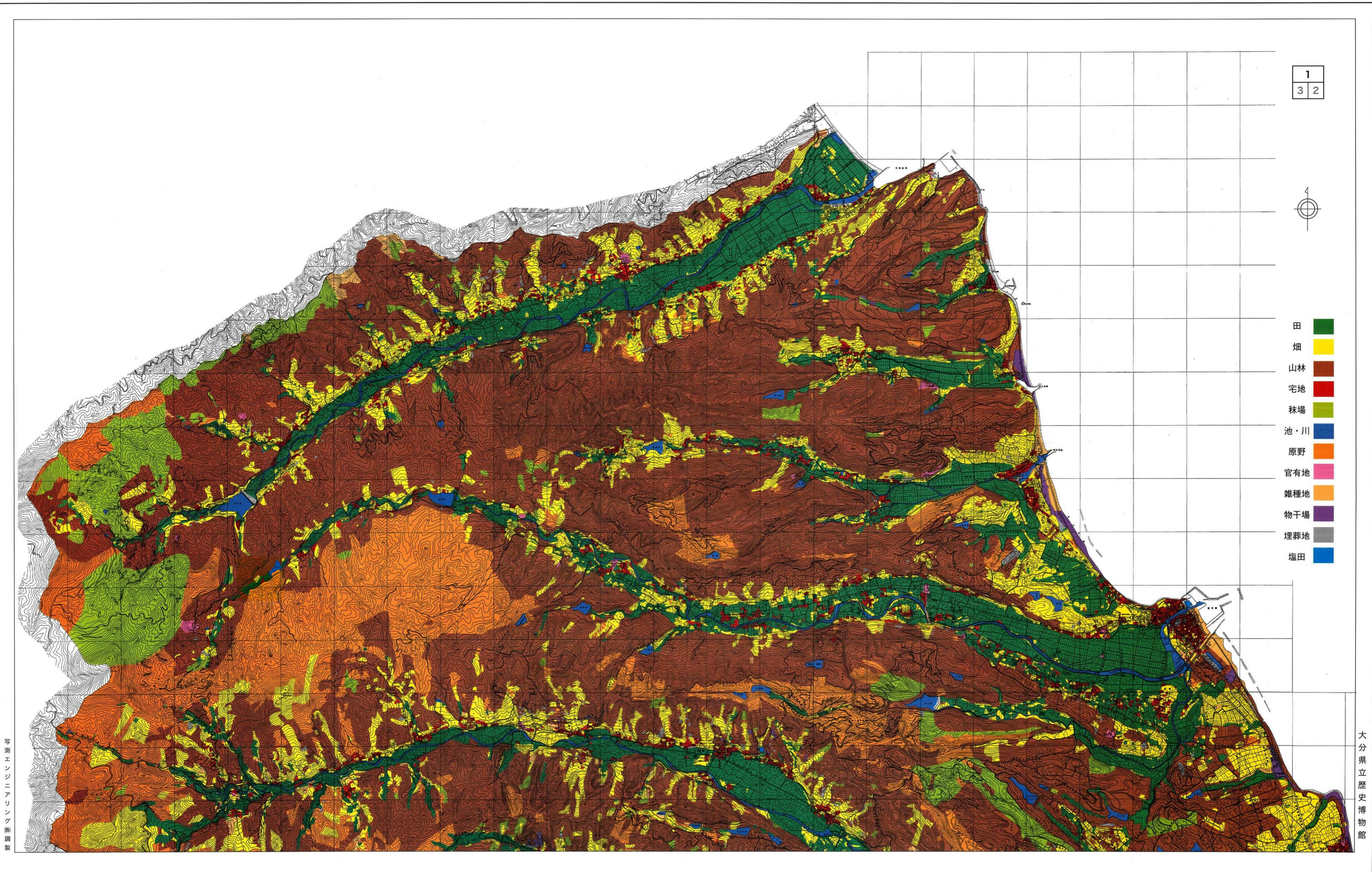
報告書第10集

豊後國東郷の調査 資料編

発行日 平成20年3月31日
発行 大分県立歴史博物館
宇佐市大字高森字京塚 〒872-0101
Tel 0978 (37) 2100
印刷 明治印刷株式会社
大分県宇佐市長洲607
Tel 0978 (38) 0135

豊後國東郷の調査 資料編

付図A-1 明治期国東郷域土地利用図(1)



1
3 2



- 田
- 畑
- 山林
- 宅地
- 秣場
- 池・川
- 原野
- 官有地
- 雑種地
- 物干場
- 埋葬地
- 塩田

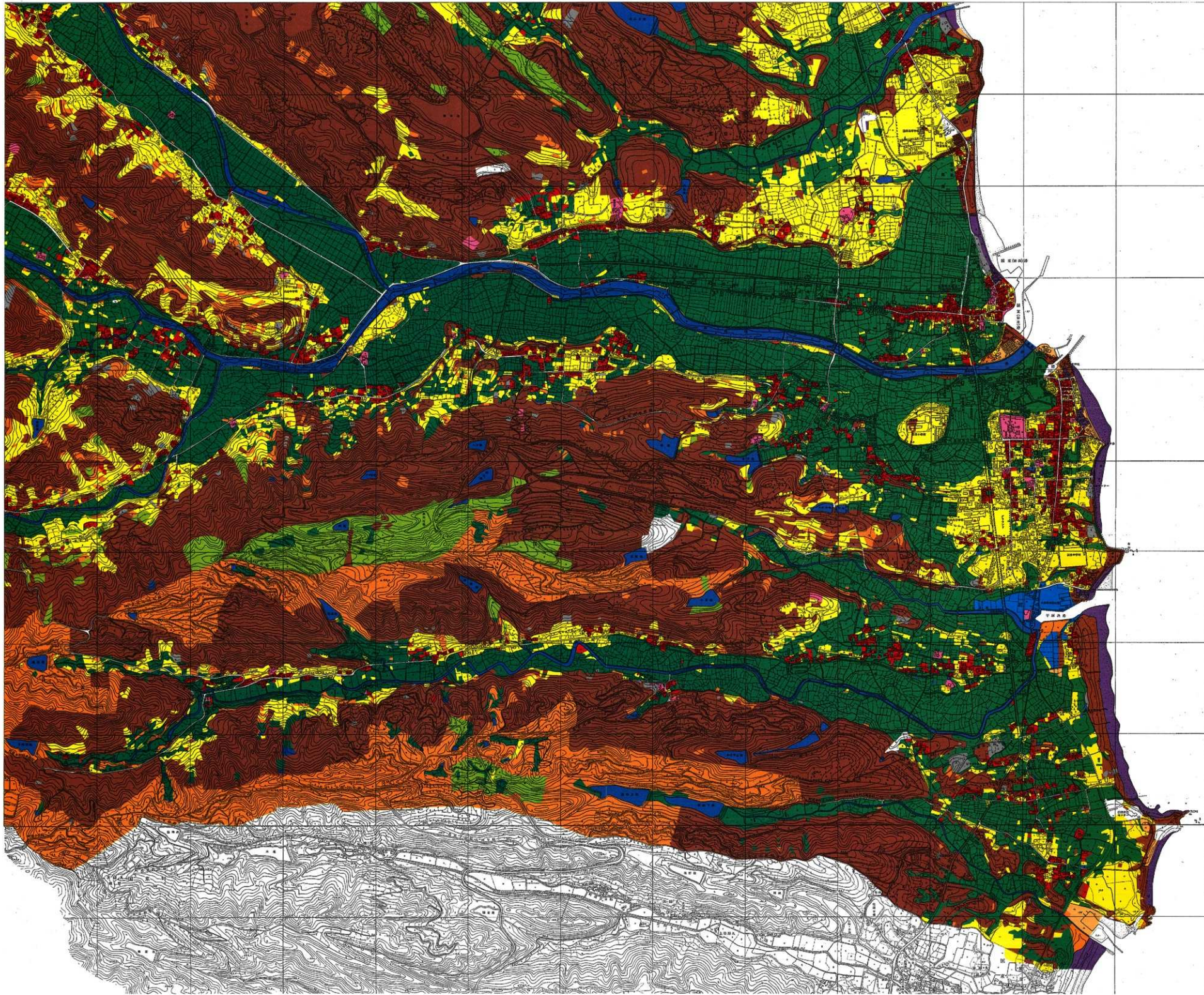
写測エンジニアリング 製

大分県立歴史博物館

1:13,000

【この地図は、大分県知事の承認を得て5,000分の1縮尺基本図を複製したものである。
(承認番号 第16-4平成16年5月18日) (承認番号 第14-1平成14年6月27日)】

付図A-2 明治期国東郷域土地利用図(2)



1	
3	2



- 田
- 畑
- 山林
- 宅地
- 秣場
- 池・川
- 原野
- 官有地
- 雑種地
- 物干場
- 埋葬地
- 塩田

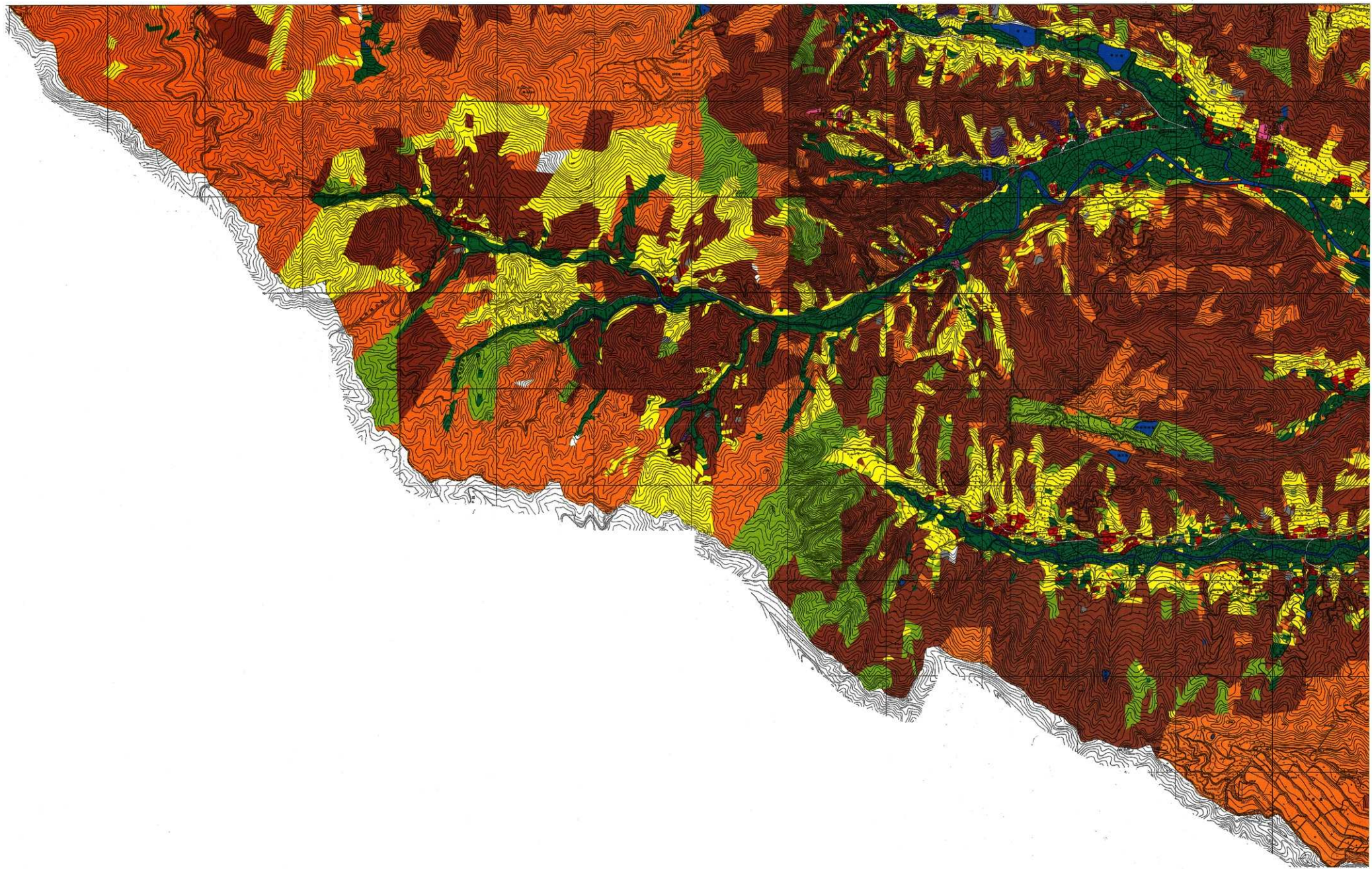
大分県立歴史博物館

写測エンジニアリング株式会社調製



「この地図は、大分県知事の承認を得て5,000分の1森林基本図を複製したものである。
(承認番号 林16-4平成16年5月18日) (承認番号 林14-1平成14年6月27日)」

付図A-3 明治期国東郷域土地利用図(3)



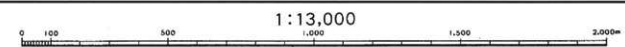
1	2
3	4



- 田
- 畑
- 山林
- 宅地
- 秣場
- 池・川
- 原野
- 官有地
- 雑種地
- 物干場
- 埋葬地
- 塩田

写測エンジニアリング 株式会社 調製

大分県立歴史博物館



「この地図は、大分県知事の承認を得て5,000分の1森林基本図を複製したものである。
 (承認番号 林16-4平成16年5月18日) (承認番号 林14-1平成14年6月27日)」